

〔資料〕

惟宝蓮体『真言礦石集』翻刻と解題（その四）

関口 静雄・寺津 麻理絵

〔解題5〕『真言礦石集』第三版の巻一第一話について

おそらく蓮体は『真言礦石集』を、その師覚彦浄嚴が徳川五代將軍綱吉の信任と柳沢吉保の帰依を得て、幕命によって元禄四年（一六九二）八月、江戸湯島に如法真言律宗の総本山たる宝林山靈雲寺を開山した、その祝意を表する意図をもって上梓したものとされる。それは同集の叙が元禄五年孟春一月に記され、翌六年正月に版行されていることから明らかだろう。管見によれば、『真言礦石集』は少なくとも三度版行されている。『真言礦石集』に後印本が存することは、すでに寺津麻理絵が「解題2」に指摘しているが、ここで一応の整理をしておきたい。

第一回目の版行を初版、二回目の版行を二版、三回目の版行を三版とすれば、このたび翻刻の底本とした宮島コレクション所蔵の四冊本は初版本だったと思われる。これには四冊目の奥付に次のような刊記がある。

元禄六歳正月下旬

大坂立賣堀阿波橋町

小嶋 九郎兵衛版行

大坂北御堂前

書林 毛利田庄太郎繡版

京富小路佛光寺上ル

中河喜兵衛鏤梓

三軒の書肆が名を連ね、それぞれに役割があったはずだと思われるが、小嶋の「版行」、毛利田の「繡版」、中河の「鏤梓」について、その意味合い

を探ってみても辞書的知識による推量の域を出ない。

この初版本は後印の第二版・第三版と決定的に相違する。版型が相違するのである。袋綴を解いた時、一紙の大きさは、初版が縦二七六・横三九六^ミであるのに対して、第二版・第三版は縦二五九・横三七二^ミであり、郭棹も初版が柱を挟んで半丁縦二二二・横一五二^ミであるのに対して、第二版・第三版は縦二一五・横一四九^ミで、従って文字の大きさ・字間・行間が初版に比べて第二版・第三版は縮小されていて、これが何時、いかなる理由によるものか、新たに彫り直されたものだと理解されるのである。また、初版・二版・三版はすべて、その発行年月を「元禄六歳正月下旬」として同一であるが、第二版の出版書肆は、

大坂北御堂前

書林 毛利田庄太郎繡版

京富小路佛光寺上ル

中河喜兵衛鏤梓

とあって、小嶋九郎兵衛が消え、毛利田庄太郎と中河喜兵衛の二書肆の版行となっており、第三版は、

大坂北御堂前

書林 毛利田庄太郎繡版

とあって、中河喜兵衛も消え、毛利田庄太郎単独の版行になっている。

こうした事情の推移を推測してみると、おそらく、『真言礦石集』初版の主版元は小嶋九郎兵衛が所有していたのだらうと思われる。それが再販

ということになった時、三書肆の共同刊行という合意が成立せず、加えて小嶋九郎兵衛が版權を毛利田庄太郎・中河喜兵衛に譲らなかつたので、毛利田・中河の二書肆は止むを得ず、初版をもとに、これを一回り縮小した版型の版面を新たに彫り、二書肆連名で刊行したものと推量されるのである。なおまた、第二版と第三版にも大きな相違点が存する。巻一の第一話、

すなわち惟宝蓮体の著作として初めて刊行された『真言礦石集』の冒頭を飾る、その第一話が相違するのである。初版と第二版はともに、「礦石集第一」として「地藏菩薩女人ノ横死ヲ救ヒ玉フ事」を載せているが、第三版は「真言礦石集第一、蓮體輯」と改めたうえで「地藏菩薩種々利益ノ事」を載せている。内題等に変更があり、第一話が差し替えられているのである。

このことについて、寺津は先の「解題2」で、天和年中に実際にあつた話として地藏菩薩による女人救済の話である「地藏菩薩女人ノ横死ヲ救ヒ玉フ事」を「地藏菩薩種々利益ノ事」に差し替えたのは、「地藏菩薩の本生を説き、これから語り出される地藏菩薩の靈驗譚へ繋がりを持たせようとしたもの」と説明している。そのとおりであろうと思われる。この説明に、さらに言辞を加えるならば、それは蓮体と地藏寺を取り巻く環境に変化があつたことを指摘できる。

河内長野市清水に所在する九華山地蔵寺は、南海高野線千早口駅の南西約五〇〇坪ほどのところ、河内長野から紀州高野山へ抜ける山中にあつて、寺号が示すように、本堂には仏師運長作と伝わる地藏菩薩半跏像が安置され、地藏信仰の名刹として知られている。師浄嚴の命によって河内に戻り、延命寺を再興した蓮体は、正徳五年（一七一五）五十三歳の十月に郷里清水村の地藏寺を正式に如法真言律寺と定め、新造の地藏菩薩を祀って新たに玉井山地蔵寺と称し、ここに退隱した。

当時、清水村支配の西代藩主本多忠統は、のちに伊勢神戸藩初代藩主となり、江戸幕府の若年寄として享保の改革期における幕政に参与し、また猗蘭侯と称して書画・儒学・茶道に通じた文人大名としても知られた人物で、忠統は地藏寺周辺の景観を好み、中国の九華山に見立ててしばしば詩

作に興じたという。蓮体とも深い親交があり、享保二年（一七一七）、忠統は地藏寺に九華山の山号を贈った。九華山は中国安徽省にある地藏菩薩の靈場で、五台山・普陀山・峨眉山とともに古今中国の四大仏教聖地として知られている。蓮体も九華山の山号を気に入つたのであろう、さっそく玉井山を改めて九華山としている。

おそらく、藩主本多忠統から山号を贈られ、九華山に改めたことが巻一第一話を変更した理由であつたと思われる。変更した「地藏菩薩種々利益ノ事」には、地藏の本生と真丹の九華山について縷々説き記し、次いで高野山諸院に祀られる地藏菩薩の靈驗を『高野山通念集』に依拠して記している。高野山上の地藏靈驗利益譚は、高野往還の道筋に止住する蓮体の高祖空海に対する崇敬心を表し、真丹の九華山についての詳述は、山号を贈りくれた藩主忠統への謝意を表しているように思われる。なお、「地藏菩薩種々利益ノ事」七丁は基本的に単郭であつて、これのみ新たに版を起したものである。とすれば、これが『真言礦石集』に収めた蓮体の最新作であつたことは云うを俟たない。

なお、底本とした宮島コレクション蔵四冊本は初版であるが、第四冊目の末二十三丁から二十七丁の五紙は、影印によつても明らかなように、第二版・第三版と同じ版型である。どうしてそうした繕いがなされたものであろうか。

この四冊本を所持していたのは「安祥末資普照房」で、裏表紙見返の書付によると、「文政九年（一八二六）七月朔日、讃岐高松城下で大疏（大日経疏）の広伝が開かれた。数年来待ち望んでいたので出席した。その砌、（この四冊本を）買い求めたのだ」という。いかにも大疏広伝の会場で販売されていたという書きぶりである。しかし、初版版行の元禄六年（一六九三）から一三〇余年も経っている。だがしかし、普照房の書付の通りだとすれば、在庫を抱える書肆が初版に後版を補い繕つた理由もおぼろげに垣間見えそうである。

（関口静雄）

「解題6」 蓮体と教清

1 心中の楽しみいくばくぞや

惟宝蓮体撰『真言礦石集』（元禄六年（一六九三）刊）の第四冊目には高僧の靈驗譚が多く収録されているが、そのなかには知られざる、ほとんど無名と言ってよい僧が採録されている。「安宅の教清」と記された僧は、高野聖の祖である教懐、書写山の性空の甥である池上の皇慶といった平安期の高僧や、早逝した浄嚴の弟子の希勤、生駒宝山寺の湛海など、浄嚴・蓮体と交流があった僧と並び、多くの紙面を費やし収録されている。

教清（一六三四—一六九三）はまたは永徳と号し、讃岐国白鳥の浄土宗本願寺派の松雲山教蓮寺（現、香川県東かがわ市松原）の三世であった。妻子を残し、讃岐国白鳥の播磨灘に面した岩窟に入り、朝もなく夜もなく臥したという教清の行状は、波にさらわれて大海に漂っても死することなく元に戻ったなど、数々の伝説めいた話に彩られ伝えられているが、それらを広く知らしめんとしたのは、他でもない蓮体である。

蓮体は貞享二年（一六八五）の春の高松寓居の折りに、実際に教清を訪ねたとして、その時の見聞を事細かに『礦石集』に記している。上田進城師の「蓮体和尚」の同年の項によってみれば、「貞享二年蓮体師二十三才の春天資の英智絶倫にして正に才気煥発の時である、出で外典を究めむと志し笈を負ふて浪花に刻り其碩儒の門を叩いて儒書を学んだ。」とあり、またこのとき師である覚彦浄嚴が江戸にあったことから、進城師の「天資の英智絶倫にして正に才気煥発の時」のごとく、師と離れ独り修学に励んでいた折りの四国路であったと推察できる。蓮体は教清の風を聞いて二、三の同志とともに訪問し、少しばかりの法談をし、その一連のやり取りから蓮体は教清をこのように評している。

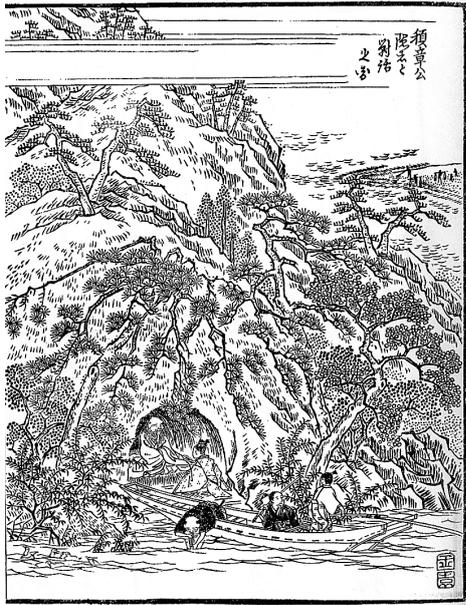
予永徳が形を見るに枯木の如し。心を見るに死灰に似たり。法を話するを聞けば邪見の人にあらず。況や素紅に答へける旨道理著明なり。思ふに此者は

徳隠し狂を挙るなるべし。心中の所証推て知ぬべし。五塵六欲の境には露ばかりも著なしと見たり。是の如く此の世を忘れなば誰人か決定往生せざらんや。黄金は人の欲する所なれども目にさへ見ず。妻子は人の愛著する所なれども一度はなれて復言はず。中にも死は人の怖畏する所。満界の財宝も命に代へがたけれども。死を見ること帰るが如し。心中の楽しみいくばくぞや。羨しきことなり。今並五十九歳。現に讃州白鳥郡安宅の海岸に住せり。上古の伏見の翁と同轍人か。故に今記して後人に貽すのみ。

上古の伏見の翁とは、深草元政の『扶桑隠逸伝』（寛文四年（一六六四）頃刊）に紹介される隠者で、彼は大和菅原寺（喜光寺）の側の伏見岡に臥して、三年起きず、もの言わず、時々頭をあげては東方をみていた。天平八年（七三六）に行基法師が大仏開眼のために迎えた婆羅門僧の菩提と徳那が菅原寺に入ったときに、翁は「叶った、叶った」といって寺に入り、三人で舞をまったあと、にわかにならなくなったという。『扶桑隠逸伝』の同項の挿絵が左で、清教もこの伏見の翁と同じように、日がな一日岩窟に臥していたという。



〔伏見翁、東を望み臥すの図〕
視線は東大寺の営構に向いている。



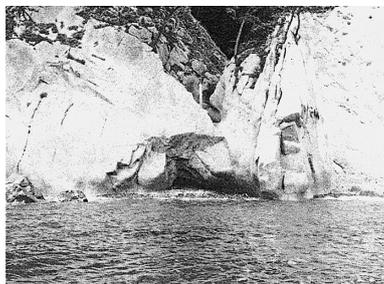
[賴章公、隱者と對話する]

伏見の翁が東に望んでいたのは、東大寺の宮構であったと伝えられているが、名利から離れた教清が海の果てに見ていたものはなんであったのだろうか。蓮体は枯木のごとき風貌の教清の中に徳を見出し、この世の愛著から離れて、死を見ることがまるで帰るようだといった様子に、「心中の楽しみいくばくぞや」とひどく羨やみ、教清にはるか天平の神仙の姿を重ねたのである。

教清については『礦石集』より先に、松平頼重の四男で図書殿頼章が天和二年（一六八二）の冬に引田浦を訪れたときに草した「引田浦記」（『讃岐国名勝図会』、嘉永七年（一八五四）刊に収録）に、「年のほど五十ばかりなる法師」の教清を尋ね、そのときのやり取りが記されている。岩穴に独り住むことの由を尋ねた頼章に対して教清は、「世のありさまいとかしましうと思ひこの処にきたりぬ」とし、「とう人なければ他の思ひなし。夜をおかすに今衣なければ小筵をもて不足なし。雨露のすさむときは洞のうち身を隠してはや十とせあまりすみ侍る。」と語ったという。左は『讃岐国名勝図会』所収「引田浦記」の挿絵で、松の木が生い茂る海岸の岩窟の中に座す教清と、舟を下りて向かい合う頼章の姿が描かれている。

『礦石集』もこのときの頼章とのやりとりを記しているが、そこでは教清が頼章に対応せず、哀れんだ頼章が黄金を与えたが取らず、見かねた側付が極めて重宝だからと促すと、そんなに重宝ならば汝が取れと、顧みることなく臥してしまい、皆を驚かせたという逸話が記されている。

教清は岩窟で二十余年を過ごし、『礦石集』の刊行と同じ元禄六年（一六九三）に教蓮寺にて没したと伝えられている。『白鳥町史』によれば、教清が過ごした岩窟は、歳月を経た今はわずかにその窟の跡を残すのみという。



[永徳の窟]
潮越海岸東方300m海辺。地震などの影響で崩落の跡が見られるが、ひそかに海辺を望む窟は、まさしく隠者の棲家と言える。

2 「安宅の教清」伝と『礦石集』

教清の話は蓮体が『礦石集』で取り上げたことよって広がりを見せる。例えば、緑亭川柳編『秀雅百人一首』（弘化五年（一八四八）刊）は、当代の人気絵師であった葛飾北斎・一勇斎国芳・溪斎英泉・柳川重信・一陽斎豊国の五人が順に十丁ずつ肖像画を担当し、その二十九丁目に「白鳥永徳」が収録されている。担当絵師は滝沢馬琴の『南総里見八犬伝』や為永春水の『春色梅児誉美』の挿絵を担当した柳川重信で、上段に小伝と下段に肖像画と歌を配している。髪を伸ばし、髭をたくわえて、岩の上に座す教清は蓮体が記す姿そのものである。「徳とらず」の歌は、『礦石集』にも採録され、また上段の小伝の部分には「伏見の翁と同やうの人なるか」と結ばれているなど、随所に『礦石集』の文を取り入れており、『礦石集』を参

考としたのは明らかである。『秀雅百人一首』は冒頭の例言に記されているように、歌そのものの良し悪しではなく、ただめでたい歌、徳ある人、貧しくとも雅な人のみを採録したとあり、教清の歌そのものの評価はともかく、その陰徳なる性質が採録の理由であったようである。



『秀雅百人一首』〈白鳥永徳〉
「徳とらず損をもせざるいとなみは
苦にもならねば楽とおもはず」

さらに、教清が住持した教蓮寺の七世を務めた順桂月江が享保十一年（二七二六）に草した『松雲山教蓮寺縁起』(『白鳥町史』に収録)には、蓮体が教清を「近來の隠者」と評して『礦石集』に載せたと記述しているほか、近代では国学者の宮地巖夫氏の『本朝神仙記伝』(昭和四年(一九二九)刊)の下之巻に「白鳥永徳」の項が設けられるなど、教清は今日「神仙」として伝えられるようになったのであるが、それらは、すべて蓮体が実際に教清と対話して、「心中の楽しみいくばくぞや」と、その衝撃をそのままに記述した『礦石集』の功績にほかならない。

『礦石集』の礦石とは、蓮体が一冊目の叙に記すように原石であり、蓮体が各地を自ら訪ねて収集した、知られざる人物や逸話そのものである。世の人が知らずに埋もれていた礦石を見出し紹介することで、原石は年月を経て磨かれやがて光輝を得るように、さまざまな広がりを持ってゆく。それこそが、蓮体の『礦石集』撰述に託した希望であったのだろうと、この安宅の教清の話から推察するのである。

〔注〕

教蓮寺蔵『松雲山教蓮寺縁起』は白鳥町史編集委員会編『白鳥町史』(昭和六十年三月)に収録され、「教清」の項目には坂口友太郎氏が詳細な報告をされている。坂口氏は『礦石集』について、「資料価値が第一等」と評されたうえで、「白鳥郷」を「白鳥郡」、「安戸」を「安宅」、そして「教誓」を「教清」としているなど、『礦石集』の誤りを指摘されている。『礦石集』が「教清」としたことから自余の書物がすべて「教清」としたというのであれば、『礦石集』の影響の大きさが知られよう。

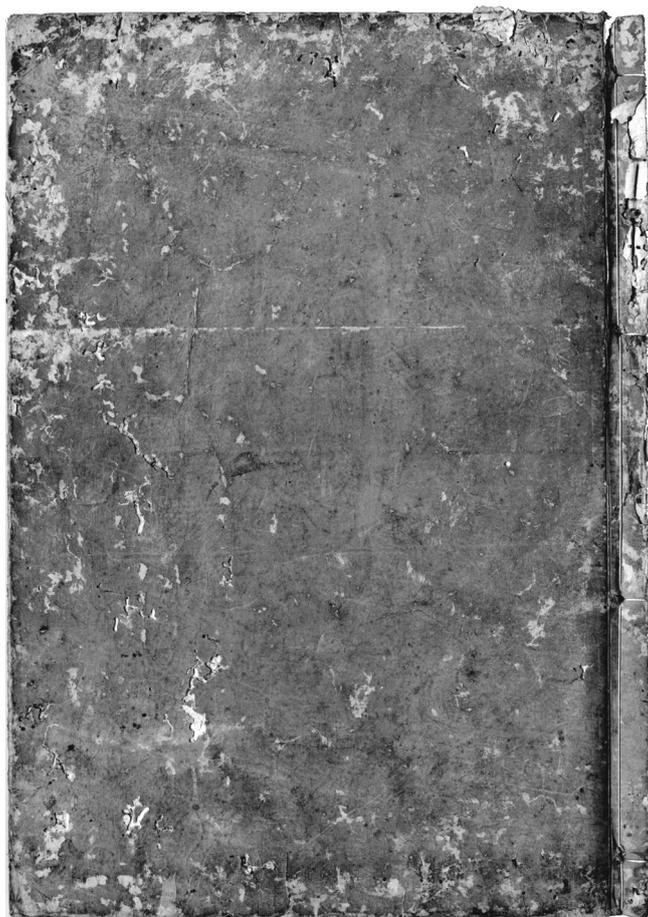
(寺津麻理絵)

〔付記〕『真言礦石集』の翻刻およびデータ入力に次の学生諸氏が精励せられた。各位の労を謝し御礼申上げる。

- 岩城佑希(歴史文化学科四年)・菊地えり(同)・鈴木柚佳里(同)
- 細川 環(同)・家田佳奈(同三年)・伊藤奈海(同)・岩田枝里香(同)
- 川又 愛(同)・酒井美姫(同)・鈴木 花(同)・榎木晴香(同)
- 山田ちひろ(同)・天利仁美(同二年)・恩田寛子(同)・YUANYAN MEI(同)
- 古賀美里(同)・三枝桃子(同)・佐敷屋佳苗(同)・渋谷菜摘(同)
- 丸山あさひ(同)・青木伽奈恵(日本語日本文学科三年)・大山 茜(同)
- 岡本夏奈(同)・土肥柚香里(同)

【凡例】

- 一、底本には宮島コレクション所蔵の元禄六年刊の四冊本を採った。
- 一、上段に写真影印を置き、下段に翻刻文を付した。
- 一、翻刻にあたって、漢字は可能なかぎり底本に近い字体を採った。よって複数の字体が混用されていても、あえて統一しなかった。ただし、仮名については、合略仮名を元に戻すなどした上で、すべて通行の字体に改めた。
- 一、清濁、句読点も原文のままにした。ただし、「叙」の読点は右に寄せた。
- 一、右ルビは原文のままに付したが、左ルビは()に入れ、当該下に置いた。
- 一、音訓および発音を示す記符号は省略した。
- 一、判読不能の箇所は□で示した。



○
礦石集

(題簽欠)

└ ④表表紙

眞言砵石集笑之卷目錄

本

唐眞表律師地藏菩薩ノ教授ヲ蒙ル事

讚州白鳥郡安宅ノ教清ガ事

元魏洛陽ノ慧凝法師冥中所見ノ事

河州ノ希勤阿闍梨祕密ノ益ヲ得ル事

和州生駒山般若窟寶山和尚ノ事

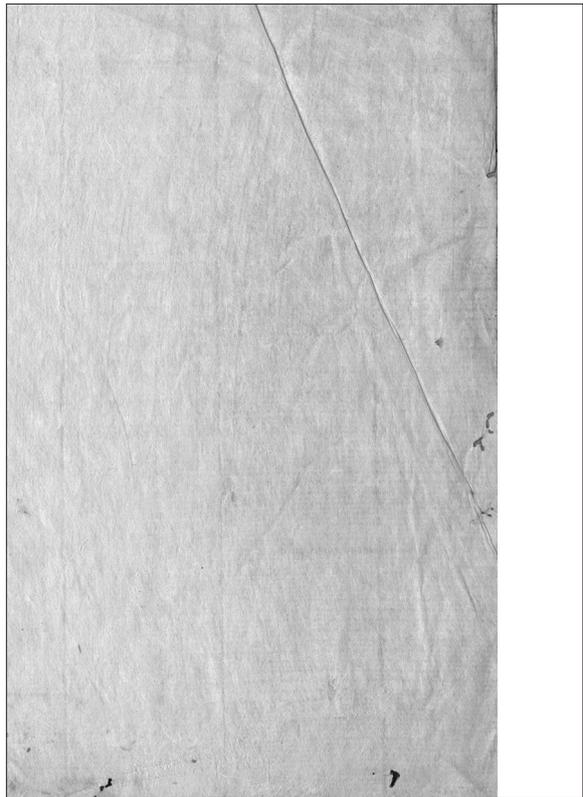
祕密念佛並ニ阿弥陀佛四重祕釋ノ事

大佛頂陀羅尼功能ノ事

末

定照法師枯木ヲ加持スルニ再ビ榮ル事

玄海法師大佛頂ヲ誦シテ淨土ニ往生セシ事



眞言砵石集笑之卷目錄

本

唐眞表律師地藏菩薩ノ教授ヲ蒙ル事

讚州白鳥郡安宅ノ教清ガ事

元魏洛陽ノ慧凝法師冥中所見ノ事

河州ノ希勤阿闍梨祕密ノ益ヲ得ル事

和州生駒山般若窟寶山和尚ノ事

祕密念佛並ニ阿弥陀佛四重祕釋ノ事

大佛頂陀羅尼功能ノ事

末

定照法師枯木ヲ加持スルニ再ビ榮ル事

玄海法師大佛頂ヲ誦シテ淨土ニ往生セシ事

(白丁) ④表表紙見返

④目錄01才

高野山教懷増延等大佛頂ヲ誦シテ往生ノ事

大隨求陀羅尼功能ノ事

佛頂隨求ヲ誦シテ邪鬼辟ル事 附テ幽靈人ニ託シテ回向ヲ望ム事

千手陀羅尼功能ノ事

尊勝陀羅尼功能ノ事

賀州ノ僧生身ニ魔道ニ墮セシ事

密教ヲ知ラズテ誦ズル人ノ事

日本ハ密教相應ノ國ニシテ相承絶ズ謬ナキ事 附テ慶園上人ノ事

餘慶法師ノ事

池上ノ皇慶阿闍梨及ビ性空上人ノ事

地藏菩薩梵号ノ祕釋 附テ勝軍地藏ノ事

地藏菩薩四重祕釋ノ事

研石集第四本

唐ノ眞表律師地藏菩薩ノ教授ヲ蒙ル事

唐ノ眞表律師ハ百濟國ノ人ナリ。家金山ニアリテ累世又

獵ヲ業トス。眞表躡捷ニ弓矢ノ上手ナリ。唐ノ開元年中

ニ獸ヲ逐フ。次田ノ畎ニ憩フ。間柳ノ枝ヲ折テ蝦蟇ヲ貫

スイテ弗ニシ。水中ニ置テ食セント擬ス。遂ニ山ニ入テ鹿ヲ逐

直ニ家ニ歸テ。蝦蟇ヲ取ルコトヲ忘タリ。明年ノ春復獵スル

時ニ墓ノ鳴ヲ聞テ水中ヲ見ル。去載貫キ所ノ三十許ノ

蛙猶弗ニシナガラ死セズアリ。眞表時ニ歎惋シ。自ら責テ

曰ク。苦ヒカナ何ゾ口腹ノタメニ彼ヲシテ年ヲ經テ苦ヲ受シム

ルヤト。乃チ柳條ヲ拔テ放チ。其ヨリ過テ即チ自ら刀ヲ

以テ髮ヲ切テ思惟スラク。堂下親ヲ辭シ室中愛ヲ割ハ慾

高野山教懷増延等大佛頂ヲ誦シテ往生ノ事

大隨求陀羅尼功能ノ事

佛頂隨求ヲ誦シテ邪鬼辟ル事 附テ幽靈人ニ託シテ回向ヲ望ム事

千手陀羅尼功能ノ事

尊勝陀羅尼功能ノ事

賀州ノ僧生身ニ魔道ニ墮セシ事

密教ヲ知ラズシテ誦ズル人ノ事

日本ハ密教相應ノ國ニシテ相承絶ズ謬ナキ事 附テ慶園上人ノ事

餘慶法師ノ事

池上ノ皇慶阿闍梨及ビ性空上人ノ事

地藏菩薩梵号ノ祕釋 附テ勝軍地藏ノ事

地藏菩薩四重祕釋ノ事

研石集第四本

唐ノ眞表律師地藏菩薩ノ教授ヲ蒙ル事

唐ノ眞表律師ハ百濟國ノ人ナリ。家金山ニアリテ累世又

獵ヲ業トス。眞表躡捷ニ弓矢ノ上手ナリ。唐ノ開元年中

ニ獸ヲ逐フ。次田ノ畎ニ憩フ。間柳ノ枝ヲ折テ蝦蟇ヲ貫

スイテ弗ニシ。水中ニ置テ食セント擬ス。遂ニ山ニ入テ鹿ヲ逐

直ニ家ニ歸テ。蝦蟇ヲ取ルコトヲ忘タリ。明年ノ春復獵スル

時ニ墓ノ鳴ヲ聞テ水中ヲ見ル。去載貫キ所ノ三十許ノ

蛙猶弗ニシナガラ死セズアリ。眞表時ニ歎惋シ。自ら責テ

曰ク。苦ヒカナ何ゾ口腹ノタメニ彼ヲシテ年ヲ經テ苦ヲ受シム

ルヤト。乃チ柳條ヲ拔テ放チ。其ヨリ過テ即チ自ら刀ヲ

以テ髮ヲ切テ思惟スラク。堂下親ヲ辭シ室中愛ヲ割ハ慾

海ヲ離レニカガナリ。何ゾ久シク樊籠ニアラント。終ニ人里ヲ
離レテ獨リ遠ク深山ニ入り苦到ニ懺悔シテ身ヲ擧テ地ニ撲ク
山中本ヨリ戒師ナケレバ誓願シテ。弥勒菩薩ノ我為ニ戒法
ヲ授ケ玉ハンコトヲ乞フ。晝夜眠ラズシテ念々無間ニ勤修ス。七日
七夜ヲ經テ八日ノ詰旦ニ。地藏菩薩手ニ金錫ヲ振フテ
影響シ玉ヒ。微妙ノ音聲ヲ以テ慰諭シテ。為ニ發戒ノ因縁受前
ノ方便ヲ教授シ玉フ。眞表此ノ靈應ヲ得テ歡喜身ニ偏ネク
倍精進スルコト前ニ過タリ。二七日ヲ經テ即チ魔障起ル忽チ
ニ大鬼神アリ可畏ノ相タヲ現シテ。法師ヲ捉テ巖ノ下ニ擲ニ
身傷ル、所ロナシ。誠ニ地藏菩薩ノ加被力ニヤト喜ビテ。匍匐
テ石壇ノ上ニノボリ。倍復精進スルニ魔障尚止ズ百端千緒ナ
レモ。眞表ノ心口金剛ノ如クニ變セザレバ。魔モ亦便ヲウルコトア

海ヲ離レニカガナリ。何ゾ久シク樊籠ニアラント。終ニ人里ヲ
離レテ獨リ遠ク深山ニ入り苦到ニ懺悔シテ身ヲ擧テ地ニ撲ク。
山中本ヨリ戒師ナケレバ誓願シテ。弥勒菩薩ノ我為ニ戒法
ヲ授ケ玉ハンコトヲ乞フ。晝夜眠ラズシテ念々無間ニ勤修ス。七日
七夜ヲ經テ八日ノ詰旦ニ。地藏菩薩手ニ金錫ヲ振フテ
影響シ玉ヒ。微妙ノ音聲ヲ以テ慰諭シテ。為ニ發戒ノ因縁受前
ノ方便ヲ教授シ玉フ。眞表此ノ靈應ヲ得テ歡喜身ニ偏ネク
倍精進スルコト前ニ過タリ。二七日ヲ經テ即チ魔障起ル忽チ
ニ大鬼神アリ可畏ノ相タヲ現シテ。法師ヲ捉テ巖ノ下ニ擲ニ
身傷ル、所ロナシ。誠ニ地藏菩薩ノ加被力ニヤト喜ビテ。匍匐
テ石壇ノ上ニノボリ。倍復精進スルニ魔障尚止ズ百端千緒ナ
レトモ。眞表ノ心口金剛ノ如クニシテ變セザレバ。魔モ亦便ヲウルコトア

タハズ去ス第三七日滿シテ質明ニ吉祥ノ鳥アツテ和雅ノ
聲ヲ出シテ鳴テ曰ク。今慈氏菩薩正ニ來リ玉ヘリト。乃チ白
雲四方靄テ山川高下アルコトナク平坦ニシテ銀色ノ世界トナ
ル。慈氏菩薩無量ノ眷屬ト共ニ來下シ玉ヘリ。香風天花ヲ吹
テ繽紛トシテ亂墜寔ニ人間ノ物ニアラズ。諸ノ聖衆威儀陸離ト
シテ石壇ヲ圍繞シ玉フ。尔時ニ弥勒菩薩徐クニ歩テ壇所ニ至
リ。金色ノ手ヲタレテ眞表ノ頂ヲ摩テ。曰ク善哉大丈夫戒
ヲ求ムルコト當ニ是ノ如クナルベシ。須弥山ハ手ニ攘テ却クベクト
モ備ガ心ハ終ニ退カジト再三歎シテ。乃チ為ニ菩薩戒ヲ授ケ玉
フ。眞表身心和悦シテ宛モ三禪ノ樂ノ如シ。即チ天眼通ヲ得
タリ。躬ラ三衣瓦鉢ヲ授ケテ。名ヲ眞表ト賜フ。乃至未來ノ
衆生ノ懺悔滅罪受戒ノ方法ヲ説玉フ。事繁多ナレバ今略ス。

タハズシテ去ヌ。第三七日滿シテ質明ニ吉祥ノ鳥アツテ和雅ノ
聲ヲ出シテ鳴テ曰ク。今慈氏菩薩正ニ來リ玉ヘリト。乃チ白
雲四方靄テ山川高下アルコトナク平坦ニシテ銀色ノ世界トナ
ル。慈氏菩薩無量ノ眷屬ト共ニ來下シ玉ヘリ。香風天花ヲ吹
テ繽紛トシテ亂墜寔ニ人間ノ物ニアラズ。諸ノ聖衆威儀陸離ト
シテ石壇ヲ圍繞シ玉フ。尔時ニ弥勒菩薩徐クニ歩テ壇所ニ至
リ。金色ノ手ヲタレテ眞表ノ頂ヲ摩テ。曰ク善哉大丈夫戒
ヲ求ムルコト當ニ是ノ如クナルベシ。須弥山ハ手ニ攘テ却クベクト
モ備ガ心ハ終ニ退カジト再三歎シテ。乃チ為ニ菩薩戒ヲ授ケ玉
フ。眞表身心和悦シテ宛モ三禪ノ樂ノ如シ。即チ天眼通ヲ得
タリ。躬ラ三衣瓦鉢ヲ授ケテ。名ヲ眞表ト賜フ。乃至未來ノ
衆生ノ懺悔滅罪受戒ノ方法ヲ説玉フ。事繁多ナレバ今略ス。

事終テ天樂空ニ響テ内院ニ歸ラセ玉ヒケリ。眞表法師天衣ヲ著シ天鉢ヲ持ス。猶五夏ノ比丘ノ如シ。道ヲ徇メテ山ヲ下ルニ草木皆ナ低テ路ヲ覆フ。飛禽鷲獸皆ナ馴伏シテ拜ス。又空中ニ聲アツテ村邑聚落ニ告ラク。今菩薩山ヲ出テ來ル何ゾ迎奉ラザルト。時ニ人民男女。貴賤道俗髮ヲ布テ泥ヲ掩ヒ。衣ヲ脱テ路ニ鋪ク。檀鬪毘能足ヲ承ル者アリ。華栴美褥坑ニ填ル者アリ。眞表咸ク人情ニ隨テ受ケ玉ヘリ。乃至常ニ二ノ虎アリ左右ニ隨テ行。時ニ眞表虎ニ告テ曰ク。吾レ郭郭ニ入ラジ。汝導引シテ修行スベキ處アラバ乃チ緩歩シテ行ト。行コト三十里ニシテ一ノ山坡ニ至テ二虎前ニ蹲蹠ス。眞表即チ錫ヲ樹枝ニ挂テ草座ヲ敷テ端坐ス。四方ノ信士勸メザルニ自ラ來テ同ジク伽藍ヲ造リ金山寺ト号スト。僧傳眞表律師ハ本慈

事終テ天樂空ニ響テ内院ニ歸ラセ玉ヒケリ。眞表法師天衣ヲ著シ天鉢ヲ持ス。猶五夏ノ比丘ノ如シ。道ヲ徇メテ山ヲ下ルニ草木皆ナ低テ路ヲ覆フ。飛禽鷲獸皆ナ馴伏シテ拜ス。又空中ニ聲アツテ村邑聚落ニ告ラク。今菩薩山ヲ出テ來ル何ゾ迎奉ラザルト。時ニ人民男女。貴賤道俗髮ヲ布テ泥ヲ掩ヒ。衣ヲ脱テ路ニ鋪ク。檀鬪毘能足ヲ承ル者アリ。華栴美褥坑ニ填ル者アリ。眞表咸ク人情ニ隨テ受ケ玉ヘリ。乃至常ニ二ノ虎アリ左右ニ隨テ行。時ニ眞表虎ニ告テ曰ク。吾レ郭郭ニ入ラジ。汝導引シテ修行スベキ處アラバ乃チ緩歩シテ行ト。行コト三十里ニシテ一ノ山坡ニ至テ二虎前ニ蹲蹠ス。眞表即チ錫ヲ樹枝ニ挂テ草座ヲ敷テ端坐ス。四方ノ信士勸メザルニ自ラ來テ同ジク伽藍ヲ造リ金山寺ト号スト。僧傳眞表律師ハ本慈

④本02ウ

氏菩薩ヲ見奉テ戒ヲ受シテ願フ。然レモ若地藏尊ノ先現シテ發戒ノ因緣受前ノ方法ヲ教ヘ玉フニアラスンバ。爭テカ弥勒菩薩ヲ感ゼンヤ。此偏ニ地藏尊ノ利生ナリ。妙幢禪師ノ利生記等ニ三國ノ因緣古今ノ靈應ヲ出ストイヘドモ。只是ノ一事ヲ闕セリ故ニ今茲ニ記スルモノナリ。嗚呼濁世未代極重惡人ナリトイフモ。眞表律師ノ如クニ勇猛ニ懺悔シナハ。誰カ菩薩ノ來下ヲ感ゼザランヤ。唯一時ニ世間五欲ノ境ヲ離レテ再タビ顧ミズ。勇猛ニ勤修スルコト難シ。大小權實漸頓顯密ノ教異ナリトイヘドモ。先塵欲ヲ離ル、コトヲ説リ。密教ハ本有ヲ宗トシテ不断煩惱ノ義ヲ談ズトイヘドモ。諸經軌ノ中ニ初心ノ眞言行者ハ。日日ニ八戒ヲ受持スベシト説キ。大日經ニ八十善戒ヲ説レタリ。是先ツ世ノ塵欲ヲ止シガ為ナリ。

氏菩薩ヲ見奉テ戒ヲ受シテ願フ。然レトモ若地藏尊ノ先現シテ發戒ノ因緣受前ノ方法ヲ教ヘ玉フニアラスンバ。爭テカ弥勒菩薩ヲ感ゼンヤ。此偏ニ地藏尊ノ利生ナリ。妙幢禪師ノ利生記等ニ三國ノ因緣古今ノ靈應ヲ出ストイヘドモ。只是ノ一事ヲ闕セリ故ニ今茲ニ記スルモノナリ。嗚呼濁世未代極重惡人ナリトイフトモ。眞表律師ノ如クニ勇猛ニ懺悔シナハ。誰カ菩薩ノ來下ヲ感ゼザランヤ。唯一時ニ世間五欲ノ境ヲ離レテ再タビ顧ミズ。勇猛ニ勤修スルコト難シ。大小權實漸頓顯密ノ教異ナリトイヘドモ。先塵欲ヲ離ル、コトヲ説リ。密教ハ本有ヲ宗トシテ不断煩惱ノ義ヲ談ズトイヘドモ。諸經軌ノ中ニ初心ノ眞言行者ハ。日日ニ八戒ヲ受持スベシト説キ。大日經ニ八十善戒ヲ説レタリ。是先ツ世ノ塵欲ヲ止シガ為ナリ。

④本03オ

故ニ古ヨリ修行ヲ勵ニス人ハ村落ニ近カズ深山幽谷ニ
隠レテ獨リ淨クセリ。愁ニ人ノ為ニ恭敬セラレテ衆ヲ領シ
法ヲ説ク時ハ。或ハ名聞利養ノ為ニ其ノ心ヲ汚サレテ。自
ラ出離ヲ得ザルノミニアラズ。又人ニモ益ナシ。湯ヲ掬シテ水ニ
投ズルニ翻テ氷聚ヲ添ルガ如シ。故ニ南嶽大師常ニ歎シ
玉ハク。我一生ニ銅輪十位ニ入ンコトヲ望ミシカトモ。衆ヲ領ズル
太ダ早シテ所求尅ハズト。願文ヲ著シテ擇擇擇トイヘリ。又
止觀ノ十乘觀ノ第九ノ能安忍ニ曰ク。智力強盛ナラバ廣ク
利益スベシ。若シ然ラズンバ當ニ安忍シテ深ク三昧ヲ修スベシ。行
成ゼバカラ著レナン。化ヲ為コト晩カラズ。若シ名譽ノ羅縉利
養ノ毛繩ヲ被テ眷屬集ラバ早ク推ルベシ。他ノ有徳ノ受ル
ナカレ。著スルコトナカレ。術推ルニ若シ去ズンテ翻テ粘繫セラレバ。

當ニ德ヲ縮メ玳ヲ露ハシ狂ヲ揚ケ實ヲ隱セニ若迹ヲ
遁レニ脱レズンバ。當ニ一舉万里絶域他方ニ相ヒ諳練ス
ル無ク快ク道ヲ學ブコトヲ得ベシ。三若シ名利ノ眷屬外ヨ
リ來リ破ラバ。此ノ三術ヲ憶ヒ齒ヲ齧テ忍耐セヨ。千万
請ズトモ確乎トシテ拔ガタシ。讓哉。隱哉。去哉トイヘリ。南嶽天
台猶是ノ如シ況ヤ今時愚昧ノ人ヲヤ。上古吾朝ノ玄奘僧
都。增賀聖。行尊僧正。慶縁得業等ハ。皆此ノ三術ヲ用ヒ
テ快ヨク道ヲ修セラレタリ。今ノ世ニハ絶テナシ此ノ迹學ヒ
タクコソ侍レ。但シ古人ハ德ヲ隱シテ瑕ヲ露ハス。今ノ人ハ瑕ヲ隱
シテ德ヲ露ハサント欲スレドモ。露ハスベキ德ナケレバ種種ノ誑惑
ヲナス。喩ヘバ貌甚醜フシテ妍影ヲ鏡ニ求ムルガ如シ。寔ニ恥死
ナントスルノミ。

故ニ古ヨリ修行ヲ勵マス人ハ村落ニ近カズ。深山幽谷ニ
隠レテ獨リ淨クセリ。愁ニ人ノ為ニ恭敬セラレテ衆ヲ領シ
法ヲ説ク時ハ。或ハ名聞利養ノ為ニ其ノ心ヲ汚サレテ。自
ラ出離ヲ得ザルノミニアラズ。又人ニモ益ナシ。湯ヲ掬シテ水ニ
投ズルニ翻テ氷聚ヲ添ルガ如シ。故ニ南嶽大師常ニ歎シ
玉ハク。我一生ニ銅輪十位ニ入ンコトヲ望ミシカトモ。衆ヲ領ズル
太ダ早シテ所求尅ハズト。願文ヲ著シテ擇擇擇トイヘリ。又
止觀ノ十乘觀ノ第九ノ能安忍ニ曰ク。智力強盛ナラバ廣ク
利益スベシ。若シ然ラズンバ當ニ安忍シテ深ク三昧ヲ修スベシ。行
成ゼバカラ著レナン。化ヲ為コト晩カラズ。若シ名譽ノ羅縉利
養ノ毛繩ヲ被テ眷屬集ラバ早ク推ルベシ。他ノ有徳ノ受ル
ナカレ。著スルコトナカレ。術推ルニ若シ去ズンテ翻テ粘繫セラレバ。

當ニ德ヲ縮メ玳ヲ露ハシ狂ヲ揚ケ實ヲ隱セニ若迹ヲ
遁レニ脱レズンバ。當ニ一舉万里絶域他方ニシテ相ヒ諳練ス
ル無ク快ク道ヲ學ブコトヲ得ベシ。三若シ名利ノ眷屬外ヨ
リ來リ破ラバ。此ノ三術ヲ憶ヒ齒ヲ齧テ忍耐セヨ。千万
請ズトモ確乎トシテ拔ガタシ。讓哉。隱哉。去哉トイヘリ。南嶽天
台猶是ノ如シ況ヤ今時愚昧ノ人ヲヤ。上古吾朝ノ玄奘僧
都。增賀聖。行尊僧正。慶縁得業等ハ。皆此ノ三術ヲ用ヒ
テ快ヨク道ヲ修セラレタリ。今ノ世ニハ絶テナシ此ノ迹學ヒ
タクコソ侍レ。但シ古人ハ德ヲ隱シテ瑕ヲ露ハス。今ノ人ハ瑕ヲ隱
シテ德ヲ露ハサント欲スレドモ。露ハスベキ德ナケレバ種種ノ誑惑
ヲナス。喩ヘバ貌甚醜フシテ妍影ヲ鏡ニ求ムルガ如シ。寔ニ恥死
ナントスルノミ。

法苑珠林卷四

④本04

④本03ウ

讚州白鳥郡安宅ノ教清ガ事

讚州白鳥ノ郡ニ教清ト云者アリ。又ハ永徳ト号ス。曾テ一
向宗ニテ一寺ノ住持ナリケリ。讚歎ナンド能シテ書籍ヲモ
閱セシ者ナリ。寛文ノ初メ朋友ヲ伴ナヒテ四國ノ靈場ヲ巡
禮シケリ。或處ニテ大河ヲ渡ルニ教清謬テ没溺シケリ。然レ
尺我ヲ救ヨトモイハズ。水ニ順セテ流レケルガ洲ニ流レ寄りヌ
又其ヨリ匍匐アガリテ伴ト同ジク行ケリ。其時財寶ヲモ失
ヒケレド取り舉ント云意モナシ。又口ニモ苦樂是非ヲ言ズ。何
ノ故ヤラン諸人其ノ胸中ヲ料リ知ルコトナシ。巡禮終リテ白
鳥ヘ歸リケルガ。我が寺ヘ入ラズシテ直ニ安宅ト云處ノ海岸ニ
到リ。岩窟ニ入テ臥シケリ。妻子悲泣戀慕シテ種々ニ誨ケド
モ聞入ズ應對セズシテ臥シケリ。其ノ意趣ヲ知ル人アルコトナシ。

日ニ度村ニ出テ、食ヲ乞テ食ス。而モ人強テ饗養スレバ受ケズ。又嫌フ色見ユレバ受ケズ。岩窟ヘ食ヲ餽レ
尺其ヲ終ニ食セズ。只夏モナク冬モナク一ノ衾衣ヲ著テ
脱フモノナシ。窟中ニ一物モナク石上ニ臥セリ。抑此ノ岩窟ハ
北ハ大海ニテ播磨灘ナリ。東ハ阿波ノ鳴門ニ連ナル。南ハ
高山ニテ日月ノ光モ及ビ難シ。然ルニ二十餘年ノ間タ今ニ
至ルマデ彼ノ處ニ住ス。或時ハ鯨波起テ窟中ニ及ベハ。波ニ
順テ大海ノ中ニ漂ヘドモ死スルコトナシ。又終ニ波ノ為ニ打ア
ケラレテ本ノ處ニアリ。平生觀念スルニモアラズ唯臥セルノミ
ナリ。人來テ問ヘトモ應對セズ。若シ心ニ稱フ時ハ法ノ物語スル
コトモアリ。何事ゾ此處ヲ好ンデ久住シ玉フゾト問ハ。イヤトヨ
好ムニハアラズ。唯聊余ニ此ニ來リテ終ニ癖トナレルナリトイヘリ。

讚州白鳥郡安宅ノ教清ガ事

讚州白鳥ノ郡ニ教清ト云者アリ。又ハ永徳ト号ス。曾テ一
向宗ニテ一寺ノ住持ナリケリ。讚歎ナンド能シテ書籍ヲモ
閱セシ者ナリ。寛文ノ初メ朋友ヲ伴ナヒテ四國ノ靈場ヲ巡
禮シケリ。或處ニテ大河ヲ渡ルニ教清謬テ没溺シケリ。然レ
トモ我ヲ救ヨトモイハズ。水ニ順セテ流レケルガ洲ニ流レ寄りヌ
又其ヨリ匍匐アガリテ伴ト同ジク行ケリ。其時財寶ヲモ失
ヒケレド取り舉ント云意モナシ。又口ニモ苦樂是非ヲ言ズ。何
ノ故ヤラン諸人其ノ胸中ヲ料リ知ルコトナシ。巡禮終リテ白
鳥ヘ歸リケルガ。我が寺ヘ入ラズシテ直ニ安宅ト云處ノ海岸ニ
到リ。岩窟ニ入テ臥シケリ。妻子悲泣戀慕シテ種々ニ誨ケド
モ聞入ズ應對セズシテ臥シケリ。其ノ意趣ヲ知ル人アルコトナシ。

日ニ度村ニ出テ、食ヲ乞テ食ス。而モ人強テ饗養スレバ受ケズ。又嫌フ色見ユレバ受ケズ。岩窟ヘ食ヲ餽レ
トモ其ヲ終ニ食セズ。只夏モナク冬モナク一ノ衾衣ヲ著テ
脱コトモナシ。窟中ニ一物モナク石上ニ臥セリ。抑此ノ岩窟ハ
北ハ大海ニテ播磨灘ナリ。東ハ阿波ノ鳴門ニ連ナル。南ハ
高山ニテ日月ノ光モ及ビ難シ。然ルニ二十餘年ノ間タ今ニ
至ルマデ彼ノ處ニ住ス。或時ハ鯨波起テ窟中ニ及ベハ。波ニ
順テ大海ノ中ニ漂ヘドモ死スルコトナシ。又終ニ波ノ為ニ打ア
ケラレテ本ノ處ニアリ。平生觀念スルニモアラズ唯臥セルノミ
ナリ。人來テ問ヘトモ應對セズ。若シ心ニ稱フ時ハ法ノ物語スル
コトモアリ。何事ゾ此處ヲ好ンデ久住シ玉フゾト問ハ。イヤトヨ
好ムニハアラズ。唯聊余ニ此ニ來リテ終ニ癖トナレルナリトイヘリ。

諸國ノ風顛漢尋子行テ問ヘトモ答ヘズ。語多ケレバ面キテ即チ臥シヌ。又大守ノ弟松平圖書殿此事ヲ聞テ故ニ行テ訪ヒ玉ヘトモ又對ヘズ。哀レミテ黃芽若干ヲ與ヘラレケレトモ。目ニサヘ見ズ況ヤ手ニ取ルベケンヤ。尙ナル人諭シテ公孖ノ賜サヘ恩惠厚キニ。此ハ黃金ナレバ極メテ重害ナリ頂戴セヨトイヘバ。其時教清ガ曰ク重寶ナラバ汝ガ取レ。我ハイラヌゾトテ顧ミモセズ臥シケリ。諸人驚歎セズトイフコトナシ。大守ノ父龍雲軒公聞テ召シケレトモ行カス。強テ馬ニ乗ケレバシバク落馬シケリ。サルホドニ繩ニテ結ビ付テ行ケリ。龍雲軒簾ヲ隔テ見。近侍ノ者ニ問シムルニ渾ベテ答ルコトナシ。唯我ハ知コトナシ早ク舊ノ居處ニ歸シ玉ハ恩深シトノミイヘリ。公深ク憐ミテ其心ヲ行ハシメ。夏冬ニ衣服ヲ

給ヒケリ。サレドモ終ニ自ラ被著セズ。尙人強テ著セシムレバ又拒マズ。夜ニ入りテ賊來リ剝取ルニ拒マズ取ラセケリ。赤裸ニナレドモ人ニ衣ヲ乞フナシ。頭髮生テ蓬ノ如クナレドモ剃ラズ。人強テ此ヲ剃ニ又拒ムコトナシ。天和三年ノ春三十餘日斷食シケレトモ死セズ。後二人ニ語テ曰ク教清定業未ダ盡ズシテ命尚在トテ。又一日ニ一度ツ、食ヲ乞テ食シケリ。或人法ヲ問ケレバ禪宗ハ面白キ法ナリトイヘリ。又辭世ノ辭ナリトテ書テ人ニ見セケル
予生年既甲戌歲 筭年曆凡四十九 埋土則掛人苦勞
為火葬又費薪藥 我死骸唯噉食糞 烏羣集而宜鳴弔
德トラス。損ヲモセザル。イトナミハ
苦ニモナラネバ。樂トオモハズ

諸國ノ風顛漢尋子行テ問ヘトモ答ヘズ。語多ケレバ面キテ即チ臥シヌ。又大守ノ弟松平圖書殿此事ヲ聞テ故ニ行テ訪ヒ玉ヘトモ又對ヘズ。哀レミテ黃芽若干ヲ與ヘラレケレトモ。目ニサヘ見ズ況ヤ手ニ取ルベケンヤ。尙ナル人諭シテ公孖ノ賜サヘ恩惠厚キニ。此ハ黃金ナレバ極メテ重害ナリ頂戴セヨトイヘバ。其時教清ガ曰ク重寶ナラバ汝ガ取レ。我ハイラヌゾトテ顧ミモセズ臥シケリ。諸人驚歎セズトイフコトナシ。大守ノ父龍雲軒公聞テ召シケレトモ行カス。強テ馬ニ乗ケレバシバク落馬シケリ。サルホドニ繩ニテ結ビ付テ行ケリ。龍雲軒簾ヲ隔テ見。近侍ノ者ニ問シムルニ渾ベテ答ルコトナシ。唯我ハ知コトナシ早ク舊ノ居處ニ歸シ玉ハ恩深シトノミイヘリ。公深ク憐ミテ其心ヲ行ハシメ。夏冬ニ衣服ヲ

給ヒケリ。サレドモ終ニ自ラ被著セズ。尙人強テ著セシムレバ又拒マズ。夜ニ入りテ賊來リ剝取ルニ拒マズ取ラセケリ。赤裸ニナレドモ人ニ衣ヲ乞フコトナシ。頭髮生テ蓬ノ如クナレドモ剃ラズ。人強テ此ヲ剃ニ又拒ムコトナシ。天和三年ノ春三十餘日斷食シケレトモ死セズ。後二人ニ語テ曰ク教清定業未ダ盡ズシテ命尚在トテ。又一日ニ一度ツ、食ヲ乞テ食シケリ。或人法ヲ問ケレバ禪宗ハ面白キ法ナリトイヘリ。又辭世ノ辭ナリトテ書テ人ニ見セケル
予生年既甲戌歲 筭年曆凡四十九 埋土則掛人苦勞
為火葬又費薪藥 我死骸唯噉食糞 烏羣集而宜鳴弔
德トラス。損ヲモセザル。イトナミハ
苦ニモナラネバ。樂トオモハズ

三月朔日

永徳

高松ノ城下ニ生武澤素紅ト云者アリ。舊ハ武士ニテアリ。今ハ俗ニモアラズ出家ニモアラズ。山伏ノ貌ニテ居ケル。志ガシ貞固ヲ諸宗ノ名徳ニモ參ジテ辯論流ル、ガ如シ。本ヨリ眞言宗ナレバ。平生諸眞言ヲ誦ジ。世間塵欲ノ心少ナク。心清キ。氷ノ如ク。志シ固キ。松ニ似タリ。此ノ者永徳ガ事ヲ聞テ故ニ行キ。種種ニ法ヲ問ケレバ。永徳言ケルハ法ハ有知有行ノ人知レリ。城下ニ實相寺。見性寺。靈源寺。靈芝寺。等ノ老宿アリ。此ノ人ニ問ベシ我ハ知ズトテ面キテ臥シヌ。素紅モ癖者ナリケレバ我ハ君ガ風ヲ慕者ナリ。山ニ入テ寶ヲ取り。海ニ入テ珠ヲ取ルハ人ノ心ナリ。何ゾ靈芝寺等ヲ知ザラン。然レ厄我好マズ唯君ガ風ヲ慕フ。若シ答ヘ玉ハズバ我が長途ヲ勞

三月朔日

永徳

高松ノ城下ニ生武澤素紅ト云者アリ。舊ハ武士ニテアリ。シガ。今ハ俗ニモアラズ出家ニモアラズ。山伏ノ貌ニテ居ケル。志ガシ貞固ニシテ諸宗ノ名徳ニモ參ジテ辯論流ル、ガ如シ。本ヨリ眞言宗ナレバ。平生諸眞言ヲ誦ジ。世間塵欲ノ心少ナク。心清キ。氷ノ如ク。志シ固キ。松ニ似タリ。此ノ者永徳ガ事ヲ聞テ故ニ行キ。種種ニ法ヲ問ケレバ。永徳言ケルハ法ハ有知有行ノ人知レリ。城下ニ實相寺。見性寺。靈源寺。靈芝寺。等ノ老宿アリ。此ノ人ニ問ベシ我ハ知ズトテ面キテ臥シヌ。素紅モ癖者ナリケレバ我ハ君ガ風ヲ慕者ナリ。山ニ入テ寶ヲ取り。海ニ入テ珠ヲ取ルハ人ノ心ナリ。何ゾ靈芝寺等ヲ知ザラン。然レトモ我好マズ唯君ガ風ヲ慕フ。若シ答ヘ玉ハズバ我が長途ヲ勞

④本06ウ

ノ來レル志ヲ思ハザルノ失アリトテ。種々ニ理ヲ盡シテ言ケレバ。永徳悦バヌ色ニテ問ハク。君ハ何宗ゾヤ。素紅ガ曰ク。眞言宗ナリ。永徳ガ曰ク然ラバ弘法大師ノ教ノ如クニ行ヒ玉ヘ。即身成佛疑ヒアルベカラズ。其ノ教法ヲバ歸依寺ノ僧ニ問ヘ。今世人ヲ見ルニ法ノ有難キコトヲイハズシテ。好ンデ歸依寺ノ僧ノ非法ナルコトヲ談ズ甚ダ謬レリ。設ヒ其ノ人破戒ナリトモ所説ノ法正法ナラバ。輕慢ヲ生ゼズシテ法ヲ聽受スベシ。泥中ニ蓮花ヲ生ズ泥ヲ見ズメ花ヲ愛シ。臭囊ニ黄金ヲ納囊ヲ嫌ハズシテ金ヲ取ルニアラズヤト。云テ再ビ答ルコトナク。鼻雷ヲ如トシテ臥シケレバ。素紅モ歎伏シテ歸リヌ。素紅ハ予ガ知己ナレバ面會此事ヲ聞リ。又予モ貞享二年ノ春高松ニアリシ時。二三ノ同志ト共ニ永徳ガ居ヲ訪フ二人

シテ來レル志ヲ思ハザルノ失アリトテ。種々ニ理ヲ盡シテ言ケレバ。永徳悦バヌ色ニテ問ハク。君ハ何宗ゾヤ。素紅ガ曰ク。眞言宗ナリ。永徳ガ曰ク然ラバ弘法大師ノ教ノ如クニ行ヒ玉ヘ。即身成佛疑ヒアルベカラズ。其ノ教法ヲバ歸依寺ノ僧ニ問ヘ。今世人ヲ見ルニ法ノ有難キコトヲイハズシテ。好ンデ歸依寺ノ僧ノ非法ナルコトヲ談ズ甚ダ謬レリ。設ヒ其ノ人破戒ナリトモ所説ノ法正法ナラバ。輕慢ヲ生ゼズシテ法ヲ聽受スベシ。泥中ニ蓮花ヲ生ズ泥ヲ見ズシテ花ヲ愛シ。臭囊ニ黄金ヲ納囊ヲ嫌ハズシテ金ヲ取ルニアラズヤト。云テ再ビ答ルコトナク。鼻雷ヲ如トシテ臥シケレバ。素紅モ歎伏シテ歸リヌ。素紅ハ予ガ知己ナレバ面會此事ヲ聞リ。又予モ貞享二年ノ春高松ニアリシ時。二三ノ同志ト共ニ永徳ガ居ヲ訪フ二人

④本07オ

ノ言ニ違ハズバカリ法ノ談ヲナス。永徳ガ曰ク我ハ一向
宗ナリ。宗ノ心ハ一向一心トテ万事ヲ放下シ念佛スルナリ。
此窟ニ數珠袈裟直綴モ置ベケレト。雨ノ滴ニ腐レバ用ヒズ
トテ。其外法談少シバカリセシガ。巳ノ刺ニ成ケレバ。人里ニ食ヲ
乞ニ出ケル。吾們モ伴ナヒテ竟路語リケリ。永徳ムツカシク
ヤ思ヒケン足バヤニ行ケリ。別ル、ニ及テ予因縁再會ヲ期ス
ト言ケレバ。永徳。閻浮ノ再會何ゾ期センヤ。幸ニ淨土ニテ相見
ノミト云テ別レヌ。又或人海岸ニ住スレバ水想觀ヲシ玉フカ
ト問ケレバ。ナサズト答ヘケリ。夜更テハ或ハ念佛ノ聲スト
漁舟ノ人言ケルトナン。予永徳ガ形ヲ見ルニ枯木ノ如シ。心
ヲ見ルニ死灰ニ似タリ。法ヲ話スルヲ聞ケハ邪見ノ人ニアラ
ズ。況ヤ素紅ニ答ヘケル旨道理著明ナリ。思フニ此者ハ徳

隱シ狂ヲ舉ルナルベシ。心中ノ所證推テ知ヌベシ。五塵六欲
ノ境ニハ露ハガリモ著ナシト見タリ。是ノ如ク此ノ世ヲ忘レナバ
誰人カ決定往生セザランヤ。黃金ハ人ノ欲スル所ナレドモ目ニサヘ
見ズ。妻子ハ人ノ愛著スル所ナレドモ一度ハナレテ復言ハズ。中ニモ
死ハ人ノ怖畏スル所。滿界ノ財寶モ命ニ代ヘガタケレドモ。死
ヲ見ルコト歸ルガ如シ。心中ノ樂シミイクバクゾヤ。羨シキコトナリ。今
茲五十九歳。現ニ讚州白鳥郡安宅ノ海岸ニ住セリ。上古
ノ伏見ノ翁ト同轍人カ。故ニ今記シテ後人ニ貽スノミ
元魏洛陽ノ慧凝法師冥中所見ノ事
支那ノ慧凝法師ハ何レノ許ノ人ト云コトヲ知ラズ洛邑ニ居ス。異
藝アルコトナク正ニ心戒ヲ修練スルノミ。嘗テ疾デ俄カニ死ス。七
日アツテ蘇リ冥土ノ事ヲ語ル。初メ閻王ノ前ニ至ルニ五人ノ沙門

ノ言ニ違ハズバカリ法ノ談ヲナス。永徳ガ曰ク我ハ一向
宗ナリ。宗ノ心ハ一向一心トテ万事ヲ放下シ念佛スルナリ。
此窟ニ數珠袈裟直綴モ置ベケレト。雨ノ滴ニ腐レバ用ヒズ
トテ。其外法談少シバカリセシガ。巳ノ刺ニ成ケレバ。人里ニ食ヲ
乞ニ出ケル。吾們モ伴ナヒテ竟路語リケリ。永徳ムツカシク
ヤ思ヒケン足バヤニ行ケリ。別ル、ニ及テ予因縁再會ヲ期ス
ト言ケレバ。永徳。閻浮ノ再會何ゾ期センヤ。幸ニ淨土ニテ相見
ノミト云テ別レヌ。又或人海岸ニ住スレバ水想觀ヲシ玉フカ
ト問ケレバ。ナサズト答ヘケリ。夜更テハ或ハ念佛ノ聲スト
漁舟ノ人言ケルトナン。予永徳ガ形ヲ見ルニ枯木ノ如シ。心
ヲ見ルニ死灰ニ似タリ。法ヲ話スルヲ聞ケハ邪見ノ人ニアラ
ズ。況ヤ素紅ニ答ヘケル旨道理著明ナリ。思フニ此者ハ徳

隱シ狂ヲ舉ルナルベシ。心中ノ所證推テ知ヌベシ。五塵六欲
ノ境ニハ露ハガリモ著ナシト見タリ。是ノ如ク此ノ世ヲ忘レナバ
誰人カ決定往生セザランヤ。黃金ハ人ノ欲スル所ナレドモ目ニサヘ
見ズ。妻子ハ人ノ愛著スル所ナレドモ一度ハナレテ復言ハズ。中ニモ
死ハ人ノ怖畏スル所。滿界ノ財寶モ命ニ代ヘガタケレドモ。死
ヲ見ルコト歸ルガ如シ。心中ノ樂シミイクバクゾヤ。羨シキコトナリ。今
茲五十九歳。現ニ讚州白鳥郡安宅ノ海岸ニ住セリ。上古
ノ伏見ノ翁ト同轍人カ。故ニ今記シテ後人ニ貽スノミ
元魏洛陽ノ慧凝法師冥中所見ノ事
支那ノ慧凝法師ハ何レノ許ノ人ト云コトヲ知ラズ洛邑ニ居ス。異
藝アルコトナク正ニ心戒ヲ修練スルノミ。嘗テ疾デ俄カニ死ス。七
日アツテ蘇リ冥土ノ事ヲ語ル。初メ閻王ノ前ニ至ルニ五人ノ沙門

アリ次第二來テ罪福ヲ論ゼラル。一リハ寶明寺ノ智聖法師。平生坐禪苦行スルヲ以テ天二生ズ。一リハ般若寺ノ道品涅槃經四十卷ヲ誦ズルヲ以テ又同ジク天二生ゼリ。一リハ融覺寺ノ曇護最涅槃華嚴經ヲ講シテ徒衆千人ヲ領ズ。琰魔王ノ曰ク。經ヲ講ズル者ハ心ニ彼我ヲ懷テ我慢貢高ナリ。是比丘ノ第一ノ麤行ナリ。今唯試ニ坐禪誦經セヨト。最ノ曰ク貧道身ヲ立テヨリコノカタ只講導ヲ好ム。禪誦スルコトアタハズト。王ノ曰ク司ニ付セント。即チ青衣ノ偉人數輩最ヲ送テ西北ノ黑門ニ到ラシム。是地獄一リハ禪林寺ノ道恒檀越ヲ勸メテ一切經ヲ作り。佛像十軀ヲ作ル。王ノ曰ク沙門ノ體必ズ心ヲ攝メ道ヲ守リ。志ヲ禪誦ニ在ベシ。世事ニ于ラス喧繁ヲ務メザレ。經像ヲ作ルトイヘトモ止他ノ財物ヲ

得ント欲シテ。貪心即チ起ル。既ニ貪行ヲ長シテ三毒熾然トシテ煩惱具足スト。又黑門ニ入シム。第五ハ靈覺寺ノ寶明。自ら稱ス未ダ出家セザル時。隴西ノ大守トシテ靈覺寺ヲ造リ。即チ官ヲ棄テ、道ニ入ル。禪誦セズトイヘトモ禮拜闕スト。王ノ曰ク卿刺史タルノ日理ヲ曲法ヲ枉テ民ノ財ヲ劫奪ス。寺ヲ造ルトイヘトモ卿ガ力ニアラズ。何ゾ此ヲ説コトヲ勞セント。又青衣ニ付テ黑門ニ入ラシムト。慧凝ハ悞テ追攝スルナリト云テ歸スニ蘊レリ。即チ胡太后ニ此ノ事ヲ奏シケレバ。黃門侍郎徐紇ヲシテ慧凝ノ説ニ依テ。寺ノ名并ニ僧ノ名ヲ尋檢シムルニ一モ違フコトナシ。五僧皆ナ一七日已前ニ死ス。平生ノ行業モ皆慧凝ノ説ニ異ルコトナシ。太后稱歎スルコト久シテ詔シテ坐禪誦經ノ僧一百人ヲ請シテ。常ニ内殿ニ置テ供養ズ。又詔シテ比丘ノ

アリ次第二來テ罪福ヲ論ゼラル。一リハ寶明寺ノ智聖法師。平生坐禪苦行スルヲ以テ天二生ズ。一リハ般若寺ノ道品涅槃經四十卷ヲ誦ズルヲ以テ又同ジク天二生ゼリ。一リハ融覺寺ノ曇護最。涅槃華嚴經ヲ講シテ徒衆千人ヲ領ズ。琰魔王ノ曰ク。經ヲ講ズル者ハ心ニ彼我ヲ懷テ我慢貢高ナリ。是比丘ノ第一ノ麤行ナリ。今唯試ニ坐禪誦經セヨト。最ノ曰ク貧道身ヲ立テ、ヨリコノカタ只講導ヲ好ム。禪誦スルコトアタハズト。王ノ曰ク司ニ付セント。即チ青衣ノ偉人數輩最ヲ送テ西北ノ黑門ニ到ラシム。是地獄一リハ禪林寺ノ道恒檀越ヲ勸メテ一切經ヲ作り。佛像十軀ヲ作ル。王ノ曰ク沙門ノ體必ズ心ヲ攝メ道ヲ守リ。志ヲ禪誦ニ在ベシ。世事ニ于ラス喧繁ヲ務メザレ。經像ヲ作ルトイヘトモ止他ノ財物ヲ

得ント欲シテ。貪心即チ起ル。既ニ貪行ヲ長シテ三毒熾然トシテ煩惱具足スト。又黑門ニ入シム。第五ハ靈覺寺ノ寶明。自ら稱ス未ダ出家セザル時。隴西ノ大守トシテ靈覺寺ヲ造リ。即チ官ヲ棄テ、道ニ入ル。禪誦セズトイヘトモ禮拜闕スト。王ノ曰ク卿刺史タルノ日理ヲ曲法ヲ枉テ民ノ財ヲ劫奪ス。寺ヲ造ルトイヘトモ卿ガ力ニアラズ。何ゾ此ヲ説コトヲ勞セント。又青衣ニ付シテ黑門ニ入ラシムト。慧凝ハ悞テ追攝スルナリト云テ歸スニ蘊レリ。即チ胡太后ニ此ノ事ヲ奏シケレバ。黃門侍郎徐紇ヲシテ慧凝ノ説ニ依テ。寺ノ名并ニ僧ノ名ヲ尋檢シムルニ一モ違フコトナシ。五僧皆ナ一七日已前ニ死ス。平生ノ行業モ皆慧凝ノ説ニ異ルコトナシ。太后稱歎スルコト久シテ詔シテ坐禪誦經ノ僧一百人ヲ請シテ。常ニ内殿ニ置テ供養ズ。又詔シテ比丘ノ

經像ヲ持シテ街路ニ在テ乞索コトヲ聽サズ。慧疑ハ是ヨリ
白鹿山ニ隱居シテ道ヲ修ス。洛陽ノ僧此ヨリ多ク禪ヲ修
シ經ヲ誦ストイヘリ。宋高僧訓日記ニハ慧疑ヲ慧疑ニ作ル。
智聰ニ作ル。曇謨最ヲ曇最ニ作リ。道恒ヲ道弘ニ作リ。
寶明ヲ審眞ニ作ル。何カ是ナルコトヲ知ラズ。寔ニ以レバ講
說スルモノハ。多クハ自讃毀他シ我慢貢高ナリ。又多クハ利養
名譽ヲ貪ル。故ニ地獄ニ墮セシコト宜ナリ。但シ利名ヲ恐レテ
講說ヲ廢セバ。如來ノ教法即チ絶スベシ。講說ヲ聞テコソ
我が道心モ發レリ。講說勸導セズンバ誰人ガ道ニ入ンヤ。サ
レバ當世ヲ利スルニハ講說ニシクハナク。未來ヲ益スルハ書ヲ
著スニシクハナシト古人モイヘリ。又設ヒ坐禪誦經ノ僧ナリト
モ我慢ニシテ名利ヲ貪ラバ。亦墮獄ヲ免レシ。講說ノ僧慈愍ノ

心深ク名利ノ思ヒ淺クシテ我慢ヲ却ケバ。豈止天堂ノミナ
ランヤ速カニ淨土ニ往生スベシ。況ヤ曇謨最ハ道士姜斌ト
爭論ス。護法ノ力最大ナリ。何ゾ一邊ノミヲ見ンヤ。然レドモ
講導ハ化他ハ多ケレドモ自行即チ廢スレバ。湯ヲ掬シテ水中
ニ投ズルニ却テ氷聚ヲ添ルガ如シ。南嶽天台ノ遺訓誠ナ
ルカナ。而モ大乘ノ菩薩ハ。身ハ鑊湯ニ沈ムトモ利生ヲ先トスル
ガ故ニ講說ヲ嫌フベカラズ。若シ自行満足シテ後ニ他ヲ利セン
ト思ハバ。古ノ玄奘・增賀。今ノ永徳ガ如クニスベシ。名利ハ鼠ノ
多キガ如ク。カレドモくサラズ。行サキくニアリト。明慧上人ノ
仰セラレシ寔ナルカナ。又淨影寺ノ慧遠法師ハ教海ノ明珠
ナレドモ。慧恭ノ但信ニシテ普門品ヲ誦ジ得タルニ及バズ。隋ノ
明舜法師ハ釋門ノ威鳳ニシテ。智度論ヲ講ズルヲ以テ名ヲ顯セ

經像ヲ持シテ街路ニ在テ乞索コトヲ聽サズ。慧疑ハ是ヨリ
白鹿山ニ隱居シテ道ヲ修ス。洛陽ノ僧此ヨリ多ク禪ヲ修
シ經ヲ誦ストイヘリ。宋高僧訓日記ニハ慧疑ヲ慧疑ニ作ル。
智聰ニ作ル。曇謨最ヲ曇最ニ作リ。道恒ヲ道弘ニ作リ。
寶明ヲ審眞ニ作ル。何カ是ナルコトヲ知ラズ。寔ニ以レバ講
說スルモノハ。多クハ自讃毀他シ我慢貢高ナリ。又多クハ利養
名譽ヲ貪ル。故ニ地獄ニ墮セシコト宜ナリ。但シ利名ヲ恐レテ
講說ヲ廢セバ。如來ノ教法即チ絶スベシ。講說ヲ聞テコソ
我が道心モ發レリ。講說勸導セズンバ誰人ガ道ニ入ンヤ。サ
レバ當世ヲ利スルニハ講說ニシクハナク。未來ヲ益スルハ書ヲ
著スニシクハナシト古人モイヘリ。又設ヒ坐禪誦經ノ僧ナリト
モ我慢ニシテ名利ヲ貪ラバ。亦墮獄ヲ免レシ。講說ノ僧慈愍ノ

心深ク名利ノ思ヒ淺クシテ我慢ヲ却ケバ。豈止天堂ノミナ
ランヤ速カニ淨土ニ往生スベシ。況ヤ曇謨最ハ道士姜斌ト
爭論ス。護法ノ力最大ナリ。何ゾ一邊ノミヲ見ンヤ。然レドモ
講導ハ化他ハ多ケレドモ自行即チ廢スレバ。湯ヲ掬シテ水中
ニ投ズルニ却テ氷聚ヲ添ルガ如シ。南嶽天台ノ遺訓誠ナ
ルカナ。而モ大乘ノ菩薩ハ。身ハ鑊湯ニ沈ムトモ利生ヲ先トスル
ガ故ニ講說ヲ嫌フベカラズ。若シ自行満足シテ後ニ他ヲ利セン
ト思ハバ。古ノ玄奘・增賀。今ノ永徳ガ如クニスベシ。名利ハ鼠ノ
多キガ如ク。カレドモくサラズ。行サキくニアリト。明慧上人ノ
仰セラレシ寔ナルカナ。又淨影寺ノ慧遠法師ハ教海ノ明珠
ナレドモ。慧恭ノ但信ニシテ普門品ヲ誦ジ得タルニ及バズ。隋ノ
明舜法師ハ釋門ノ威鳳ニシテ。智度論ヲ講ズルヲ以テ名ヲ顯セ

ドモ。冥官ノ福業ヲ徵責スルヲ見ニ。講解ハ浮虚誦文是實ナリト云。明舜曾テ智度論ヲ誦ズルコト六十卷ナリ。故ニ安樂ヲ得タリ。此ヨリ談論ヲ止メテ禪誦ヲ勵マストイヘリ。實ニ誦經誦呪ハ皆ナ如來ノ金口ヲ直ニ誦ズ。講解ハ凡智ヲ以テ解シ。凡語ヲ以テ説ク浮虚ナルコト宜ナルカナ。猶經文ハ梵ヲ翻シテ漢トナスガ故ニ少シキ浮虚ノ義アリ。陀羅尼ハ如來ノ金口ヲ今直ニ誦ズ。功德殊ニ勝レタルヲ知ヌベシ。況ヤ漢語ハ義淺ク梵語ハ一字多含ナリ。念佛ノ功德深キコトモ皆ナ梵語ニシテ一字多含ナレバナリ。欽テ講說唱導ノ人ニ稟ス。我慢ノ心ヲ以テ勦説シ雷同シ。他ヲ破シ自ヲ讚ジ。名ヲ干メ利ヲ貪ルコトナカレ。名利ハ鳩毒ナリ屏ケズンバアルベカラズ。恐レズンバアルベカラズ。曇最。道恒。審明。明舜ハ皆一時ノ龍象ナレ

ドモ。既ニ冥官ノ責ヲ免レズ。況ヤ今時ノ羝羊ヲヤ。誠メザルベケンヤ。慎マザルベケンヤ。
河州ノ希勤阿闍梨秘密ノ益ヲ得ル事
阿闍梨希勤字ハ實乘河州丹北ノ郡リ一屋村ノ人ナリ。慶安三年三月十八日ニ生ル。性ナリ柔和温順ニシテ相好備ハル。十八歳ノ時夢中ニ人アリ真言ヲ授ク。夢中ニ尊ムトイヘドモ何レノ尊ノ真言ト云コトヲ知ラズ。普ネク人ニ問フニ觀音ノ真言ナリケレバ。喜ンデ毎日念誦シケリ。後ニ産業ノ為ニ肥前ノ長崎ニ行テ。酒屋ニ事フルコト二年。主人ハ能ク人ヲ相スル者ナリ。熟視テ曰ク。汝チ在家ナラハ富貴ナルベシ。出家セバ徳行比ビナカルベシト。遂ニ故郷ニ歸テ父母ヲ養ハシガ為ニ酒ヲ釀ルニ。酒美ニシテ家稍富メリ。然レドモ志シ出塵ヲ欣テ禮誦

ドモ。冥官ノ福業ヲ徵責スルヲ見ニ。講解ハ浮虚誦文是實ナリト云。明舜曾テ智度論ヲ誦ズルコト六十卷ナリ。故ニ安樂ヲ得タリ。此ヨリ談論ヲ止メテ禪誦ヲ勵マストイヘリ。實ニ誦經誦呪ハ皆ナ如來ノ金口ヲ直ニ誦ズ。講解ハ凡智ヲ以テ解シ。凡語ヲ以テ説ク浮虚ナルコト宜ナルカナ。猶經文ハ梵ヲ翻シテ漢トナスガ故ニ少シキ浮虚ノ義アリ。陀羅尼ハ如來ノ金口ヲ今直ニ誦ズ。功德殊ニ勝レタルコト知ヌベシ。況ヤ漢語ハ義淺ク梵語ハ一字多含ナリ。念佛ノ功德深キコトモ皆ナ梵語ニシテ一字多含ナレバナリ。欽テ講說唱導ノ人ニ稟ス。我慢ノ心ヲ以テ勦説シ雷同シ。他ヲ破シ自ヲ讚ジ。名ヲ干メ利ヲ貪ルコトナカレ。名利ハ鳩毒ナリ屏ケズンバアルベカラズ。恐レズンバアルベカラズ。曇最。道恒。審明。明舜ハ皆一時ノ龍象ナレ

ドモ。既ニ冥官ノ責ヲ免レズ。況ヤ今時ノ羝羊ヲヤ。誠メザルベケンヤ。慎マザルベケンヤ。
河州ノ希勤阿闍梨秘密ノ益ヲ得ル事
阿闍梨希勤字ハ實乘河州丹北ノ郡リ一屋村ノ人ナリ。慶安三年三月十八日ニ生ル。性ナリ柔和温順ニシテ相好備ハル。十八歳ノ時夢中ニ人アリ真言ヲ授ク。夢中ニ尊ムトイヘドモ何レノ尊ノ真言ト云コトヲ知ラズ。普ネク人ニ問フニ觀音ノ真言ナリケレバ。喜ンデ毎日念誦シケリ。後ニ産業ノ為ニ肥前ノ長崎ニ行テ。酒屋ニ事フルコト二年。主人ハ能ク人ヲ相スル者ナリ。熟視テ曰ク。汝チ在家ナラハ富貴ナルベシ。出家セバ徳行比ビナカルベシト。遂ニ故郷ニ歸テ父母ヲ養ハシガ為ニ酒ヲ釀ルニ。酒美ニシテ家稍富メリ。然レドモ志シ出塵ヲ欣テ禮誦

懈ルヲナシ。延壽四年二月ニ延命寺ニ來テ出家ス。時二年
二十七ナリ。即チ和上ニ隨テ洛西ノ般若寺ニ行テ給仕シ。又
泉州ノ高山寺ニ到テ持念ス。秋北陸東海ヲ巡リテ善光寺
等ノ名刹ヲ拜ス。冬河内ニ歸テ十一月七日和上ニ從テ菩薩
戒ヲ受ク。余來油鉢傾ムクコトナク浮囊堅ク惜ム。五年二月
一日金剛界ノ壇ニ入り。學法灌頂ヲ受クルニ金剛波羅蜜
ヲ得タリ。和上思念スラク此子菩提心堅固ナルベシト。同
三月和上播州國分寺并ニ報恩寺ニ赴テ・梵網經及ビ
普門品ヲ講ズルニ。希勤同ジク隨ヘリ。秋泉州陶器ニ赴テ
和上ノ梵網ヲ講ズルヲ聞ク。同冬十一月和上ニ從テ十一面
觀音ノ一尊法ヲ受。蓋シ曾テ夢中ニ真言ヲ受テ持誦ス
レバナリ。行法ノ間靈瑞居多ナリ。和上法器ナルコトヲ知テ時

本不生ノ實義ヲ開示スルニ。未ダ密教ヲ學バズトイヘドモ
曾テ聞ルガ如ク稍其旨ヲ得タリ。六年二月八日大悲胎藏
生漫荼羅ニ入ル。前行ノ滿ズル夜。阿彌陀佛及ビ二大士ノ
光明照耀シテ雲中ニ現ジ玉ヲ夢ミル。入壇スルニ果シテ阿彌
陀佛ヲ得タリ。夏四月和上讚州多度郡屏風ガ浦善通寺
ニ赴テ法花ヲ講ズ。善通寺ハ曩祖誕生ノ地ナレバ誕生院
ト号ス。希勤又隨テ講ヲ聞ク。然レドモ性禪誦ヲ好テ學
問ヲ嗜ズ。彌聲ノ崛ニ入テ持誦スルニ靈瑞又多シ。講筵ニ陪
ルトイヘドモ誦呪怠ルコトナシ。遂ニ歎息シテ曰ク生死事大無常
迅速ナリ。何ゾ棲々トシテ人間ニ往來センヤ。我レ法花ヲ聞
其ノ宗歸スルトコ諸法如幻ニ出ルコトナシ。然レバ則チ講ヲ聞
モ即チ是。閑居シテ心ヲ息ルモ即チ是。如是因。如是緣。如是果。

懈ルコトナシ。延壽四年二月ニ延命寺ニ來テ出家ス。時二年
二十七ナリ。即チ和上ニ隨テ洛西ノ般若寺ニ行テ給仕シ。又
泉州ノ高山寺ニ到テ持念ス。秋北陸東海ヲ巡リテ善光寺
等ノ名刹ヲ拜ス。冬河内ニ歸テ十一月七日和上ニ從テ菩薩
戒ヲ受ク。余來油鉢傾ムクコトナク浮囊堅ク惜ム。五年二月
一日金剛界ノ壇ニ入り。學法灌頂ヲ受クルニ金剛波羅蜜
ヲ得タリ。和上思念スラク此子菩提心堅固ナルベシト。同
三月和上播州國分寺并ニ報恩寺ニ赴テ・梵網經及ビ
普門品ヲ講ズルニ。希勤同ジク隨ヘリ。秋泉州陶器ニ赴テ
和上ノ梵網ヲ講ズルヲ聞ク。同冬十一月和上ニ從テ十一面
觀音ノ一尊法ヲ受。蓋シ曾テ夢中ニ真言ヲ受テ持誦ス
レバナリ。行法ノ間靈瑞居多ナリ。和上法器ナルコトヲ知テ時

本不生ノ實義ヲ開示スルニ。未ダ密教ヲ學バズトイヘドモ
曾テ聞ルガ如ク稍其旨ヲ得タリ。六年二月八日大悲胎藏
生漫荼羅ニ入ル。前行ノ滿ズル夜。阿彌陀佛及ビ二大士ノ
光明照耀シテ雲中ニ現ジ玉ヲ夢ミル。入壇スルニ果シテ阿彌
陀佛ヲ得タリ。夏四月和上讚州多度郡屏風ガ浦善通寺
ニ赴テ法花ヲ講ズ。善通寺ハ曩祖誕生ノ地ナレバ誕生院
ト号ス。希勤又隨テ講ヲ聞ク。然レドモ性禪誦ヲ好テ學
問ヲ嗜ズ。彌聲ノ崛ニ入テ持誦スルニ靈瑞又多シ。講筵ニ陪
ルトイヘドモ誦呪怠ルコトナシ。遂ニ歎息シテ曰ク生死事大無常
迅速ナリ。何ゾ棲々トシテ人間ニ往來センヤ。我レ法花ヲ聞
其ノ宗歸スルトコ諸法如幻ニ出ルコトナシ。然レバ則チ講ヲ聞
モ即チ是。閑居シテ心ヲ息ルモ即チ是。如是因。如是緣。如是果。

④本12オ

④本11ウ

如是報。實相ニアラズト云フナシ。不如早ク阿練兒ニ就テ
持念セシニハト。即チ和上ニ隨テ文殊滅婬欲我慢陀羅尼
ヲ受テ河州ニ歸ル。小西見見桃ノ困居ニ入テ如法ニ修練スル
フ七七。靈感頗ル多シ。或夜神アリ告テ曰ク。今阿修羅月
宮ヲ捉ト。驚テ天ヲ望ムニ月蝕ナリ。即チ經説ノ妄ナラザル
フヲ知ル。又境界ノ中ニ於テ文殊大士瑞雲ノ中ニ住シ下ヲ
拜ス。即チ告テ言ク。勿見。勿聞。勿念。勿言。勿分別。勿住ト。
希勤聞テ身心泰然タリ。即チ思ハク六根門ヲ制セヨト宣フ
ナリト。又同州金田村ノ觀音寺ニ到テ大佛頂陀羅尼ヲ誦ス
ク一百日。其ノ間靈應居士ニ迷ガタシ。又慎テ人ニ語ラズ。
予ハ其ノ一二ヲ聞ケリ。或時魔障起テ心沸ガ如ク飛ガ如シ。希
勤是魔撓ナルヲ知テ。倍勇猛ニ神咒ヲ誦ズルニ一日一夜ヲ

經テ。泰然タルヲ得タリ。其ヨリ後夜夢ノ中ニモ常ニモ十
一面觀自在尊。我ガ傍ニ在テ共ニ臥シ玉ヲ見ル。復障尋
アルヲナシ。或日陀羅尼ヲ誦ジ。竟テ禮拜スルニ。第二度ノ禮
頭未ダアガラザルニ。道場ノ中變シテ廣博嚴淨ノ世界トナル。
無量ノ佛菩薩其中ニ充滿シ。寶對密池金殿玉樓アリ
天ヨリ諸ノ名花ヲ雨ス。雪ノ飛ガ如シ。音樂自ラ鳴リ。奇
香遠ク薰ズ。道場ヲ出デ。少時アツテ。傍人語ヲ交ルニ
隨テ妙境即チ没ス。又眠ニ在テモ淨土ノ如ク。東司西淨ニ
往ドモ道場即チ現ス。其ノ外ノ瑞應勝計スヘカラス。七年
正月和上尚讚州ニ在テ高松ノ邑ニ寄居ス。希勤又來
テ隨フ。夏四月不動ノ印契儀軌ヲ受テ修行ス。十九布
字ヲ觀ズルニ。字ニ至テ即チ火光定ニ入ル。自ラ見ニ舉

如是報。實相ニアラズト云コトナシ。不如早ク阿練兒ニ就テ
持念セシニハト。即チ和上ニ隨テ文殊滅婬欲我慢陀羅尼
ヲ受テ河州ニ歸ル。小西見見桃ノ困居ニ入テ如法ニ修練スル
コト七七。靈感頗ル多シ。或夜神アリ告テ曰ク。今阿修羅月
宮ヲ捉ト。驚テ天ヲ望ムニ月蝕ナリ。即チ經説ノ妄ナラザル
コトヲ知ル。又境界ノ中ニ於テ文殊大士瑞雲ノ中ニ住シ下ヲ
拜ス。即チ告テ言ハク。勿見。勿聞。勿念。勿言。勿分別。勿住ト。
希勤聞テ身心泰然タリ。即チ思ハク六根門ヲ制セヨト宣フ
ナリト。又同州金田村ノ觀音寺ニ到テ大佛頂陀羅尼ヲ誦ス
ルコト一百日。其ノ間靈應居士ニ迷ガタシ。又慎テ人ニ語ラズ。予
ハ其ノ一二ヲ聞ケリ。或時魔障起テ心沸ガ如ク飛ガ如シ。希
勤是魔撓ナルコトヲ知テ。倍勇猛ニ神咒ヲ誦ズルニ一日一夜ヲ

經テ。泰然タルコトヲ得タリ。其ヨリ後夜夢ノ中ニモ常ニモ十
一面觀自在尊。我ガ傍ニ在テ共ニ臥シ玉ヲ見ル。復障尋
アルコトナシ。或日陀羅尼ヲ誦ジ。竟テ禮拜スルニ。第二度ノ禮
頭未ダアガラザルニ。道場ノ中變シテ廣博嚴淨ノ世界トナル。
無量ノ佛菩薩其中ニ充滿シ。寶對密池金殿玉樓アリ
天ヨリ諸ノ名花ヲ雨スコト雪ノ飛ガ如シ。音樂自ラ鳴リ。奇
香遠ク薰ズ。道場ヲ出デ。少時アツテ。傍人語ヲ交ルニ
隨テ妙境即チ没ス。又眠ニ在テモ淨土ノ如ク。東司西淨ニ
往ドモ道場即チ現ス。其ノ外ノ瑞應勝計スヘカラス。七年
正月和上尚讚州ニ在テ高松ノ邑ニ寄居ス。希勤又來
テ隨フ。夏四月不動ノ印契儀軌ヲ受テ修行ス。十九布
字ヲ觀ズルニ。字ニ至テ即チ火光定ニ入ル。自ラ見ニ舉

④本13オ

④本12ウ

身一大火聚ト成テ内外通徹ス。身心悦樂スルヲ喩ヘガタシ。又修念ノ間現ニ道場變シテ廣大莊嚴ノ殿堂トナル。諸佛菩薩都會シテ灌頂ヲ行ゼントシテ各ノ役ニ充。一人言テ曰ク不動明王ハ某ノ事ヲ作ベシト。希勤聲ニ應シテ曰ク唯ト。予倚ニ在テ親リ音ヲ聞リ。或ハ石壁無尋ニシテ能ク見或ハ人ノ心念ヲ知ル。案ニ通ヲ發セルカト思ヘリ。又六月ニ金剛界ノ大法ヲ修ス。予モ亦同ジク壇ヲ並ベテ勤メンガ。障雲厚ガ故ニ妙境ヲ見聞スルコトアタハズ。唯希勤ガ靈應ノ端ヲ知ノミ。金剛界修行ノ間靈應前ニ倍ス。或ハ界會現前シ。或ハ諸佛ノ法界定ニ住シ玉フヲ見ル。或ハ蓮花ノ車輪ノ如クナルヲ見ル。又或夜大自在天鳥摩妃ト共ニ來テ種々ニ障導ヲ作ントス。降三世尊奮怒赫如タリ。妃ノ曰ク降三世尊

此ノ人ヲ擁護ス。燒スヲ得ズト遂ニ去ル。時ニ明王降魔ノ印言ヲ授ク。自後彼ノ印言ヲ以テシバク障導ヲ降ス。予其ノ倚ニ卧セリトイヘト三世尊ヲ見ズ。祇夢ミラク障者アツテ現ズ師子ノ形ノ如シ。シカルヲ希勤手ヲ以テ撥遣ト思テ恐怖甚シ。明日予希勤ニ語ルニ希勤上ノ事ヲ語レリ。又夢中ニモ金剛界ヲ行ズルコト畫ノ行法ト異ルコトナシ。唯夢中ニハ字觀ヨリ始テ。諸觀皆軌ノ説ノ如クニ。觀想成ズルヲ異トスルノミ。五相成身ノ時ニ觀想皆成ス。證金剛身ニ至テ全體金蓮花トナル。光明照耀シテ身心悦樂スルコト三禪ノ樂ノ如シ。又四禮ノ西方ノ禮ニ身中ノ微塵數金剛法ト成ト云ニ至テ。十方法界ノ所有ノ塵悉ク觀自在尊トナレリ。其外ノ觀法皆ナ成就シテ妙境無量ナレドモ渾テ他ニ語ラズ。予ハ同時ニ修法シ同

身一大火聚ト成テ内外通徹ス。身心悦樂スルコト喩ヘガタシ。又修念ノ間現ニ道場變シテ廣大莊嚴ノ殿堂トナル。諸佛菩薩都會シテ灌頂ヲ行ゼントシテ各ノ役ニ充。一人言テ曰ク不動明王ハ某ノ事ヲ作ベシト。希勤聲ニ應シテ曰ク唯ト。予倚ニ在テ親リ音ヲ聞リ。或ハ石壁無尋ニシテ能ク見或ハ人ノ心念ヲ知ル。案ニ通ヲ發セルカト思ヘリ。又六月ニ金剛界ノ大法ヲ修ス。予モ亦同ジク壇ヲ並ベテ勤メンガ。障雲厚ガ故ニ妙境ヲ見聞スルコトアタハズ。唯希勤ガ靈應ノ端ヲ知ノミ。金剛界修行ノ間靈應前ニ倍ス。或ハ界會現前シ。或ハ諸佛ノ法界定ニ住シ玉フヲ見ル。或ハ蓮花ノ車輪ノ如クナルヲ見ル。又或夜大自在天鳥摩妃ト共ニ來テ種々ニ障導ヲ作ントス。降三世尊奮怒赫如タリ。妃ノ曰ク降三世尊

此ノ人ヲ擁護ス。燒スコトヲ得ズト遂ニ去ル。時ニ明王降魔ノ印言ヲ授ク。自後彼ノ印言ヲ以テシバク障導ヲ降ス。予其ノ倚ニ卧セリトイヘト三世尊ヲ見ズ。祇夢ミラク障者アツテ現ズ師子ノ形ノ如シ。シカルヲ希勤手ヲ以テ撥遣ト思テ恐怖甚シ。明日予希勤ニ語ルニ希勤上ノ事ヲ語レリ。又夢中ニモ金剛界ヲ行ズルコト畫ノ行法ト異ルコトナシ。唯夢中ニハ字觀ヨリ始テ。諸觀皆軌ノ説ノ如クニ。觀想成ズルヲ異トスルノミ。五相成身ノ時ニ觀想皆成ス。證金剛身ニ至テ全體金蓮花トナル。光明照耀シテ身心悦樂スルコト三禪ノ樂ノ如シ。又四禮ノ西方ノ禮ニ身中ノ微塵數金剛法ト成ト云ニ至テ。十方法界ノ所有ノ塵悉ク觀自在尊トナレリ。其外ノ觀法皆ナ成就シテ妙境無量ナレドモ渾テ他ニ語ラズ。予ハ同時ニ修法シ同

廣く其の事

壇ニ灌頂ヲ受。故ニ其ノ万ガ一ヲ聞ケリ。又八月ニ一字頂輪王ノ瑜伽ヲ修ス。時ニ和上理趣經及ビ祕鍵ヲ講ズ。希勤此ヲ聽ント欲ス。然レドモ時ヲ尅シテ念誦スレバ餘暇アリトモ講ヲ聞コト如何ト疑フ。遂ニ誓ハク是若シ法ニ違ゼズンバ冀クハ一ツノ瑞ヲ感ゼント。即チ講ヲ聞ノ間ニ佛頂輪王威儀嚴肅ニシテ七寤千子ニ圍遶セラレテ現ジ玉ヘリ。又聞所ノ祕密ノ奧義曾テ修中ニ證ゼシト。諸聖ノ開示シ玉フト符節ヲ合セタルガ如シ。希勤念ハク我レ如來ノ出世ニ逢フアタハズ。末法惡世ニ生ノ邊國ニアリ。恨ミノ中ノ恨ミ悲ミノ上ノ悲ミナリ。猶鼻祖大師ノ化ヲ布ク時ニ生ジナバ復何ヲカ恨ミンヤ。然レドモ今幸ニ密教ヲ聽テ諸佛ノ祕密藏ヲ領ス。奇ナルカナ和上ノ妙辯能深義ヲ演テ聖ノ所說異ラス。佛法ノ心

髓要妙茲ニアリト。其ノ日持念ノ中主藏神寶現シテ曰ク汝チ師ノ辯ヲ怪シムフナカレト云云。希勤雀躍シテ予ニ語ル予モ亦延命寺ノ古事ヲ語リテ。俱ニ喜ビケリ。又一日主藏神一頌ヲ説テ曰ク。一念一切。一切常住。常住一心。一心堅固。ト又無能勝明王常ニ現シテ擁護シテ魔障アルコトナシ。九月和上河州ニ歸ル希勤モ隨フ。又胎藏界ノ大法ヲ修スルニ。無堪忍大護常恒ニ現シテ擁護ス。靈應倍復前ヨリモ多シ。冬十二月不動ノ護摩ヲ修ス。八年ノ春又金剛界ノ大法ヲ修ス。時ニ世事多シテ心シバク散動シテ定ニ入り易カラズ。境界ノ中ニ於テ人アリ一ノ真言ヲ授ク。誦ズルニ即チ寂靜ナリ。明日和上ニ白ス。即チ持國天ノ真言ナリ和上頷ノ感ズ。二月二日兩界ノ許可ヲ受ク。同十三日傳法阿闍黎ノ職位ヲ

壇ニ灌頂ヲ受。故ニ其ノ万ガ一ヲ聞ケリ。又八月ニ一字頂輪王ノ瑜伽ヲ修ス。時ニ和上理趣經及ビ祕鍵ヲ講ズ。希勤此ヲ聽ント欲ス。然レドモ時ヲ尅シテ念誦スレバ餘暇アリトモ講ヲ聞コト如何ト疑フ。遂ニ誓ハク是若シ法ニ違ゼズンバ冀クハ一ツノ瑞ヲ感ゼント。即チ講ヲ聞ノ間ニ佛頂輪王威儀嚴肅ニシテ七寤千子ニ圍遶セラレテ現ジ玉ヘリ。又聞所ノ祕密ノ奧義曾テ修中ニ證ゼシト。諸聖ノ開示シ玉フト符節ヲ合セタルガ如シ。希勤念ハク我レ如來ノ出世ニ逢フアタハズ。末法惡世ニ生シテ邊國ニアリ。恨ミノ中ノ恨ミ悲ミノ上ノ悲ミナリ。猶鼻祖大師ノ化ヲ布ク時ニ生ジナバ復何ヲカ恨ミンヤ。然レドモ今幸ニ密教ヲ聽テ諸佛ノ祕密藏ヲ領ス。奇ナルカナ和上ノ妙辯能深義ヲ演テ聖ノ所說異ラス。佛法ノ心

髓要妙茲ニアリト。其ノ日持念ノ中主藏神寶現シテ曰ク汝チ師ノ辯ヲ怪シムコトナカレト云云。希勤雀躍シテ予ニ語ル予モ亦延命寺ノ古事ヲ語リテ。俱ニ喜ビケリ。又一日主藏神一頌ヲ説テ曰ク。一念一切。一切常住。常住一心。一心堅固。ト又無能勝明王常ニ現シテ擁護シテ魔障アルコトナシ。九月和上河州ニ歸ル希勤モ隨フ。又胎藏界ノ大法ヲ修スルニ。無堪忍大護常恒ニ現シテ擁護ス。靈應倍復前ヨリモ多シ。冬十二月不動ノ護摩ヲ修ス。八年ノ春又金剛界ノ大法ヲ修ス。時ニ世事多シテ心シバク散動シテ定ニ入り易カラズ。境界ノ中ニ於テ人アリ一ノ真言ヲ授ク。誦ズルニ即チ寂靜ナリ。明日和上ニ白ス。即チ持國天ノ真言ナリ和上頷ノ感ズ。二月二日兩界ノ許可ヲ受ク。同十三日傳法阿闍黎ノ職位ヲ

受東寺ノ深祕唯授一人ノ印璽皆ナ傳フ。三月ノ末ニ教興寺ニ移ル。此寺荒廢ノ年シ久シ。和上多聞天ノ祕軌ヲ授ケテ寺塔ノ檀興ヲ祈ラシム。修中多聞天王形ヲ現ズ身相金色ナリ。然レドモ希勤本ヨリ厚ク如意輪ヲ信ズ。故ニ自ラ改メテ如意輪ノ祕法ヲ修ス。彼此同シク寶部ノ尊ナレバナリ。教興寺ノ東西民屋檐ヲ比ブ。故ニ喧鬧ニシテ觀行ニ便リアラス。因テ九月十八日一ノ瀧ノ幽居ヲ構テ居ス。其室方丈ニタラズ榻一ツ鐘一ツ。常坐不卧日夜ニ三昧地ニアリ。或ハ海曠ニ向テ理ノ常在ヲ觀ジ。或ハ月光ニ對シテ法界心ヲ悟ル。予九年ノ春故ニ一ノ瀧ノ居ヲ訪フテ法話時ヲ移ス。希勤語テ曰ク夢中ニ佛ノ來現ヲ拜シ。又現ニ此ノ居處ノ淨土變ズルヲ見ル。是ハ前方便ナリ。種々不思議ノ事アリトイヘドモ十

喩ノ觀ヲ以テ著想ヲ生ゼス。故ニ比來又妙境少ナリ。唯日ニ身心輕安ナルヲ覺フ。無量ノ珍寶求メザルニ自ラ得ルノミ。他人ノ心念ヲ知り還方ノ事ヲ見ルハ。外道モ亦通アリ。誰カ是ヲ是トセン。法明道ヲ見テ豈容易ナランヤ。勤メテ精進シテ懈怠ヲ生ズルコトナカレ。頓覺成佛神通ノ乘宗ニ密教ナリ。我此界ノ緣又シカラズ。早世ノ後十年ニシテ和上ノ法大ニ興ラン。檀興モ亦成就スベシト。其ノ外懇款ノ教誠ヲ受ク。同五月小西見ノ息心庵ニ移リ十有七日ニ端坐シテ化ス。歲三十二。遺言ニ任セテ法衣ヲ披著セシメ。西ニ向テ坐セシメテ。息心庵ノ側ニ窀穸ス。臨終ノ前曾テ知己ノ僧呼正ニ語ラク。我死期近キニアリ。疇昔ノ夜夢ラク鶴首ノ船ニ乘シテ西ヲサシテ行ク。地藏菩薩ヲ上首トシテ諸ノ聖衆棹

受。東寺ノ深祕唯授一人ノ印璽皆ナ傳フ。三月ノ末ニ教興寺ニ移ル。此寺荒廢ニシテ年シ久シ。和上多聞天ノ祕軌ヲ授ケテ寺塔ノ檀興ヲ祈ラシム。修中多聞天王形ヲ現ズ身相金色ナリ。然レドモ希勤本ヨリ厚ク如意輪ヲ信ズ。故ニ自ラ改メテ如意輪ノ祕法ヲ修ス。彼此同シク寶部ノ尊ナレバナリ。教興寺ノ東西民屋檐ヲ比ブ。故ニ喧鬧ニシテ觀行ニ便リアラス。因テ九月十八日一ノ瀧ノ幽居ヲ構テ居ス。其室方丈ニタラズ榻一ツ鐘一ツ。常坐不卧日夜ニ三昧地ニアリ。或ハ海曠ニ向テ理ノ常在ヲ觀ジ。或ハ月光ニ對シテ法界心ヲ悟ル。予九年ノ春故ニ一ノ瀧ノ居ヲ訪フテ法話時ヲ移ス。希勤語テ曰ク夢中ニ佛ノ來現ヲ拜シ。又現ニ此ノ居處ノ淨土變ズルヲ見ル。是ハ前方便ナリ。種々不思議ノ事アリトイヘドモ十

喩ノ觀ヲ以テ著想ヲ生ゼス。故ニ比來又妙境少ナリ。唯日ニ身心輕安ナルコトヲ覺フ。無量ノ珍寶求メザルニ自ラ得ルノミ。他人ノ心念ヲ知り還方ノ事ヲ見ルハ。外道モ亦通アリ。誰カ是ヲ是トセン。法明道ヲ見コト豈容易ナランヤ。勤メテ精進シテ懈怠ヲ生ズルコトナカレ。頓覺成佛神通ノ乘宗ニ密教ナリ。我此界ノ緣又シカラズ。早世ノ後十年ニシテ和上ノ法大ニ興ラン。檀興モ亦成就スベシト。其ノ外懇款ノ教誠ヲ受ク。同五月小西見ノ息心庵ニ移リ十有七日ニ端坐シテ化ス。歲三十二。遺言ニ任セテ法衣ヲ披著セシメ。西ニ向テ坐セシメテ。息心庵ノ側ニ窀穸ス。臨終ノ前曾テ知己ノ僧呼正ニ語ラク。我死期近キニアリ。疇昔ノ夜夢ラク鶴首ノ船ニ乘シテ西ヲサシテ行ク。地藏菩薩ヲ上首トシテ諸ノ聖衆棹

テ法音ヲ歌詠シテ至フ。其音微妙ニシテ言ニ宣ガタシ。淨土ニ
生ゼンコト何ゾ疑シヤ。ト希勤出家シテヨリコノカタオニ六
年。其間ノ靈異具サニ記シカタシ。或ハ怪異ニ渡レバ人ノ毀
謗ヲ生ゼンコトヲ恐ル。故ニ悉ク記セズ。希勤モ亦慎デ人ニ語ラ
ズ。希勤ハ予ガ法弟ナレバ粗其ノ一二ヲ聞ケリ。彼ノ南山
大師ノ天ノ侍應ヲ感ゼシ。一モ他ニ語ルコトナシ。故ニ大師ノ在
世ニハ世人此ヲ知ラズ。終南山ノ隱士孫思邈ハ道宣律師ノ
知己ニシテ。謫仙人ナレバ能ク大師ノ靈應ヲ知ル。大師遷化ノ
後ニ孫真人。人間ニ傳フ。故ニ今ニ至ルマデ人此ヲ知レリ。孫
思邈若シ人ニ傳ヘズンバ誰カ此ヲ知ンヤ。希勤ガ靈應少ナカ
ラズ。予ハ實ニ季世ノ孫真人ナリ。希勤寂シテ後和上哀慟シテ
墓誌ヲ撰シテ曰ク嗚呼悲矣。夙債未償乎。歎惡塵紛乎。忽

就松檟我。不爭奈。今不任戀惜之情。且爲勸後來。略錄
梗槩。事具別傳。故茲不贅。冀諸學者。勿責鄙拙。是非
夸一在警策云。墓誌ノ末章也。希勤右ノ手ノ中指。螺文ノ所ニ輪寶
ノ文アリ。餘人ハ見ス予獨リ見テ驚異ス。又曾テ予ニ語ラク
菩薩ノ相諸天ノ相太凡相似タリ。唯シ菩薩ハ染汚ノ色アル
コトナシ。欲界ノ天ハ欲染ノ色アルヲ異トスルノミト。又智拳印等
ノ深義皆ナ金薩ノ開示ヲ蒙ル。和上一二ニ聞テ驚歎セスト
云コトナシ。希勤ガ行狀具サニ知レルハ唯予一人ノミ。故ニ有信ノ
警策セシガ爲ニ他人ノ毀リヲ顧ミス茲ニ一二ヲ記スル者ナリ
和州生駒山般若窟寶山和尚ノ事
阿闍黎苾芻湛海字ハ寶山和尚ハ。和州平群郡生駒。都史
陀山般若窟。大聖無動寺ノ開山祖ナリ。元勢州安濃郡。一

テ法音ヲ歌詠シ玉フ。其音微妙ニシテ言ニ宣ガタシ。淨土ニ
生ゼンコト何ゾ疑ハンヤ。ト希勤出家シテヨリコノカタオニ六
年。其間ノ靈異具サニ記シカタシ。或ハ怪異ニ渡レバ人ノ毀
謗ヲ生ゼンコトヲ恐ル。故ニ悉ク記セズ。希勤モ亦慎デ人ニ語ラ
ズ。希勤ハ予ガ法弟ナレバ粗其ノ一二ヲ聞ケリ。彼ノ南山
大師ノ天ノ侍應ヲ感ゼシ。一モ他ニ語ルコトナシ。故ニ大師ノ在
世ニハ世人此ヲ知ラズ。終南山ノ隱士孫思邈ハ道宣律師ノ
知己ニシテ。謫仙人ナレバ能ク大師ノ靈應ヲ知ル。大師遷化ノ
後ニ孫真人。人間ニ傳フ。故ニ今ニ至ルマデ人此ヲ知レリ。孫
思邈若シ人ニ傳ヘズンバ誰カ此ヲ知ンヤ。希勤ガ靈應少ナカ
ラズ。予ハ實ニ季世ノ孫真人ナリ。希勤寂シテ後和上哀慟シテ
墓誌ヲ撰シテ曰ク嗚呼悲矣。夙債未償乎。歎惡塵紛乎。忽

就松檟我。不爭奈。今不任戀惜之情。且爲勸後來。略錄
梗槩。事具別傳。故茲不贅。冀諸學者。勿責鄙拙。是非
夸一在警策云。墓誌ノ末章也。希勤右ノ手ノ中指。螺文ノ所ニ輪寶
ノ文アリ。餘人ハ見ス予獨リ見テ驚異ス。又曾テ予ニ語ラク
菩薩ノ相諸天ノ相太凡相似タリ。唯シ菩薩ハ染汚ノ色アル
コトナシ。欲界ノ天ハ欲染ノ色アルヲ異トスルノミト。又智拳印等
ノ深義皆ナ金薩ノ開示ヲ蒙ル。和上一二ニ聞テ驚歎セスト
云コトナシ。希勤ガ行狀具サニ知レルハ唯予一人ノミ。故ニ有信ノ
警策セシガ爲ニ他人ノ毀リヲ顧ミス茲ニ一二ヲ記スル者ナリ
和州生駒山般若窟寶山和尚ノ事
阿闍黎苾芻湛海字ハ寶山和尚ハ。和州平群郡生駒。都史
陀山般若窟。大聖無動寺ノ開山祖ナリ。元勢州安濃郡。一

④本17オ

④本16ウ

色ノ里ノ人ナリ。父ハ山田氏母ハ辻氏ナリ。孕妊ノ間身輕ク
誕ル、時困惱ナシ。寛永六年二月朔日ニ生ル。性質敏穎ニシテ
志氣宏邁ナリ。伎藝學バザレドモ能クス彩畫及ヒ捏鑄彫刻
甚絶妙ナリ。耳目ノ觸ル、所口長ク記シテ忘レズ。蓋シ夙智ノナ
ストコロナリ。且ツ敦厚温良質。無偽ナリ。歳十七ニシテ十一月廿四
日洛西ノ愛宕山ニ登リ食ヲ斷フ一七日。地藏薩埵ノ冥助
ヲ祈ル。素ヨリ出塵ノ志シアレドモ。親族オヲ惜テ救サス。正
保三年。歳正二十八ニシテ終ニ難染シテ。東武深川ノ永代寺ニ居
ス。周光闍梨ヲ師トシテ密乘ヲ稟受シ。朝懺暮悔精修苦
行スルコト年アリ。恒ニ大聖歡喜天ノ法ヲ修ス。靈感ヲ得ル
コト甚多シ。難波ノ醫師谷村昌安齋ガ記セル傳記ノ中ニ粗
記セルガ如シ。和尚周光ト俱ニ願ヲ發シテ八幡宮ヲ營セント

欲スレドモ。力微ニシテ事成ジガタシ。和尚自ラ恥恨ミテ跡ヲ異
郷ニ晦マサント欲ス。時ニ寛文四年臘八ノ夜夢ミラク。僕隸多
ク集テ地ヲ穿ツ。和尚怪ミ問ニ僕ガ曰ク馬蹄ノ跡ニ無量
ノ珍寶アリト。須臾ニシテ白裝束セル神人駿馬ニ乘テ來ル。渡
邊大隅守轡ミヲトル。和尚視テ訝カルニ忽チニ歡喜天女
來臨シテ告テ曰ク。汝知ラズヤ馬上ノ神ハ是ハ八幡大菩薩ナ
リ。常ニ汝ガ室ニ降臨シテ擁護ヲ垂ルト。和尚驚テ恭敬ス。
時ニ神即チ和尚ノ室中ニ入テ寶珠ヲ現ズ。光明日輪ノ
如シ。珠ノ中ヨリ微妙ノ音ヲ出シテ告玉ハク。吾ハ是ハ八幡大菩
薩ナリト神託數語アリ。又歡喜天告テ曰ク内陣ニ神座ヲ
營スベシト。即チ周光來テ無量壽佛ノ蓮臺ヲ以テ神座ヲ
構フ。而シテ和尚夢覺ケレバ驚キ立テ見ルニ。現ニ大菩薩外ヨリ

色ノ里ノ人ナリ。父ハ山田氏母ハ辻氏ナリ。孕妊ノ間身輕ク
誕ル、時困惱ナシ。寛永六年二月朔日ニ生ル。性質敏穎ニシテ
志氣宏邁ナリ。伎藝學バザレドモ能クス彩畫及ヒ捏鑄彫刻
甚絶妙ナリ。耳目ノ觸ル、所口長ク記シテ忘レズ。蓋シ夙智ノナ
ストコロナリ。且ツ敦厚温良質。無偽ナリ。歳十七ニシテ十一月廿四
日洛西ノ愛宕山ニ登リ食ヲ斷フ一七日。地藏薩埵ノ冥助
ヲ祈ル。素ヨリ出塵ノ志シアレドモ。親族オヲ惜テ救サス。正
保三年。歳正二十八ニシテ終ニ難染シテ。東武深川ノ永代寺ニ居
ス。周光闍梨ヲ師トシテ密乘ヲ稟受シ。朝懺暮悔精修苦
行スルコト年アリ。恒ニ大聖歡喜天ノ法ヲ修ス。靈感ヲ得ル
コト甚多シ。難波ノ醫師谷村昌安齋ガ記セル傳記ノ中ニ粗
記セルガ如シ。和尚周光ト俱ニ願ヲ發シテ八幡宮ヲ營セント

欲スレドモ。力微ニシテ事成ジガタシ。和尚自ラ恥恨ミテ跡ヲ異
郷ニ晦マサント欲ス。時ニ寛文四年臘八ノ夜夢ミラク。僕隸多
ク集テ地ヲ穿ツ。和尚怪ミ問ニ僕ガ曰ク馬蹄ノ跡ニ無量
ノ珍寶アリト。須臾ニシテ白裝束セル神人駿馬ニ乘テ來ル。渡
邊大隅守轡ミヲトル。和尚視テ訝カルニ忽チニ歡喜天女
來臨シテ告テ曰ク。汝知ラズヤ馬上ノ神ハ是ハ八幡大菩薩ナ
リ。常ニ汝ガ室ニ降臨シテ擁護ヲ垂ルト。和尚驚テ恭敬ス。
時ニ神即チ和尚ノ室中ニ入テ寶珠ヲ現ズ。光明日輪ノ
如シ。珠ノ中ヨリ微妙ノ音ヲ出シテ告玉ハク。吾ハ是ハ八幡大菩
薩ナリト神託數語アリ。又歡喜天告テ曰ク内陣ニ神座ヲ
營スベシト。即チ周光來テ無量壽佛ノ蓮臺ヲ以テ神座ヲ
構フ。而シテ和尚夢覺ケレバ驚キ立テ見ルニ。現ニ大菩薩外ヨリ

内陣ニ入り玉フ。尊容ヲ拜スルニ袈裟ヲ著シテ僧形ナリ。御影モ亦威儀儼恪ニシテ異香馥郁タリ。和尚感ニ耐ズ。全身地ニ投テ禮ス。是ニ依テ營構ヲ勵マシニ珍寶求メザルニ自ラ聚ル。渡邊大隅守カヲ合シテ不日ニシテ落成シヌ。今ノ深川ノ八幡宮是ナリ。其外種々ノ靈瑞ヲ得ルコト悉クニ記シガタシ。和尚永代寺ニ居スルヲ十七年。寛文四年三十有五ニシテ洛東粟田口歡喜院ニ移テ精修ス。花水供ヲ修スルコト二万余座浴油供ヲ修スルコト二千日。其後數ヲハカラズ。或ハ聖天形ヲ現シテ語ス。所有ノ祈願稱フコト鐘谷ノ空シカラザルガ如シ。不惑ノ後マデモ常ニ天供ヲ修シテ無上菩提ヲ祈ル。天尊形ヲ現シテ曰ク無上菩提ヲ我知ラズ。僧都僧正ノ官ヲ得。帝ノ師トナリ。大對ノ歸信ヲ得セシメシコトハ。願ハム即チ成セシメント。時ニ

圓忍律師事アツテ歡喜院ニ來リ居ス。和尚終ニ心ヲ改メテ菩薩戒ヲ受ントス。毘那夜迦ノ障リ種々ニ起ルトイヘトモ志シ確乎トシテ拔ズ。滅罪ノ為ニ不動尊ノ八千枚ヲ修スルコト二座。修中障者明王ノ為ニ追レテ又障リヲナサズ。ソレヨリ菩薩戒ヲ受テ沙弥トナリ。泉南神鳳寺ノ僧房ニ入ル。終ニ圓忍和上ヲ師トシテ具足戒ヲ受ク。鶴珠雪冷カニ虎策風高シ。四分ニ法ヲ秉テ持犯開遮ヲ明ニス。信ニ鉢喻ニ同ジキコトアリ。兩部ニ軌ヲ授テ修本遮表ヲ悟ル。又燈傳ニ似タリ。既ニシテ衆中ノ多事ナルコトヲ好マズ。練兒ノ閑靜ヲ欣フ。延寶五年和州ノ風森ニ隱レテ持念ス。曾テ千座ノ護摩ヲ修ス。又二百日ヲ期シテ無言ニシテ常ニ禪坐ス。便轉ノ外立ツコトナシ。夏末ニ至テ齋ノ皮帷子ニ著テ剃タリ。

内陣ニ入り玉フ。尊容ヲ拜スルニ袈裟ヲ著シテ僧形ナリ。御影モ亦威儀儼恪ニシテ異香馥郁タリ。和尚感ニ耐ズ。全身地ニ投テ禮ス。是ニ依テ營構ヲ勵マシニ珍寶求メザルニ自ラ聚ル。渡邊大隅守カヲ合シテ不日ニシテ落成シヌ。今ノ深川ノ八幡宮是ナリ。其外種々ノ靈瑞ヲ得ルコト悉クニ記シガタシ。和尚永代寺ニ居スルコト十七年。寛文四年三十有五ニシテ洛東粟田口歡喜院ニ移テ精修ス。花水供ヲ修スルコト二万余座浴油供ヲ修スルコト二千日。其後數ヲハカラズ。或ハ聖天形ヲ現シテ語ス。所有ノ祈願稱フコト鐘谷ノ空シカラザルガ如シ。不惑ノ後マデモ常ニ天供ヲ修シテ無上菩提ヲ祈ル。天尊形ヲ現シテ曰ク無上菩提ヲ我知ラズ。僧都僧正ノ官ヲ得。帝ノ師トナリ。大對ノ歸信ヲ得セシメンコトハ。願ハム即チ成セシメント。時ニ

圓忍律師事アツテ歡喜院ニ來リ居ス。和尚終ニ心ヲ改メテ菩薩戒ヲ受ントス。毘那夜迦ノ障リ種々ニ起ルトイヘトモ志シ確乎トシテ拔ズ。滅罪ノ為ニ不動尊ノ八千枚ヲ修スルコト二座。修中障者明王ノ為ニ追レテ又障リヲナサズ。ソレヨリ菩薩戒ヲ受テ沙弥トナリ。泉南神鳳寺ノ僧房ニ入ル。終ニ圓忍和上ヲ師トシテ具足戒ヲ受ク。鶴珠雪冷カニ虎策風高シ。四分ニ法ヲ秉テ持犯開遮ヲ明ニス。信ニ鉢喻ニ同ジキコトアリ。兩部ニ軌ヲ授テ修本遮表ヲ悟ル。又燈傳ニ似タリ。既ニシテ衆中ノ多事ナルコトヲ好マズ。練兒ノ閑靜ヲ欣フ。延寶五年和州ノ風森ニ隱レテ持念ス。曾テ千座ノ護摩ヲ修ス。又二百日ヲ期シテ無言ニシテ常ニ禪坐ス。便轉ノ外立ツコトナシ。夏末ニ至テ齋ノ皮帷子ニ著テ剃タリ。

④本19オ

④本18ウ

然レドモ二三日ヲ經テ即チ愈ユ種々ノ感應勝テ計フベカラ
ス。延寶七年十月十一日般若窟ニ移テ艸菴ヲ芟テ茅
屋ヲ締テヨリ已來。今二十五年影山ヲ下ラズ。常坐不卧。
日夜ニ不動尊ノ咒ヲ持念ス。鬱トシテ伽藍トナレリ。觀史陀
山。大聖無動寺ト号ス古老傳ヘテ曰ク此山ハ都率ノ内
院ヲ表ス。神仙ノ窟ナリ。役小角曾テ經行シ持念ス。俗人
侵ニ攀登バ袂殃ヲ受ト。又曾テ八万枚ノ護摩ヲ修シ。元
祿二年ノ春ヨリ十萬枚ノ護摩ヲ修ス。比來四年春ゴトニ
常ニ修ス。十萬枚ノ間食ヲ断ス。常人ハ八千枚ヲ修スルヲ難
事トスルニ。和尚ハ十萬枚ノ間難色トシ又慈氏軌ノ説ニ依テ祕
密ノ神藥ヲ服ス。白髮還テ黒ク顔色桃花ノ如シ。常ニ一
食而モ穀味ヲ断テ唯蕎麥ノミナリ。般若窟ニ來リシ初メ。一

對下ニ坐シテ兩三日ヲ歷。物アリ後ヨリ來テ抱ク形甚可
畏ク。手ハ虹梁ノ如ク皮毛ハ鐵鍼ノ如シ。和尚眼瞑氣絶ン
トス。即チ不動ノ三摩地ニ入ル。彼ガ力ニ十倍セリ。即チ障者ヲ
伏シテ論トシテ曰ク。我此ノ山ニ在テ法力成就セバ汝們共ニ苦
域ヲ出ツベシ何ゾ嫌恨スルヤト。即チ日日ノ法施ヲ約シテ去
ム。又毘那夜迦ノ障百端千緒ナリ。然レドモ心金剛ノ如ニシテ
不動不壞ナリ。障者或時ハ可畏ノ形ヲ現シ。或時ハ摩曼
ノ女身ヲ現シ赤裸ニシテ向フ。或ハ飲食ニ隨テ身中ニ入ル。若シ
和尚三平等ノ觀ニ入ル時ハ即チ忽チ去ル。然レドモシバ
ノ障導ヲナスガ故ニ。別院ニ於テ常ニ供ゼシム。余ヨリ少シキ
除去スルコトヲ得タリ。又曾テ障者形ヲ現シテ種々ニ誘ヘテ曰ク。
此ヲ去ラバ大富貴ヲ得ベシ。此ニ住セバ衣食乏シカルベシト。和

然レドモ二三日ヲ經テ即チ愈ユ種々ノ感應勝テ計フベカラ
ス。延寶七年十月十一日般若窟ニ移テ艸菴ヲ芟テ茅
屋ヲ締テヨリ已來。今二十五年影山ヲ下ラズ。常坐不卧。
日夜ニ不動尊ノ咒ヲ持念ス。鬱トシテ伽藍トナレリ。觀史陀
山。大聖無動寺ト号ス古老傳ヘテ曰ク此山ハ都率ノ内
院ヲ表ス。神仙ノ窟ナリ。役小角曾テ經行シ持念ス。俗人
漫ニ攀登バ袂殃ヲ受ト。又曾テ八万枚ノ護摩ヲ修シ。元
祿二年ノ春ヨリ十萬枚ノ護摩ヲ修ス。比來四年春ゴトニ
常ニ修ス。十萬枚ノ間食ヲ断ス。常人ハ八千枚ヲ修スルヲ難
事トスルニ。和尚ハ十萬枚ノ間難色トシ又慈氏軌ノ説ニ依テ祕
密ノ神藥ヲ服ス。白髮還テ黒ク顔色桃花ノ如シ。常ニ一
食而モ穀味ヲ断テ唯蕎麥ノミナリ。般若窟ニ來リシ初メ。一

對下ニ坐シテ兩三日ヲ歷。物アリ後ヨリ來テ抱ク形甚可
畏ク。手ハ虹梁ノ如ク皮毛ハ鐵鍼ノ如シ。和尚眼瞑氣絶ン
トス。即チ不動ノ三摩地ニ入ル。彼ガ力ニ十倍セリ。即チ障者ヲ
伏シテ論トシテ曰ク。我此ノ山ニ在テ法力成就セバ汝們共ニ苦
域ヲ出ツベシ何ゾ嫌恨スルヤト。即チ日日ノ法施ヲ約シテ去
ム。又毘那夜迦ノ障百端千緒ナリ。然レドモ心金剛ノ如ニシテ
不動不壞ナリ。障者或時ハ可畏ノ形ヲ現シ。或時ハ摩曼
ノ女身ヲ現シ赤裸ニシテ向フ。或ハ飲食ニ隨テ身中ニ入ル。若シ
和尚三平等ノ觀ニ入ル時ハ即チ忽チ去ル。然レドモシバ
ノ障導ヲナスガ故ニ。別院ニ於テ常ニ供ゼシム。余ヨリ少シキ
除去スルコトヲ得タリ。又曾テ障者形ヲ現シテ種々ニ誘ヘテ曰ク。
此ヲ去ラバ大富貴ヲ得ベシ。此ニ住セバ衣食乏シカルベシト。和

尚ノ曰ク食ナクシハ松葉ヲ食フベシ。何ゾ浮雲ノ富貴ヲ求
メンヤト。障者怒テ去ル。終ニ寺中食乏シクシテ後ニハ松葉ヲ
食スルヲ十日バカリ。徒衆不和合ニシテ或ハ評論シ或ハ出デ
去ル。然レドモ和上此ヲ屑トモセズ。終ニ衆和シテ食輪法輪
並ニ轉シテ今ニ盛ナリ。日ニ慈救ノ咒六万遍ヲ誦ス。若シカ
出ストキ八十餘万遍ヲ誦ジ玉ヘリ。和尚自ラ曰ク即身成
佛現成悉地ハ掌ヲ指ガ如シ。然レドモ我一願アツテ常ニ
咒ヲ誦スト。人其ノ意趣ヲ知ルコトナシ。今茲六十有五歳現ニ
生駒ノ大聖無動寺ニ住セリ。予曾テ拜謁ストイヘドモ風馬
牛及バスノ久シク光範ニ拜違ス。徒ニ斗山ヲ仰グノミ。○或
人疑フ和尚日ニ慈救咒十餘万遍ヲ誦スト此ハ虚誕ナルベ
シ。我日夜眠ラズノ誦ズルニ三万遍ニハ過スト。予答テ曰ク南

人ハ駝ヲ夢ス。北人ハ舟ヲ夢ミズ。子ガ暗短ナル何ゾ現成悉
地ノ人ヲ疑ハシヤ。今和尚ノミニアラズ。上古ニモ此ノ例シ多シ。
唐ノ道綽禪師ハ日ニ念佛七万遍ヲ誦ズ。法誠法師ハ一
夏ニ法花五百遍ヲ誦ズ。蓮長法師ハ一月ニ千部誦ズ。一
法花三十餘萬部ヲ誦ズ。蓮長法師ハ一月ニ千部誦ズ。一
部ニ三四部。基燈法師ハ日ニ三十餘部ヲ誦ズ。真遠法師ハ日ニ三
四十部誦セリト。此皆僧史ノ記スル所口何ゾ妄ナランヤ。且ツ俗
間ノ藝術モ其妙ヲ得ル時ハ得テ知ベカラズ。況ヤ悉地成
就ノ人ヲヤ。汝強テ疑ハミ十五年來和尚ノ如クニ勇猛ニ勤メ
テ試シ。但シ汝ガ疑ノミナラズ明人ニモ亦此ノ疑ヒアリ。世ニ
傳フ宋ノ永明大師壽禪師日ニ十万遍ノ念佛ヲ唱フト。明人
疑テ試ニ晝夜眠ラズノ誦ズルニ六万遍ナリ。而モ南無ノ二字ヲ

尚ノ曰ク食ナクシハ松葉ヲ食フベシ。何ゾ浮雲ノ富貴ヲ求
メンヤト。障者怒テ去ル。終ニ寺中食乏シクシテ後ニハ松葉ヲ
食スルコト十日バカリ。徒衆不和合ニシテ或ハ評論シ或ハ出デ
去ル。然レドモ和上此ヲ屑トモセズ。終ニ衆和シテ食輪法輪
並ニ轉シテ今ニ盛ナリ。日ニ慈救ノ咒六万遍ヲ誦ス。若シカ
出ストキ八十餘万遍ヲ誦ジ玉ヘリ。和尚自ラ曰ク即身成
佛現成悉地ハ掌ヲ指ガ如シ。然レドモ我一願アツテ常ニ
咒ヲ誦スト。人其ノ意趣ヲ知ルコトナシ。今茲六十有五歳現ニ
生駒ノ大聖無動寺ニ住セリ。予曾テ拜謁ストイヘドモ風馬
牛及バスシテ久シク光範ニ拜違ス。徒ニ斗山ヲ仰グノミ。○或
人疑フ和尚日ニ慈救咒十餘万遍ヲ誦スト此ハ虚誕ナルベ
シ。我日夜眠ラズシテ誦ズルニ三万遍ニハ過スト。予答テ曰ク南

人ハ駝ヲ夢ス。北人ハ舟ヲ夢ミズ。子ガ暗短ナル何ゾ現成悉
地ノ人ヲ疑ハシヤ。今和尚ノミニアラズ。上古ニモ此ノ例シ多シ。
唐ノ道綽禪師ハ日ニ念佛七万遍ヲ誦ズ。法誠法師ハ一
夏ニ法花五百遍ヲ誦ズ。蓮長法師ハ一月ニ千部誦ズ。一
法花三十餘萬部ヲ誦ズ。蓮長法師ハ一月ニ千部誦ズ。一
部ニ三四部。基燈法師ハ日ニ三十餘部ヲ誦ズ。真遠法師ハ日ニ三
四十部誦セリト。此皆僧史ノ記スル所口何ゾ妄ナランヤ。且ツ俗
間ノ藝術モ其妙ヲ得ル時ハ得テ知ベカラズ。況ヤ悉地成
就ノ人ヲヤ。汝強テ疑ハミ十五年來和尚ノ如クニ勇猛ニ勤メ
テ試シ。但シ汝ガ疑ノミナラズ明人ニモ亦此ノ疑ヒアリ。世ニ
傳フ宋ノ永明大師壽禪師日ニ十万遍ノ念佛ヲ唱フト。明人
疑テ試ニ晝夜眠ラズシテ誦ズルニ六万遍ナリ。而モ南無ノ二字ヲ

除クト。然レドモ是人ノ驗スルハ我信ゼズ。輪扁ガ輪ヲ斲ル
スラ其ノ得意ノ妙ハ子ニモ傳ルコトヲ得ズ。況ヤ法ニ於テテヤ。
若シ汝ガ如ク疑ハハ天眼他心等ノ通。及ビ法花ノ五十小
劫謂如食頃等ハ如何カ疑ハザラン。サレバ無智人中莫説此
經トモ説リ。和尚今現在シテ自ラ言フ十餘万遍ヲ誦スト。十
二万遍ノ文字ヲ計ルニ。二百七十六万字ナリ。法華四十部ヲ
計フレバ。二百七十七万五千三百六十字ナリ。和尚今ニ相似
タリ。念佛十万遍ハ唯六十万字ナリ。甚少シト言ツベシ。真遠
法師ニ例セバ四十餘万遍ハ唱フベキナリ。而ルヲ明人ノ疑ヘ
ルコト亦迷ヘルニアラズヤ。大日經及略出經等ノ中ニ。真言ノ阿
闍梨。灌頂ヲ行ズルコトヲ説クニ。七日ニ漫荼羅ヲ圖續シ。一
夜ニ種々ノ真言ヲ誦ジ數々護摩ヲ修ス。今時初心ノ人

此ヲ如法ニ修セバ二日三日ヲ經トモ竟ラジ。而モ見諦ノ阿
闍梨ハ能ク一夜ニ修ス。又何ゾ疑ハシヤ。室生ノ慶圓上人日
課甚多シ。五六人分テ修スレドモ及バズト。是亦疑フベカラズ。昔
漢武帝ハ續弦膠ヲ疑ヒ。魏ノ曹操ハ火浣布ヲ疑テ俱ニ
笑フ後人ニ取ル。汝ガ疑ハ猶此ニモ過タリ。殆乎笑殺セントス。
和尚靈異甚多シトイヘドモ人知ルコトナシ。南山大師ヲ以テ準
知ス。後世孫思邈アツテ世ニ傳フベシ。予カ聞ル所亦居多
ナリトイヘドモ。世ニ傳フルコトハ和尚ノ好マザル所ナルベシ。故ニ
恐レテ記セザルノミ。○又和尚三平等ノ觀ニ入ルニ障者忽チ
ニ去ルコトハ。經軌ノ中ニ毘那夜迦ノ障導ヲ除クニハ。皆軍荼
利ノ印明ヲ用ユ。如何トナレバ障者ハ皆ナ行者ノ而ニノ隔
執ナリ。故ニ一經ニ本有ノ三障ヲ除クニハ一字心ノ明ヲ説リ

除クト。然レドモ是人ノ驗スルハ我信ゼズ。輪扁ガ輪ヲ斲ル
スラ其ノ得意ノ妙ハ子ニモ傳ルコトヲ得ズ。況ヤ法ニ於テテヤ。
若シ汝ガ如ク疑ハハ天眼他心等ノ通。及ビ法花ノ五十小
劫謂如食頃等ハ如何カ疑ハザラン。サレバ無智人中莫説此
經トモ説リ。和尚今現在シテ自ラ言フ十餘万遍ヲ誦スト。十
二万遍ノ文字ヲ計ルニ。二百七十六万字ナリ。法華四十部ヲ
計フレバ。二百七十七万五千三百六十字ナリ。和尚今ニ相似
タリ。念佛十万遍ハ唯六十万字ナリ。甚少シト言ツベシ。真遠
法師ニ例セバ四十餘万遍ハ唱フベキナリ。而ルヲ明人ノ疑ヘ
ルコト亦迷ヘルニアラズヤ。大日經及略出經等ノ中ニ。真言ノ阿
闍梨。灌頂ヲ行ズルコトヲ説クニ。七日ニ漫荼羅ヲ圖續シ。一
夜ニ種々ノ真言ヲ誦ジ數々護摩ヲ修ス。今時初心ノ人

此ヲ如法ニ修セバ二日三日ヲ經トモ竟ラジ。而モ見諦ノ阿
闍梨ハ能ク一夜ニ修ス。又何ゾ疑ハシヤ。室生ノ慶圓上人日
課甚多シ。五六人分テ修スレドモ及バズト。是亦疑フベカラズ。昔
漢武帝ハ續弦膠ヲ疑ヒ。魏ノ曹操ハ火浣布ヲ疑テ俱ニ
笑フ後人ニ取ル。汝ガ疑ハ猶此ニモ過タリ。殆乎笑殺セントス。
和尚靈異甚多シトイヘドモ人知ルコトナシ。南山大師ヲ以テ準
知ス。後世孫思邈アツテ世ニ傳フベシ。予カ聞ル所亦居多
ナリトイヘドモ。世ニ傳フルコトハ和尚ノ好マザル所ナルベシ。故ニ
恐レテ記セザルノミ。○又和尚三平等ノ觀ニ入ルニ障者忽チ
ニ去ルコトハ。經軌ノ中ニ毘那夜迦ノ障導ヲ除クニハ。皆軍荼
利ノ印明ヲ用ユ。如何トナレバ障者ハ皆ナ行者ノ而ニノ隔
執ナリ。故ニ一經ニ本有ノ三障ヲ除クニハ一字心ノ明ヲ説リ

④本22オ

④本21ウ

意字ハ因業不可得ノ義ニシテ。因果一如生佛不二ノ義ナリ。
不二ナラバ何ノ障カアルベキ。又佛成道ノ時ニ降魔アルコトハ
而二ノ隔執悉ク除ク時ナレバナリ。北方ノ金剛夜叉明王
ハ牙菩薩ニシテ等覺ノ位ナリ。而二ノ執盡ル位ナレバ此ヲ金
剛盡菩薩ト名ケ。大悲盡三昧ト号ス。即チ摧一切魔菩
薩ナリ。大般若ニハ摧伏一切魔怨菩薩トイヘリ又バカラキキヤ字ハ盡ノ義。都除ノ
義ナリ。微細妄執無始ノ間隔盡ル位ナレバナリ。軍荼利明
王ハ南方ノ笑菩薩ナリ。南方ハ自證ノ覺滿ズル位ナレバ而
二ノ隔執皆盡テ。不二ノ平等性智ヲ證スルガ故ニ。障者自ら
去ルコト宣ナルカナ。北方ハ化他ノ正覺ノ故ニ。菩提對下ノ降魔
ハ摧一切魔菩薩ノ三昧ナリ。南方ハ自證ノ覺ヲ滿ズル位ナ
レバ。行者因位ノ万行ヲ修スル時ニハ。必ズ軍荼利ノ三昧ニ依テ障

者ヲ降ス。又三平等ノ理ニ住スル時ハ。障者モ我モ佛モ二
ナク別ナシ。譬ヘバ虚空ノ無分別ナルガ如シ。障者虚空ヲ障ヘ
ント欲セバ。千万億劫ニモ是ノ處リアルコトナケン。サレバ軍荼
利明王ハ畢竟シテ三平等觀ヲ出ズ。種子。三形。尊形。皆三
平等ヲ表セリ。顯乘ノ行人若シ魔障起ル時ハ。如幻即空
觀ニ入ルニ障者即チ忉ル。何ニ況ヤ秘密ノ三平等觀ヲ
ヤ。故ニ護摩ヲ修スル時ハ。三平等觀ヲ以テ一大事トス。又
一坐ノ行法初メ淨三業ヨリ。終リ普禮ニ至ルマデ。三平等
觀ヲ離レヌレバ。有相ノ行トナツテ悉地ヲ得ルコト難シ。三平
等ト者即チ初入三摩耶ノ時。阿闍黎ノ開示ヲ蒙ル所
ナリ。又ハ其字不生中道法界ノ理ト号ス。切ニ勸ム真言持
念ノ人。三平等ノ妙觀ヲ修習セヨ

者ヲ降ス。又三平等ノ理ニ住スル時ハ。障者モ我モ佛モ二
ナク別ナシ。譬ヘバ虚空ノ無分別ナルガ如シ。障者虚空ヲ障ヘ
ント欲セバ。千万億劫ニモ是ノ處リアルコトナケン。サレバ軍荼
利明王ハ畢竟シテ三平等觀ヲ出ズ。種子。三形。尊形。皆三
平等ヲ表セリ。顯乘ノ行人若シ魔障起ル時ハ。如幻即空
觀ニ入ルニ障者即チ忉ル。何ニ況ヤ秘密ノ三平等觀ヲ
ヤ。故ニ護摩ヲ修スル時ハ。三平等觀ヲ以テ一大事トス。又
一坐ノ行法初メ淨三業ヨリ。終リ普禮ニ至ルマデ。三平等
觀ヲ離レヌレバ。有相ノ行トナツテ悉地ヲ得ルコト難シ。三平
等ト者即チ初入三摩耶ノ時。阿闍黎ノ開示ヲ蒙ル所
ナリ。又ハ其字不生中道法界ノ理ト号ス。切ニ勸ム真言持
念ノ人。三平等ノ妙觀ヲ修習セヨ

者ヲ降ス。又三平等ノ理ニ住スル時ハ。障者モ我モ佛モ二
ナク別ナシ。譬ヘバ虚空ノ無分別ナルガ如シ。障者虚空ヲ障ヘ
ント欲セバ。千万億劫ニモ是ノ處リアルコトナケン。サレバ軍荼
利明王ハ畢竟シテ三平等觀ヲ出ズ。種子。三形。尊形。皆三
平等ヲ表セリ。顯乘ノ行人若シ魔障起ル時ハ。如幻即空
觀ニ入ルニ障者即チ忉ル。何ニ況ヤ秘密ノ三平等觀ヲ
ヤ。故ニ護摩ヲ修スル時ハ。三平等觀ヲ以テ一大事トス。又
一坐ノ行法初メ淨三業ヨリ。終リ普禮ニ至ルマデ。三平等
觀ヲ離レヌレバ。有相ノ行トナツテ悉地ヲ得ルコト難シ。三平
等ト者即チ初入三摩耶ノ時。阿闍黎ノ開示ヲ蒙ル所
ナリ。又ハ其字不生中道法界ノ理ト号ス。切ニ勸ム真言持
念ノ人。三平等ノ妙觀ヲ修習セヨ

ノ徳ナリ。是ヲ深祕トス。三ニハ此阿弥陀佛ト者。即チ大日
法身三世常住ノ慧命ナリ。是ヲ無量壽ト号ス。又胎藏
ノ中胎百光遍照ノ大日ナリ。故ニ弥陀即チ大日一門即チ
普門ナリ。是ヲ祕中ノ深祕トス。四ニハ此阿弥陀佛ト者。即
チ一切衆生ノ色心ノ實相性淨圓明ノ平等智身ナリ。上ニ
云所ノ胸中八瓣ノ心蓮ハ。即チ弥陀三點ノ曼荼ナリ。無明
ノ淤泥ニ淪ムトイヘドモ染ニアラズ。隱ニアラズ。始覺ノ日光ヲ
得テ鬚髮開敷スレドモ生ニモアラズ。顯ニモアラズ。三際不變
ニシテ万德凝然ナリ。此ヲ祕中深祕トス。名号國土等ノ四重
是ニ準ノ知又ベシ。顯乘ノ祖師ハ唯初重ノ意ニ依テ乘願往
生ノ義ヲ立ツ。大智律師等ハ自性弥陀ノ義ヲ立トイヘド
モ。是理性ノ膚説ニシテ事相ノ極談ニアラズ。今真言行人ハ

四重ノ祕意ヲ知テ。顯密兼テ通ジ四身圓證ス。此ノ中ノ
後ノ三重ノ名号ハ直ニ真言ナレバ。稱名ナリトイヘドモ常途
淺略ノ義ニハ同ゼズ。問然ラバ真言行者ハ初重ノ説。悲華
無量壽及觀經。阿弥陀經等ノ説ヲ用ヒザルカ。答然ラズ皆ナ
用ユルナリ。諸經論中往々有斯義ナレバ佛語ハ圓ニシテ顯
經ノ中ニモ皆説玉ヘリ。十六想觀等皆祕密ノ意ナリ。定善
ノ十三ハ胎藏ノ十三大院ヲ表シ。散善ノ九品ハ金界ノ九會
ヲ表ス。又十六想觀ハ金ノ十六大菩薩ヲ表シ。三輩往生
ノ三福。三心等ハ胎ノ三部ヲ表ス。又人中芬陀利花等ノ文。全
ク祕密ヲ説リ。況ヤ復梵本ノ初ニハ。悲華。雙卷經等ニモ。如
是我聞ノ初ニハ。此二字無量壽命ノ鉢。色
心實相ノ平等智身ナリ。又梵本ノ一一ノ文字。字義眞實ノ

ノ徳ナリ。是ヲ深祕トス。三ニハ此阿弥陀佛ト者。即チ大日
法身三世常住ノ慧命ナリ。是ヲ無量壽ト号ス。又胎藏
ノ中胎百光遍照ノ大日ナリ。故ニ弥陀即チ大日一門即チ
普門ナリ。是ヲ祕中ノ深祕トス。四ニハ此阿弥陀佛ト者。即
チ一切衆生ノ色心ノ實相性淨圓明ノ平等智身ナリ。上ニ
云所ノ胸中八瓣ノ心蓮ハ。即チ弥陀三點ノ曼荼ナリ。無明
ノ淤泥ニ淪ムトイヘドモ染ニアラズ。隱ニアラズ。始覺ノ日光ヲ
得テ鬚髮開敷スレドモ生ニモアラズ。顯ニモアラズ。三際不變
ニシテ万德凝然ナリ。此ヲ祕中深祕トス。名号國土等ノ四重
是ニ準シテ知又ベシ。顯乘ノ祖師ハ唯初重ノ意ニ依テ乘願往
生ノ義ヲ立ツ。大智律師等ハ自性弥陀ノ義ヲ立トイヘド
モ。是理性ノ膚説ニシテ事相ノ極談ニアラズ。今真言行人ハ

四重ノ祕意ヲ知テ。顯密兼テ通ジ四身圓證ス。此ノ中ノ
後ノ三重ノ名号ハ直ニ真言ナレバ。稱名ナリトイヘドモ常途
淺略ノ義ニハ同ゼズ。問然ラバ真言行者ハ初重ノ説。悲華
無量壽及觀經。阿弥陀經等ノ説ヲ用ヒザルカ。答然ラズ皆ナ
用ユルナリ。諸經論中往々有斯義ナレバ佛語ハ圓ニシテ顯
經ノ中ニモ皆説玉ヘリ。十六想觀等皆祕密ノ意ナリ。定善
ノ十三ハ胎藏ノ十三大院ヲ表シ。散善ノ九品ハ金界ノ九會
ヲ表ス。又十六想觀ハ金ノ十六大菩薩ヲ表シ。三輩往生
ノ三福。三心等ハ胎ノ三部ヲ表ス。又人中芬陀利花等ノ文。全
ク祕密ヲ説リ。況ヤ復梵本ノ初ニハ。悲華。雙卷經等ニモ。如
是我聞ノ初ニハ。此二字無量壽命ノ鉢。色
心實相ノ平等智身ナリ。又梵本ノ一一ノ文字。字義眞實ノ

門ニ入テ見ル時ハ。法身自受法樂ノ説ニ。咒字第一命ノ本不生際ニアラズト云フナシ。密家ヨリ見ル時ハ四重ノ秘義皆漏レズ。顯家ヨリ見ル時ハ唯初重ノ分域ニシテ後ノ三重ヲ知ルコトナシ。故ニ十八會ノ指歸ニ曰ク愚童ハ覆レテ無智ニ。不知レテ此理趣。餘處ニ而求佛ヲ。不悟レテ此處ニ有テ十方世界中。餘處ニ不可得。心自為等覺。餘處ニ不説佛ヲ。顯人ハ色心實相ノ弥陀佛ヲ知ラザレバ。今ノ文ト全ク同ジ。其餘ノ深義ハ道範阿遮黎ノ抄ノ如シ。故ニ煩ハシク茲ニ贅セズ。

大佛頂陀羅尼功能ノ事

佛祇洹精舍ニ在シテ人天ノ為ニ説法シ玉フ。時ニ波斯匿王父ノ王ノ諱日ニ當テ。齋ヲ營ンテ佛ヲ請ジ奉ル。城中ノ長者居士同時ニ僧ヲ請ス。佛文殊ニ勅シテ菩薩及ヒ阿羅漢ニ分

領ノ請ニ赴カシム。唯阿難ノミ先ヨリ別請ヲ受テ遠ク遊テ還ラズ。其日鉢ヲ持テ次第ニ乞食スル。次テ婬肆ヲ經ルニ。大幻術ノ摩登伽女ト云者アリ。阿難ノ相好端正ナルヲ見テ即チ染心ヲ生シテ。娑毘迦羅ガ先梵夫ノ咒ヲ以テ阿難ヲ婬肆ニ攝入シ。婬躬撫摩ヲ將ニ戒體ヲ破セシメントス。戒因縁經ノ如來遙ニ知シメシテ。頂ヨリ百寶無畏ノ光明ヲ放チ。光ノ中ニ千葉ノ密蓮花ヲ出生シ。佛ノ化身坐シテ大佛頂陀羅尼ヲ説玉フ。即チ文殊ニ勅シテ咒ヲ以テ護セシムルニ惡咒術消滅シテ。阿難及ヒ摩登伽女ヲ將ヒテ佛所ニ來ル。佛阿難ニ告玉ハク汝宿世ニ摩登伽ト歴劫ノ因縁恩愛ノ習氣アリ。一生及ヒ一劫ニアラス。我一タビ佛頂ノ咒ヲ説ニ愛心永ク脱シテ阿羅漢トナル。彼尚婬女ニシテ修行ニ心

門ニ入テ見ル時ハ。法身自受法樂ノ説ニシテ。咒字第一命ノ本不生際ニアラズト云コトナシ。密家ヨリ見ル時ハ四重ノ秘義皆漏レズ。顯家ヨリ見ル時ハ唯初重ノ分域ニシテ後ノ三重ヲ知ルコトナシ。故ニ十八會ノ指歸ニ曰ク愚童ハ覆レテ無智ニ。不知レテ此理趣。餘處ニ而求佛ヲ。不悟レテ此處ニ有テ十方世界中。餘處ニ不可得。心自為等覺。餘處ニ不説佛ヲ。顯人ハ色心實相ノ弥陀佛ヲ知ラザレバ。今ノ文ト全ク同ジ。其餘ノ深義ハ道範阿遮黎ノ抄ノ如シ。故ニ煩ハシク茲ニ贅セズ。

大佛頂陀羅尼功能ノ事

佛祇洹精舍ニ在シテ人天ノ為ニ説法シ玉フ。時ニ波斯匿王父ノ王ノ諱日ニ當テ。齋ヲ營ンテ佛ヲ請ジ奉ル。城中ノ長者居士同時ニ僧ヲ請ス。佛文殊ニ勅シテ菩薩及ヒ阿羅漢ニ分

領シテ請ニ赴カシム。唯阿難ノミ先ヨリ別請ヲ受テ遠ク遊テ還ラズ。其日鉢ヲ持シテ次第ニ乞食スル。次テ婬肆ヲ經ルニ。大幻術ノ摩登伽女ト云者アリ。阿難ノ相好端正ナルヲ見テ即チ染心ヲ生シテ。娑毘迦羅ガ先梵夫ノ咒ヲ以テ阿難ヲ婬肆ニ攝入シ。婬躬撫摩ヲ將ニ戒體ヲ破セシメントス。戒因縁經ノ如來遙ニ知シメシテ。頂ヨリ百寶無畏ノ光明ヲ放チ。光ノ中ニ千葉ノ密蓮花ヲ出生シ。佛ノ化身坐シテ大佛頂陀羅尼ヲ説玉フ。即チ文殊ニ勅シテ咒ヲ以テ護セシムルニ惡咒術消滅シテ。阿難及ヒ摩登伽女ヲ將ヒテ佛所ニ來ル。佛阿難ニ告玉ハク汝宿世ニ摩登伽ト歴劫ノ因縁恩愛ノ習氣アリ。一生及ヒ一劫ニアラス。我一タビ佛頂ノ咒ヲ説ニ愛心永ク脱シテ阿羅漢トナル。彼尚婬女ニシテ修行ニ心

ナケレトモ。神力冥ニ資ケテ速ニ無學ヲ證セリ。云何ゾ汝等在
會ノ聲聞。最上乘ヲ求ル者。決定ノ成佛セシ。譬ハ塵ヲ以テ
順風ニ揚ルガ如シ。若シ法ノ如クニ六時ニ行道シテ。三七日寐ス
ノ此陀羅尼ヲ誦ゼバ。佛即チ身ヲ現シテ摩頂安慰シテ其ヲシテ
開悟セシメ玉フベシト。佛種々ニ修行ノ方法ヲ説キ。建壇ノ
儀軌ヲ示シ玉フニ。阿難歡喜シテ又再ビ如來ニ此ノ大佛頂陀
羅尼ヲ説玉フコトヲ請ズ。會中ノ大衆皆同ク禮ヲ作シテ佇ツ。
尔時ニ世尊肉髻ノ中ヨリ百寶ノ光ヲ放チ。千葉ノ寶蓮
ヲ涌シ。化佛寶花ノ中ニ坐シ。頂ヨリ十道百寶ノ光明ヲ
放チ。一ノ光明皆ナ徧ネク十恒河沙ノ金剛密迹ヲ示現
シテ。此ノ陀羅尼ヲ説キ玉フ。○説竟テ阿難ニ告玉ハク。是ノ佛
頂光聚悉恒多般怛羅秘密伽陀微妙章句ハ。十方一切ノ

諸佛ヲ出生ス。十方ノ如來此ノ咒ノ心ニ因テ成佛シ。諸魔ヲ
降伏シ。外道ヲ制シ。寶蓮花ニ坐シテ微塵ノ國ニ應ジ。大法輪
ヲ轉ジ玉フ。十方ノ如來此咒ノ心ヲ持シテ。十方ニ於テ摩頂授
記シ。諸苦ヲ拔濟シ善知識ニ事ヘ玉フ。此咒心ヲ行シテ正覺ヲ
成シ菩提樹ニ坐シ。大涅槃ニ入り玉フ。若諸ノ世界ノ所有ノ
衆生。此ノ咒ヲ書寫シテ香囊ニ貯ヘテ誦ズルヲアタハズ。或ハ
身ニ帶シテ守リトシ。或ハ宅中ニ安置セバ。一生ノ間一切ノ
諸毒其人ヲ害スルヲアタハズ。若末世ノ衆生能ク自ら誦
ジ。他ニ教ヘテモ誦ゼシメン人ハ。火モ燒クヲアタハズ。水モ溺ラス
ヲアタハズ。毒モ害スルヲアタハズ。天龍鬼神魔魅ノ惡咒
モ著クヲアタハズ。咒詛厭蠱及ビ毒藥モ此ノ人ノ口ニ入ラハ
甘露ノ味トナルベシ。惡星惡鬼神惡人及ヒ毘那夜迦諸ノ惡

法華經疏卷之十

ナケレトモ。神力冥ニ資ケテ速ニ無學ヲ證セリ。云何ゾ汝等在
會ノ聲聞。最上乘ヲ求ル者。決定シテ成佛センコト。譬ハ塵ヲ以テ
順風ニ揚ルガ如シ。若シ法ノ如クニシテ六時ニ行道シテ。三七日寐ス
シテ此陀羅尼ヲ誦ゼバ。佛即チ身ヲ現シテ摩頂安慰シテ其ヲシテ
開悟セシメ玉フベシト。佛種々ニ修行ノ方法ヲ説キ。建壇ノ
儀軌ヲ示シ玉フニ。阿難歡喜シテ又再ビ如來ニ此ノ大佛頂陀
羅尼ヲ説玉フコトヲ請ズ。會中ノ大衆皆同ク禮ヲ作シテ佇ツ。
尔時ニ世尊肉髻ノ中ヨリ百寶ノ光ヲ放チ。千葉ノ寶蓮
ヲ涌シ。化佛寶花ノ中ニ坐シ。頂ヨリ十道百寶ノ光明ヲ
放チ。一ノ光明皆ナ徧ネク十恒河沙ノ金剛密迹ヲ示現
シテ。此ノ陀羅尼ヲ説キ玉フ。○説竟テ阿難ニ告玉ハク。是ノ佛
頂光聚悉恒多般怛羅秘密伽陀微妙章句ハ。十方一切ノ

諸佛ヲ出生ス。十方ノ如來此ノ咒ノ心ニ因テ成佛シ。諸魔ヲ
降伏シ。外道ヲ制シ。寶蓮花ニ坐シテ微塵ノ國ニ應ジ。大法輪
ヲ轉ジ玉フ。十方ノ如來此咒ノ心ヲ持シテ。十方ニ於テ摩頂授
記シ。諸苦ヲ拔濟シ善知識ニ事ヘ玉フ。此咒心ヲ行シテ正覺ヲ
成シ菩提樹ニ坐シ。大涅槃ニ入り玉フ。若諸ノ世界ノ所有ノ
衆生。此ノ咒ヲ書寫シテ香囊ニ貯ヘテ誦ズルヲアタハズ。或ハ
身ニ帶シテ守リトシ。或ハ宅中ニ安置セバ。一生ノ間一切ノ
諸毒其人ヲ害スルコトアタハズ。若末世ノ衆生能ク自ら誦
ジ。他ニ教ヘテモ誦ゼシメン人ハ。火モ燒クコトアタハズ。水モ溺ラス
コトアタハズ。毒モ害スルコトアタハズ。天龍鬼神魔魅ノ惡咒
モ著クコトアタハズ。咒詛厭蠱及ビ毒藥モ此ノ人ノ口ニ入ラハ
甘露ノ味トナルベシ。惡星惡鬼神惡人及ヒ毘那夜迦諸ノ惡

④本29オ

④本28ウ

鬼王モ障辱スルヲアタハズ。却テ常ニ擁護スベシ。此ノ陀羅
泥ニ八万四千那由佗恒河沙俱胝ノ金剛藏王菩薩種
族アリ。一ニ皆金剛衆アツテ眷屬タリ。晝夜ニ此ノ人ヲ
擁護ス。設ヒ散亂ノ心ニテモ心ニ憶シ口ニ持ゼバ。是ノ金剛
玉常ニ隨從スベシ。菩提心決定ノ者ヲヤ。未來ニ藥又羅
刹餓鬼等ノ惡處ニ墮セジ。若ハ讀誦シ若ハ書寫シ若ハ
帶シテ供養セバ劫々ニ貧窮下賤ノ處ニ生ゼジ。縱ヒ其身ニ福
業ヲナサズトモ。十方如來ノ所有ノ功德ヲ。悉ク此人ニ與ヘ
玉フ。故ニ恒河沙阿僧祇不可說不可說劫ニ。常ニ諸佛ト
一處ニ生ジテ。無量ノ功德永ク分散ナカラン。破戒ノ人モ戒
根清淨ナラシメ。無智慧ノ者ニハ智慧ヲ得セシム。此咒ヲ持
スル時ハ設ヒ禁戒ヲ犯ゼリトモ。持咒ノ後ニハ破戒ノ罪輕重

問フナク。一時ニ消滅スベシ。設ヒ酒ヲ飲ミ五辛ヲ食噉シ種
種ノ不淨アリトモ。一切ノ諸佛菩薩金剛天仙鬼神以テ過ト
セジ。不淨ノ衣ヲ著ストモ一行一住悉ク清淨ニ同ジカラン。又
壇ヲ作サズ道場ニ入ラズ行道セズトモ。此咒ヲ持セバ還テ入
壇行道ノ功德ニ同ジカラン。若シ五逆無間ノ重罪。比丘比
丘尼ノ四重八重禁ヲ破スルモ。此咒ヲ誦ゼバ猶猛風ノ沙聚
ヲ吹散スルガ如ク。悉ク皆ナ消滅シテ更ニ毫髮モナカラン。又無
量無數劫ヨリ已來ノ。所有ノ一切ノ輕重ノ罪障前世ヨリ
未ダ懺悔セザルモ。此咒ヲ身心ニ帶シ住處ニ安ゼバ。速ニ滅
センコト猶湯ノ雪ヲ消スルガ如クナラン。久シカラズシテ無生忍ヲ
悟ルコトヲ得ベシ。又女人アツテ男子女子ヲ求メンニ。此咒ヲ念
ジ或ハ守リトセバ。福德智慧ノ男女ヲ得ベシ。長命ヲ求ムル

鬼王モ障辱スルコトアタハズ。却テ常ニ擁護スベシ。此ノ陀羅
泥ニ八万四千那由佗恒河沙俱胝ノ。金剛藏王菩薩ノ種
族アリ。一ニ皆金剛衆アツテ眷屬タリ。晝夜ニ此ノ人ヲ
擁護ス。設ヒ散亂ノ心ニテモ心ニ憶シ口ニ持ゼバ。是ノ金剛
玉常ニ隨從スベシ。菩提心決定ノ者ヲヤ。未來ニ藥又羅
刹餓鬼等ノ惡處ニ墮セジ。若ハ讀誦シ若ハ書寫シ若ハ
帶シテ供養セバ劫々ニ貧窮下賤ノ處ニ生ゼジ。縱ヒ其身ニ福
業ヲナサズトモ。十方如來ノ所有ノ功德ヲ。悉ク此人ニ與ヘ
玉フ。故ニ恒河沙阿僧祇不可說不可說劫ニ。常ニ諸佛ト
一處ニ生ジテ。無量ノ功德永ク分散ナカラン。破戒ノ人モ戒
根清淨ナラシメ。無智慧ノ者ニハ智慧ヲ得セシム。此咒ヲ持
スル時ハ設ヒ禁戒ヲ犯ゼリトモ。持咒ノ後ニハ破戒ノ罪輕重

問コトナク。一時ニ消滅スベシ。設ヒ酒ヲ飲ミ五辛ヲ食噉シ種
種ノ不淨アリトモ。一切ノ諸佛菩薩金剛天仙鬼神以テ過ト
セジ。不淨ノ衣ヲ著ストモ一行一住悉ク清淨ニ同ジカラン。又
壇ヲ作サズ道場ニ入ラズ行道セズトモ。此咒ヲ持セバ還テ入
壇行道ノ功德ニ同ジカラン。若シ五逆無間ノ重罪。比丘比
丘尼ノ四重八重禁ヲ破スルモ。此咒ヲ誦ゼバ猶猛風ノ沙聚
ヲ吹散スルガ如ク。悉ク皆ナ消滅シテ更ニ毫髮モナカラン。又無
量無數劫ヨリ已來ノ。所有ノ一切ノ輕重ノ罪障前世ヨリ
未ダ懺悔セザルモ。此咒ヲ身心ニ帶シ住處ニ安ゼバ。速ニ滅
センコト猶湯ノ雪ヲ消スルガ如クナラン。久シカラズシテ無生忍ヲ
悟ルコトヲ得ベシ。又女人アツテ男子女子ヲ求メンニ。此咒ヲ念
ジ或ハ守リトセバ。福德智慧ノ男女ヲ得ベシ。長命ヲ求ムル

者ハ長命ヲ得。果報ヲ求ル者ハ念ニ隨テ即チ得ベシ。命終ノ後十方ノ淨土ニ生ゼンコトヲ願ハ、願ニ隨テ往生スベシ。必定シテ邊地下賤ノ身ヲ受ケジ。況ヤ雜形生ヲヤ。諸ノ國土州縣聚落ニ疫癘刀兵賊難一切ノ厄難災殃アランニ。此咒ヲ書寫シテ城ノ四門ノ上ヘ或ハ各各ノ身ニ帶シ。所居ノ宅ニ安ゼバ。一切ノ災厄悉ク皆ナ消滅セン。風雨時ニ順ジ。五穀豐カニ登リ。百姓安樂ナラン。又惡星ノ災起ラズ。杵械枷鎖其身ニ著ズ。晝夜安眠シテ惡夢ナカラン。此娑婆世界ニ八万四千ノ災變ノ惡星アリ。二十八ノ大惡星ヲ上首トシテ。復八ノ大惡星ヲ其主トス。種々ノ形ト作テ世ニ出現シ。能ク種々ノ災異ヲナセドモ此ノ咒ヲ有ツ處ニハ悉皆ナ銷滅セン。十二由旬結界ノ地ト成テ諸ノ災異永ク入ルコトアタハジ。未

來世ノ諸ノ修行者我カ壇場ニ依テ如法ニ戒ヲ持シ。此咒ニ於テ疑悔ヲ生ゼズ修セン。是ノ善男子此父母所生ノ身ニ心通ヲ得ズンバ。十方ノ如來即チ妄語トナリ玉ハン。佛是ノ語ヲ説玉フ時ニ會中ノ無量百千ノ金剛。一時ニ佛前ニ合掌頂禮ノ白サク。我當ニ誠心ニ是ノ如クノ修菩提者ヲ保護スベシト。又梵王帝釋四大天王。又同ジク其人ヲ保護シテ。一生ノ所作願ノ如クナラシムベシト。又無量ノ藥叉大將羅刹王。及頻那夜迦。諸ノ大鬼王等佛前ニ於テ誓願スラク。是人ヲ護持シテ菩提心ヲシテ速ニ圓滿スルコトヲ得セシムベシト。復無量ノ日月天子。風師。雨師。雲師。雷師。并ニ電伯等。年歲巡官諸星眷屬アリ。佛ニ白シテ言サク。我モ亦是修行ノ人ヲ保護シテ。道場ヲ安立センニ所畏ナキコトヲ得セ

者ハ長命ヲ得。果報ヲ求ル者ハ念ニ隨テ即チ得ベシ。命終ノ後十方ノ淨土ニ生ゼンコトヲ願ハ、願ニ隨テ往生スベシ。必定シテ邊地下賤ノ身ヲ受ケジ。況ヤ雜形生ヲヤ。諸ノ國土州縣聚落ニ疫癘刀兵賊難一切ノ厄難災殃アランニ。此咒ヲ書寫シテ城ノ四門ノ上ヘ或ハ各各ノ身ニ帶シ。所居ノ宅ニ安ゼバ。一切ノ災厄悉ク皆ナ消滅セン。風雨時ニ順ジ。五穀豐カニ登リ。百姓安樂ナラン。又惡星ノ災起ラズ。杵械枷鎖其身ニ著ズ。晝夜安眠シテ惡夢ナカラン。此娑婆世界ニ八万四千ノ災變ノ惡星アリ。二十八ノ大惡星ヲ上首トシテ。復八ノ大惡星ヲ其主トス。種々ノ形ト作テ世ニ出現シ。能ク種々ノ災異ヲナセドモ此ノ咒ヲ有ツ處ニハ悉皆ナ銷滅セン。十二由旬結界ノ地ト成テ諸ノ災異永ク入ルコトアタハジ。未

來世ノ諸ノ修行者我カ壇場ニ依テ如法ニ戒ヲ持シ。此咒ニ於テ疑悔ヲ生ゼズシテ修セン。是ノ善男子此父母所生ノ身ニ心通ヲ得ズンバ。十方ノ如來即チ妄語トナリ玉ハン。佛是ノ語ヲ説玉フ時ニ會中ノ無量百千ノ金剛。一時ニ佛前ニシテ合掌頂禮シテ白サク。我當ニ誠心ニ是ノ如クノ修菩提者ヲ保護スベシト。又梵王帝釋四大天王。又同ジク其人ヲ保護シテ。一生ノ所作願ノ如クナラシムベシト。又無量ノ藥叉大將羅刹王。及頻那夜迦。諸ノ大鬼王等佛前ニ於テ誓願スラク。是人ヲ護持シテ菩提心ヲシテ速ニ圓滿スルコトヲ得セシムベシト。復無量ノ日月天子。風師。雨師。雲師。雷師。并ニ電伯等。年歲巡官諸星眷屬アリ。佛ニ白シテ言サク。我モ亦是修行ノ人ヲ保護シテ。道場ヲ安立センニ所畏ナキコトヲ得セ

シメント。復無量ノ山神海神一切ノ土地水陸空行万物ノ精祇。并ニ風神王無色界ノ天アリ。又同シク誓願スラク。我亦是ノ修行ノ人ヲ保護シテ。菩提ヲ成ズルニ至ルマデ。永ク魔事ナカラシメント。尔時ニ八万四千那由佉恒河沙俱眠ノ金剛藏王菩薩。佛足ヲ頂禮シテ佛ニ白シテ言サク。我等久シク菩提ヲ成ズレトモ涅槃ヲ取ラズ。此咒ニ隨テ末世ノ正修行者ヲ救護セン。修行者若ハ道場ニアリ。及ビ餘ノ經行。乃至散心ニシテ聚落ニ遊戯センニ。我等常ニ當ニ隨從シテ此人ヲ侍衛スベシ。縱令魔王自在天。其ノ方便ヲ求ムトモ。終ニ得ベカラズ。諸ノ小鬼神ハ此ノ善人ヲ去ルコト由旬ノ外ナラン。若ハ惡魔若ハ魔ノ眷屬來テ此善人ヲ侵擾セントセバ。我寶杵ヲ以テ其ノ首ヲ殞碎シテ。猶微塵ノ如クナラ

④本31ウ

シメント。又阿難ニ告玉ハク。若シ人有テ十方ノ虚空ニ遍滿シテ七寶ヲ盈滿シ。持シテ微塵數ノ諸佛ニ奉上シ。承事シ供養シテ虚シク度ルコトナカラン。是人ノ功德多シヤ不ヤ。阿難答テ曰ク。虚空無盡ニシテ珍寶無邊ナリ。昔シ衆生アツテ佛ニ七錢ヲ施スニ猶轉輪王ノ位ヲ得タリ。況ヤ復此ノ人ノ功德ハ劫ヲ窮メテ思議ストモ尚及ブコトアタハジ。更ニ邊際アルコトナシト。佛阿難ニ告玉ハク。佛語ハ虚妄ナシ。若シ人アツテ。身ニ四重十波羅夷罪ヲ具シテ。瞬息ニ此方他方ノ阿鼻地獄ヲ經。乃至十方ノ無間ヲ窮盡シテ經歷セズト云コトナカラン。能ク一念ヲ以テ此法門ヲ末劫ノ中ニ人ニ開示セバ。是人ノ罪障念ニ應シテ銷滅シテ。其ノ所受ノ地獄ノ苦因ヲ變シテ安樂國ト成スベシ。淨土ニ福ヲ得ルコト前ノ施福ニ超越スルコト。百倍

④本32オ

シメント。復無量ノ山神海神一切ノ土地水陸空行万物ノ精祇。并ニ風神王無色界ノ天アリ。又同シク誓願スラク。我亦是ノ修行ノ人ヲ保護シテ。菩提ヲ成ズルニ至ルマデ。永ク魔事ナカラシメント。尔時ニ八万四千那由佉恒河沙俱眠ノ金剛藏王菩薩。佛足ヲ頂禮シテ佛ニ白シテ言サク。我等久シク菩提ヲ成ズレトモ涅槃ヲ取ラズ。此咒ニ隨テ末世ノ正修行者ヲ救護セン。修行者若ハ道場ニアリ。及ビ餘ノ經行。乃至散心ニシテ聚落ニ遊戯センニ。我等常ニ當ニ隨從シテ此人ヲ侍衛スベシ。縱令魔王自在天。其ノ方便ヲ求ムトモ。終ニ得ベカラズ。諸ノ小鬼神ハ此ノ善人ヲ去ルコト由旬ノ外ナラン。若ハ惡魔若ハ魔ノ眷屬來テ此善人ヲ侵擾セントセバ。我寶杵ヲ以テ其ノ首ヲ殞碎シテ。猶微塵ノ如クナラ

シメント。又阿難ニ告玉ハク。若シ人有テ十方ノ虚空ニ遍滿シテ七寶ヲ盈滿シ。持シテ微塵數ノ諸佛ニ奉上シ。承事シ供養シテ虚シク度ルコトナカラン。是人ノ功德多シヤ不ヤ。阿難答テ曰ク。虚空無盡ニシテ珍寶無邊ナリ。昔シ衆生アツテ佛ニ七錢ヲ施スニ猶轉輪王ノ位ヲ得タリ。況ヤ復此ノ人ノ功德ハ劫ヲ窮メテ思議ストモ尚及ブコトアタハジ。更ニ邊際アルコトナシト。佛阿難ニ告玉ハク。佛語ハ虚妄ナシ。若シ人アツテ。身ニ四重十波羅夷罪ヲ具シテ。瞬息ニ此方他方ノ阿鼻地獄ヲ經。乃至十方ノ無間ヲ窮盡シテ經歷セズト云コトナカラン。能ク一念ヲ以テ此法門ヲ末劫ノ中ニ人ニ開示セバ。是人ノ罪障念ニ應シテ銷滅シテ。其ノ所受ノ地獄ノ苦因ヲ變シテ安樂國ト成スベシ。淨土ニ福ヲ得ルコト前ノ施福ニ超越スルコト。百倍

千倍千万億倍ニ乃至算數譬喩モ及ブ能ハザル所口ナリ。我此咒ヲ持ツ功德ヲ廣ク説クニ。劫ヲ窮ムトモ盡ジ。我カ教言ニ依テ修行セバ直チニ菩提ヲ成メ。復魔業ナカラント。楞嚴經 又不空三藏ノ大佛頂ノ啓請ノ法ニ曰ク。此ノ陀羅尼ヲ誦ズル者ハ。持齋セザルモノモ持齋トナリ。無戒ノ人モ持戒トナル。八万四千ノ持金剛衆行住坐卧ニ每ニ其人ニ隨ヒ。十方法界ノ諸如來加持シ護念シ玉フ。若一万八千遍ヲ誦シ滿ズレバ。無相定ヲ得ベシ。僧ノ二百五十戒ヲ破セル。比丘尼ノ八重ヲ破セルモ。此ノ陀羅尼ヲ聞念セバ。聲聞戒ヲ還得具足スベシ。若人常ニ十惡ヲ行ジテ罪無邊ナランニ。暫ク聞バ恒沙ノ罪障皆消滅スベシ。現ニ阿鼻大地獄ニ墮スベキ人モ。菩提心ヲ起シテ一タビ此ノ陀羅尼ヲ聞バ。永ク天ニ

生ズベシトイヘリ。今時ノ人ハ罪ノミニシテ善根アルコトナシ。偏ニ此ノ陀羅尼ニ歸依シテ或ハ守リトシ或ハ念誦スベシ。○問酒肉葷辛ハ如來ノ嚴誡ナリ。又唐ノ玄鑿法師ハ澤州高平ノ人ナリ。天性慈仁ニ志シ清潔ヲ樂フ。隋ノ末ニ賊徒交亂ル佛寺僧坊灰燼トナツテ。衆僧分散シ顛仆スレドモ。玄鑿法師ハ堅ク佛戒ヲ守テ威儀缺ルコトナシ。若シ飲酒非時食シテ濫行ナル者ヲ見テハ面會訶ス。若シ用ヒザル時ハ即チ酒器ヲ破碎ス。故ニ諸ノ俗士若シ醺飲スルニ玄鑿ノ來ルヲ聞テハ即チ奔散ス。或時寺ニ繕造アリテ工匠多シ。故ニ貴人酒食ヲ遺リケレバ。鑿ノ曰ク寺ヲ修造スルコトハ佛法ヲ住持セシカ為ナリ。寧口寺ヲ造セストモ此ノ非法ノ物ヲ入レシトテ止ム。又清化寺ニ佛殿ヲ修營ス。合境ノ民庶共ニ崇建ス。澤

千倍千万億倍ニシテ乃至算數譬喩モ及ブコト能ハザル所口ナリ。我此咒ヲ持ツ功德ヲ廣ク説クニ。劫ヲ窮ムトモ盡ジ。我カ教言ニ依テ修行セバ直チニ菩提ヲ成シテ。復魔業ナカラント。楞嚴經 又不空三藏ノ大佛頂ノ啓請ノ法ニ曰ク。此ノ陀羅尼ヲ誦ズル者ハ。持齋セザルモノモ持齋トナリ。無戒ノ人モ持戒トナル。八万四千ノ持金剛衆行住坐卧ニ每ニ其人ニ隨ヒ。十方法界ノ諸如來加持シ護念シ玉フ。若一万八千遍ヲ誦シ滿ズレバ。無相定ヲ得ベシ。僧ノ二百五十戒ヲ破セル。比丘尼ノ八重ヲ破セルモ。此ノ陀羅尼ヲ聞念セバ。聲聞戒ヲ還得具足スベシ。若人常ニ十惡ヲ行ジテ罪無邊ナランニ。暫ク聞バ恒沙ノ罪障皆消滅スベシ。現ニ阿鼻大地獄ニ墮スベキ人モ。菩提心ヲ起シテ一タビ此ノ陀羅尼ヲ聞バ。永ク天ニ

生ズベシトイヘリ。今時ノ人ハ罪ノミニシテ善根アルコトナシ。偏ニ此ノ陀羅尼ニ歸依シテ或ハ守リトシ或ハ念誦スベシ。○問酒肉葷辛ハ如來ノ嚴誡ナリ。又唐ノ玄鑿法師ハ澤州高平ノ人ナリ。天性慈仁ニ志シ清潔ヲ樂フ。隋ノ末ニ賊徒交亂ル佛寺僧坊灰燼トナツテ。衆僧分散シ顛仆スレドモ。玄鑿法師ハ堅ク佛戒ヲ守テ威儀缺ルコトナシ。若シ飲酒非時食シテ濫行ナル者ヲ見テハ面會訶ス。若シ用ヒザル時ハ即チ酒器ヲ破碎ス。故ニ諸ノ俗士若シ醺飲スルニ玄鑿ノ來ルヲ聞テハ即チ奔散ス。或時寺ニ繕造アリテ工匠多シ。故ニ貴人酒食ヲ遺リケレバ。鑿ノ曰ク寺ヲ修造スルコトハ佛法ヲ住持セシカ為ナリ。寧口寺ヲ造セストモ此ノ非法ノ物ヲ入レシトテ止ム。又清化寺ニ佛殿ヲ修營ス。合境ノ民庶共ニ崇建ス。澤

④本33オ

④本32ウ

州ノ長孫義酒兩車ヲ送ル。鑿時ニ營造ヲ檢校シテ此ノ酒ヲ見テ。酒樽ヲ破碎シテ地上ニ狼籍タリ。而モ告テ曰ク。吾ガ功德成ゼザルベクトモ。終ニ此非法ノ物ヲ用ヒジト。義聞テ大ニ忿リ惱ヲ加ヘント欲ス。而ルニ夢中ニ人アリ。大刀ヲ以テ忿テ義ニ向フ。是ニ依テ懺悔シテ歸依ストイヘリ。武徳六年ニ李録事ト云者アリ。死シテ七日ヲ經テ身ヲ隱シテ妻ニ謂テ曰ク。吾ハ是李録事ナリ。計ルニ吾壽猶六年アリ。但司命枉テ我ヲ取り。已ニ閻王ニ訴ヘテ人中ニアルヲ得。今鬼道ニ在テ未然ノ事皆預メ知ル。卿ガ家貧窘ナリ。但他ノ為ニトセバ。必ズ中ラズト云コトナケン。妻其ノ言ニ從テトスルニ鬼為ニ疑ヲ通ズ。遠近皆ナ驚テ通力ヲ得タルカ。聖人ナルカトオモヘリ。後ニ妻ニ謂テ曰ク人命無常

ナリ。何ゾ福ヲ修セザル。須カラク鑿法師ノ所ニ往テ法ヲ聽ベント。遂ニ往テ講堂ノ中ニ入り壁ノ角ニ安置シテ物ヲ以テ自ラ障。人ト共ニ言議ス應變迅速ナリ。乃チ二三十日ヲ經タリ。或ハ問者アリ何ゾ形ヲ現セザルヤト。答テ曰ク今鬼趣ニ在テ身ヲ受ルコト極メテ醜クシ。自ラサヘ見ルニ忍ビズ況復他ヲヤト。又景業寺ニ往テ維摩經ヲ聞。餘法師ト云者アリ。問テ曰ク今此經ヲ講スル何人ノ聽コトヲ感ズルヤ。李録事鬼答テ曰ク。人ノ頭ヨリ已上ハ皆鬼神ナリ。其ノ上ハ皆諸天ナリ重級トシテ充滿ス。都講文ヲ唱レハ諸天神等皆容ヲ歛メ耳ヲ傾テ聽其聲ノ絶ンコトヲ恐ル。法師解釋スレバ皆散亂縱恣ニシテ聽受スルニ心ナシ。願クハ如法ニ講説シテ妄リニ飲噉スルコトナカレ。何ヲ以テ

州ノ長孫義酒兩車ヲ送ル。鑿時ニ營造ヲ檢校シテ此ノ酒ヲ見テ。酒樽ヲ破碎シテ地上ニ狼籍タリ。而モ告テ曰ク。吾ガ功德成ゼザルベクトモ。終ニ此非法ノ物ヲ用ヒジト。義聞テ大ニ忿リ惱ヲ加ヘント欲ス。而ルニ夢中ニ人アリ。大刀ヲ以テ忿テ義ニ向フ。是ニ依テ懺悔シテ歸依ストイヘリ。武徳六年ニ李録事ト云者アリ。死シテ七日ヲ經テ身ヲ隱シテ妻ニ謂テ曰ク。吾ハ是李録事ナリ。計ルニ吾壽猶六年アリ。但司命枉テ我ヲ取り。已ニ閻王ニ訴ヘテ人中ニアルコトヲ得。今鬼道ニ在テ未然ノ事皆預メ知ル。卿ガ家貧窘ナリ。但他ノ為ニトセバ。必ズ中ラズト云コトナケン。妻其ノ言ニ從テトスルニ鬼為ニ疑ヲ通ズ。遠近皆ナ驚テ通力ヲ得タルカ。聖人ナルカトオモヘリ。後ニ妻ニ謂テ曰ク人命無常

ナリ。何ゾ福ヲ修セザル。須カラク鑿法師ノ所ニ往テ法ヲ聽ベント。遂ニ往テ講堂ノ中ニ入り壁ノ角ニ安置シテ物ヲ以テ自ラ障。人ト共ニ言議ス應變迅速ナリ。乃チ二三十日ヲ經タリ。或ハ問者アリ何ゾ形ヲ現セザルヤト。答テ曰ク今鬼趣ニ在テ身ヲ受ルコト極メテ醜クシ。自ラサヘ見ルニ忍ビズ況復他ヲヤト。又景業寺ニ往テ維摩經ヲ聞。餘法師ト云者アリ。問テ曰ク今此經ヲ講スル何人ノ聽コトヲ感ズルヤ。李録事鬼答テ曰ク。人ノ頭ヨリ已上ハ皆鬼神ナリ。其ノ上ハ皆諸天ナリ重級トシテ充滿ス。都講文ヲ唱レハ諸天神等皆容ヲ歛メ耳ヲ傾テ聽其聲ノ絶ンコトヲ恐ル。法師解釋スレバ皆散亂縱恣ニシテ聽受スルニ心ナシ。願クハ如法ニ講説シテ妄リニ飲噉スルコトナカレ。何ヲ以テ

④本34オ

④本33ウ

知ルトナラバ諸天神仙等法師ノ酒氣ヲ聞テ皆面ヲ回シテ
聽ヲ見レバナリト。因テ過テ酒ヲ飲マヌ。鬼ノ曰ク。惟此
會ノミ獨リ諸天ヲ感ズルニアラス。但法事アレバ來降セズト
云フナシ。輕スヘカラズト。玄鑿傳聞テ倍復信奉シテ。戒節
兢々トナシ。每ニ涅槃。十地。維摩經等ヲ講シテ八十餘歲マデ
四時ニ輟ストイヘリ。然ルニ今兜ノ功能ヲ説ニハ。酒ヲ飲ミ五
辛ヲ食シ。種々ノ不淨等アリトモ諸天仙過トセジト言。又
或處ニハ五辛ヲ食スル者ハ十二部經ヲ誦ズレドモ益ナキ
由ヲ説ク。一經ニ二所ノ文ヲ看セリ如何解センヤ。答フ酒
肉五辛ヲ食スルハ既ニ罪ナリ。此ノ罪アリトモ能ク勤メテ
陀羅尼ヲ誦ゼバ。恒沙ノ罪障速疾ニ消滅スベシ。故ニ諸天
仙等過メ玉ハザルナリ。是真言醍醐ノ教藥諸乘ニ超過セ

ル事ヲ説ナリ。又不淨ヲ簡ザルハ利益ノ少ナカラシヲ恐ル
カ故ナリ。是大悲攝取ノ門ナリ。食辛酒肉ヲ呵スルハ。大智抑
上ノ門ナリ。故ニ一邊ヲ執スルコトナカレ。若シ極メテ清淨ニセヨトノ
ミ説バ。末世ノ凡夫最上乘ニ結緣スルコトアタハジ。若シ渾テ不
淨ヲ開セバ又何ゾ速ニ悉地ヲ成ゼンヤ。故ニ身モ服モ清淨
ニシテ戒律犯ズルコトナクシテ。此ノ咒ヲ誦ズル時ハ現世ニ悉地ヲ得
テ心通ヲ得ベシ。若シ不淨ニシテ誦ズル者ハ但未來ノ得脱ヲ
得ルノミ。是結緣機ノ分齊ナリ。若シ淨信決定ノ正機ノ人ハ。
必ズ如法清淨ニシテ現ニ悉地ヲ得ルガ故ナリ
唐ノ崇惠禪師大佛頂ヲ誦シテ通ヲ得ル事
唐ノ京師章信寺ノ崇惠禪師ハ杭州ノ人ナリ。幼ニシテ徑山ノ
國一禪師ヲ師トシテ禪ヲ學ビ。又不空三藏ニ隨テ瑜伽三

知ルトナラバ諸天神仙等法師ノ酒氣ヲ聞テ皆面ヲ回シテ
聽ヲ見レバナリト。因テ過テ酒ヲ飲マヌ。鬼ノ曰ク。惟此
會ノミ獨リ諸天ヲ感ズルニアラス。但法事アレバ來降セズト
云コトナシ。輕スヘカラズト。玄鑿傳聞テ倍復信奉シテ。戒節
兢々トナシ。每ニ涅槃。十地。維摩經等ヲ講シテ八十餘歲マデ
四時ニ輟ストイヘリ。然ルニ今兜ノ功能ヲ説ニハ。酒ヲ飲ミ五
辛ヲ食シ。種々ノ不淨等アリトモ諸天仙過トセジト言。又
或處ニハ五辛ヲ食スル者ハ十二部經ヲ誦ズレドモ益ナキ
由ヲ説ク。一經ニ二所ノ文ヲ看セリ如何解センヤ。答フ酒
肉五辛ヲ食スルハ既ニ罪ナリ。此ノ罪アリトモ能ク勤メテ
陀羅尼ヲ誦ゼバ。恒沙ノ罪障速疾ニ消滅スベシ。故ニ諸天
仙等過メ玉ハザルナリ。是真言醍醐ノ教藥諸乘ニ超過セ

ル事ヲ説ナリ。又不淨ヲ簡ザルハ利益ノ少ナカラシコトヲ恐ル
カ故ナリ。是大悲攝取ノ門ナリ。食辛酒肉ヲ呵スルハ。大智抑
上ノ門ナリ。故ニ一邊ヲ執スルコトナカレ。若シ極メテ清淨ニセヨトノ
ミ説バ。末世ノ凡夫最上乘ニ結緣スルコトアタハジ。若シ渾テ不
淨ヲ開セバ又何ゾ速ニ悉地ヲ成ゼンヤ。故ニ身モ服モ清淨
ニシテ戒律犯ズルコトナクシテ。此ノ咒ヲ誦ズル時ハ現世ニ悉地ヲ得
テ心通ヲ得ベシ。若シ不淨ニシテ誦ズル者ハ但未來ノ得脱ヲ
得ルノミ。是結緣機ノ分齊ナリ。若シ淨信決定ノ正機ノ人ハ。
必ズ如法清淨ニシテ現ニ悉地ヲ得ルガ故ナリ
唐ノ崇惠禪師大佛頂ヲ誦シテ通ヲ得ル事
唐ノ京師章信寺ノ崇惠禪師ハ杭州ノ人ナリ。幼ニシテ徑山ノ
國一禪師ヲ師トシテ禪ヲ學ビ。又不空三藏ニ隨テ瑜伽三

密ノ教ヲ受ケテ。常ニ密觀ヲ修習ス。昌化ノ千頃最峯頂ニ於テ茅庵ヲ結テ。專ラ常ニ大佛頂陀羅尼ヲ誦ズルコト數稔。又鹽官ノ破石ノ東山ニ往テ岫庵ヲ結テ多ク年月ヲ歴。後ニ落雲寺ニ往テ跡ヲ遁ル。俄カニ神アリ告テ曰ク。師大佛頂ノ咒ヲ持スルニ莎訶ヲ結スルコト少ニシテ密語圓ナラズ。莎訶ハ成就ノ義ナリ。必ズ満足セヨ。今佛法外教ノ為ニ凌轢セラレテ危キコト綴旒ノ如シ。師ノ解救ヲ待ノミ。崇慧神ノ教ノ如クニ莎訶ノ句ヲ満足シテ唱フ。終ニ神通ヲ得タリ。即チ章信寺ニ往テ錫ヲ挂ク。大曆三年戊申ノ歲。九月廿三日大清宮ノ道士史華上奏シテ。佛氏當代ノ名僧ト道士ト。佛法道法ノ勝負ヲ角ヘシヲ請。是蓋シテ代宗皇帝ノ偏ニ佛法ヲ崇敬シ玉ヲ嫉ンデナリ。皇帝敕シテ許ス。史華等東明

④本 35ウ

觀ノ壇前ニ於テ。刀ヲ架シテ梯トシテ。史華等ノボリフムコト常ノ磴道ノ如シ。時ニ諸人驚歎セズト云コトナシ。諸ノ沙門互ニ顧ミテ震ヒ懼。敢テ登ルモノナシ。崇惠禪師此ヲ聞テ。開府魚朝恩ニ謁シテ奏シ請シテ。即チ章信寺ノ庭ニ於テ梯ヲ立ツ。利刀ノ霜雪ノ如クナルヲ以テ。架ヲ横ヘ高キコト百尺ナラシム。史華ガ登リシ東明ノ梯ハ極メテ低シ。時ニ朝廷ノ公貴市肆ノ居民羣リ集ツテ此ヲ見ル。崇惠徒跣ニシテ級ノ下層ニ登リ。利刀ヲ躡ムコト平地ノ如シ少モ難ム色ナシ。又烈火ヲ踏ミ手ニ油湯ヲ探ル。鐵葉ヲ餐シテ飢飢ト号シ。或ハ釘線ヲ嚼ムコト聲猶脆脆如シ。史華怯懼慙惶ノ面ヲ掩テ退ク。其ノ時ニ億千萬ノ人異口同音ニ驚歎彈指ス。聲雷響ノ如シ。代宗皇帝中官鞏庭玉ヲ使ヒト宣慰

④本 36オ

密ノ教ヲ受ケテ。常ニ密觀ヲ修習ス。昌化ノ千頃最峯頂ニ於テ茅庵ヲ結テ。專ラ常ニ大佛頂陀羅尼ヲ誦ズルコト數稔。又鹽官ノ破石ノ東山ニ往テ岫庵ヲ結テ多ク年月ヲ歴。後ニ落雲寺ニ往テ跡ヲ遁ル。俄カニ神アリ告テ曰ク。師大佛頂ノ咒ヲ持スルニ莎訶ヲ結スルコト少ニシテ密語圓ナラズ。莎訶ハ成就ノ義ナリ。必ズ満足セヨ。今佛法外教ノ為ニ凌轢セラレテ危キコト綴旒ノ如シ。師ノ解救ヲ待ノミ。崇慧神ノ教ノ如クニ莎訶ノ句ヲ満足シテ唱フ。終ニ神通ヲ得タリ。即チ章信寺ニ往テ錫ヲ挂ク。大曆三年戊申ノ歲。九月廿三日大清宮ノ道士史華上奏シテ。佛氏當代ノ名僧ト道士ト。佛法道法ノ勝負ヲ角ヘシヲ請。是蓋シテ代宗皇帝ノ偏ニ佛法ヲ崇敬シ玉ヲ嫉ンデナリ。皇帝敕シテ許ス。史華等東明

觀ノ壇前ニ於テ。刀ヲ架シテ梯トシテ。史華等ノボリフムコト常ノ磴道ノ如シ。時ニ諸人驚歎セズト云コトナシ。諸ノ沙門互ニ顧ミテ震ヒ懼。敢テ登ルモノナシ。崇惠禪師此ヲ聞テ。開府魚朝恩ニ謁シテ奏シ請シテ。即チ章信寺ノ庭ニ於テ梯ヲ立ツ。利刀ノ霜雪ノ如クナルヲ以テ。架ヲ横ヘ高キコト百尺ナラシム。史華ガ登リシ東明ノ梯ハ極メテ低シ。時ニ朝廷ノ公貴市肆ノ居民羣リ集ツテ此ヲ見ル。崇惠徒跣ニシテ級ノ下層ニ登リ。利刀ヲ躡ムコト平地ノ如シ少モ難ム色ナシ。又烈火ヲ踏ミ手ニ油湯ヲ探ル。鐵葉ヲ餐シテ飢飢ト号シ。或ハ釘線ヲ嚼ムコト聲猶脆脆如シ。史華怯懼慙惶ノ面ヲ掩テ退ク。其ノ時ニ億千萬ノ人異口同音ニ驚歎彈指ス。聲雷響ノ如シ。代宗皇帝中官鞏庭玉ヲ使ヒト宣慰

セシムルコト再三。即チ紫衣ヲ賜。詔シテ鴻臚卿ヲ授ケ。號シテ護國三藏ト云フ。敕シテ安國寺ニ移シテ居シム。シカツシヨリ聲名德望天下ニ峻高ナリ。代宗倍尊重シ玉ヘリ。世ニ巾子山ノ降魔和尚ト云ハ即チ崇慧禪師ナリ。此本大佛頂ノ咒ヲ持シ三密ノ瑜伽ヲ修スルガ故ニ。現ニ悉地ヲ成就セリ。而モ初メハサカノ句滿セザルガ故ニ。闕支分ト成テ成就セズ。山神ノ告ニ依テ支分圓滿シテ即チ悉地ヲ得玉ヘリ。今ノ人真言ヲ誦ズルニ。音韻曲屈。長短清濁相ヒ叶フコト稀ナリ。慎マズンバアルベカラズ。

真言礦石集卷四本終

礦石集第四末

定照法師枯木ヲ加持スルニ再ビ榮ル事

釋ノ定照法師ハ藤原姓平安城ノ人ナリ。仁教法師ニ法相ヲ學ビ。仁和寺ノ寬空僧正ニ密教ヲ學ブ。一生不犯ノ人ナリ。少小シ時一指女身ニ觸ル。我が此ノ形骸一指染ヲナス。餘ハ清淨ナラズト云フナシト云テ。即チ指ヲ以テ燭トシテ然シ。三寶ニ供養シテ發露懺悔セリ。常ニ法華及ビ大佛頂陀羅尼ヲ誦ズ。山階寺ノ一乘院ニ住スル時。一ノ橘樹アリ。自然ニ枯瘁スルガ故ニ僧衆伐去ントス。時ニ定照法師大佛頂陀羅尼ヲ誦ノ加持スルニ。其日即チ萌芽ヲ生ジ。六七日ヲ過テ枝葉茂リテ。漸ク花果ヲ生ズルコト前ニ倍セリ。其ノ橘樹元亨ノ時分マデ猶在トイヘリ。定照ノ事ハ上ノ卷ニ粗記スルガ如シ。此ノ

セシムルコト再三。即チ紫衣ヲ賜。詔シテ鴻臚卿ヲ授ケ。號シテ護國三藏ト云フ。敕シテ安國寺ニ移シテ居シム。シカツシヨリ聲名德望天下ニ峻高ナリ。代宗倍尊重シ玉ヘリ。世ニ巾子山ノ降魔和尚ト云ハ即チ崇慧禪師ナリ。此本大佛頂ノ咒ヲ持シ三密ノ瑜伽ヲ修スルガ故ニ。現ニ悉地ヲ成就セリ。而モ初メハサカノ句滿セザルガ故ニ。闕支分ト成テ成就セズ。山神ノ告ニ依テ支分圓滿シテ即チ悉地ヲ得玉ヘリ。今ノ人真言ヲ誦ズルニ。音韻曲屈。長短清濁相ヒ叶フコト稀ナリ。慎マズンバアルベカラズ。

真言礦石集卷四本終

礦石集第四末

定照法師枯木ヲ加持スルニ再ビ榮ル事

釋ノ定照法師ハ藤原姓平安城ノ人ナリ。仁教法師ニ法相ヲ學ビ。仁和寺ノ寬空僧正ニ密教ヲ學ブ。一生不犯ノ人ナリ。少小シ時一指女身ニ觸ル。我が此ノ形骸一指染ヲナス。餘ハ清淨ナラズト云フナシト云テ。即チ指ヲ以テ燭トシテ然シ。三寶ニ供養シテ發露懺悔セリ。常ニ法華及ビ大佛頂陀羅尼ヲ誦ズ。山階寺ノ一乘院ニ住スル時。一ノ橘樹アリ。自然ニ枯瘁スルガ故ニ僧衆伐去ントス。時ニ定照法師大佛頂陀羅尼ヲ誦シテ加持スルニ。其日即チ萌芽ヲ生ジ。六七日ヲ過テ枝葉茂リテ。漸ク花果ヲ生ズルコト前ニ倍セリ。其ノ橘樹元亨ノ時分マデ猶在トイヘリ。定照ノ事ハ上ノ卷ニ粗記スルガ如シ。此ノ

人モ極メテ如法清淨ニセシ故ニ。現ニ悉地ヲ得タリ。豈偏ニ大悲ノ開文ノミヲ依憑トセンヤ

玄海法師大佛頂ヲ誦シ淨土ニ往生セシ事
奥州新田郡小松寺ノ僧玄海ハ。初メハ妻子ヲ帶セリ。老テ後ニ妻子ヲ棄テ、清淨ニ勤ム。日ニ法華一部。大佛頂陀羅尼七遍ヲ誦ス。或時久ク寐テ起ス。夢ミラク左右ノ腋ニ忽チニ羽翼ヲ生シテ西ニ向テ飛ビ去リ。十萬億ノ國ヲ過テ七寶ノ地ニ到ル。自ラ其ノ身ヲ見ルニ大佛頂陀羅尼ヲ以テ左ノ翼トシ。法華ノ第八ノ卷ヲ以テ右ノ翼トシテ。極樂界ヲ飛回レバ。寶樹樓閣等ノ無量ノ莊嚴甚ダ愛樂シツベシ。爰ニ一リノ聖僧アリ。語テ曰ク今マ汝ガ來ル所ハ極樂ノ邊地ナリ。却テ後三日ニ汝ヲ迎フベシト。玄海此語ヲ聞テ喜テ飛ビ歸ル

初ノ如シ。初メ弟子等師ハ已ニ死セリト思テ悲泣スルニ。玄海漸ク甦ヘレリ。忝來彌真言ヲ念誦シ經王ヲ轉讀シテ。後三年ニ豫メ死期ヲ知テ遷化ス。彼ノ聖僧ハ定メテ地藏菩薩ナルベシ。此ノ人モ初メハ妻子ヲ帶セルガ故ニ淨土ノ邊地ヲ見タリ。經王ノ力。佛頂ノ德ニ依ルガ故ニ遂ニ淨土ニ生ゼリ。經ニ無間ノ極苦ヲ變シテ安樂國ト成スト説ル。如來誠諦ノ言信ゼズンバアルベカラズ。寤ニ僧ノ身トシテ妻子ヲ帶セルハ極無間ノ罪ナリ。然ルヲ真言不思議ノ力ヲ能ク極樂界ニ往生セシム。末法相應ノ妙法是ニ過タルハナシ。貴ムベシ仰グベシ。受持讀誦セズンバアルベカラズ

高野山教懷増延等大佛頂ヲ誦シテ往生ノ事
教懷法師ハ京兆ノ人ナリ。幼ニシテ出家シ。興福寺ニ住シ。又山

人モ極メテ如法清淨ニセシ故ニ。現ニ悉地ヲ得タリ。豈偏ニ大悲ノ開文ノミヲ依憑トセンヤ

玄海法師大佛頂ヲ誦シ淨土ニ往生セシ事
奥州新田郡小松寺ノ僧玄海ハ。初メハ妻子ヲ帶セリ。老テ後ニ妻子ヲ棄テ、清淨ニ勤ム。日ニ法華一部。大佛頂陀羅尼七遍ヲ誦ス。或時久ク寐テ起ス。夢ミラク左右ノ腋ニ忽チニ羽翼ヲ生シテ西ニ向テ飛ビ去リ。十萬億ノ國ヲ過テ七寶ノ地ニ到ル。自ラ其ノ身ヲ見ルニ大佛頂陀羅尼ヲ以テ左ノ翼トシ。法華ノ第八ノ卷ヲ以テ右ノ翼トシテ。極樂界ヲ飛回レバ。寶樹樓閣等ノ無量ノ莊嚴甚ダ愛樂シツベシ。爰ニ一リノ聖僧アリ。語テ曰ク今マ汝ガ來ル所ハ極樂ノ邊地ナリ。却テ後三日ニ汝ヲ迎フベシト。玄海此語ヲ聞テ喜テ飛ビ歸ル

初ノ如シ。初メ弟子等師ハ已ニ死セリト思テ悲泣スルニ。玄海漸ク甦ヘレリ。忝來彌真言ヲ念誦シ經王ヲ轉讀シテ。後三年ニ豫メ死期ヲ知テ遷化ス。彼ノ聖僧ハ定メテ地藏菩薩ナルベシ。此ノ人モ初メハ妻子ヲ帶セルガ故ニ淨土ノ邊地ヲ見タリ。經王ノ力。佛頂ノ德ニ依ルガ故ニ遂ニ淨土ニ生ゼリ。經ニ無間ノ極苦ヲ變シテ安樂國ト成スト説ル。如來誠諦ノ言信ゼズンバアルベカラズ。寤ニ僧ノ身トシテ妻子ヲ帶セルハ極無間ノ罪ナリ。然ルヲ真言不思議ノ力ヲ能ク極樂界ニ往生セシム。末法相應ノ妙法是ニ過タルハナシ。貴ムベシ仰グベシ。受持讀誦セズンバアルベカラズ

高野山教懷増延等大佛頂ヲ誦シテ往生ノ事
教懷法師ハ京兆ノ人ナリ。幼ニシテ出家シ。興福寺ニ住シ。又山

城國久世郡小田原ニ住ス。後ニ高野山ニ登リテ住スルコトニ十餘年。常ニ兩部ノ大法。及ビ阿彌陀ノ法ヲ行ジ。大佛頂陀羅尼ヲ誦ジ。又阿彌陀ノ真言ヲ誦ス。寛治七年五月廿七日。自ラ不動ノ尊像數百幅ヲ摸寫シテ開眼供養ジ已テ。衆僧ヲ勸メテ念佛セシメ頭北面西ニシテ寂ス。奇雲室ヲ覆ヒ天樂遙ニ聞フ。延實快暹俱ニ此ヲ聞リ。又南院ノ維範阿闍梨遷化ノ時慶念夢ラク。無量ノ聖衆來テ維範ヲ迎フ。聖衆ノ中ニ教懷法師雲ニ乘シテ來ルト。是又決定シテ淨土ニ生セルガ故ナリ。又増延法師ハ泉州ノ人ナリ。毎日大佛頂及ビ理趣經ヲ誦シ。尊勝陀羅尼二千遍。慈救ノ咒一万遍ヲ誦ス。臨終ニ至ルマデ終ニ退轉セズ。永万年十月廿二日ニ弟子ニ告テ曰ク。我寂後追福スルコトナカレ。極樂ノ中品中生疑ヒナシト同廿五日ニ

正念ニ遷化ストイヘリ。○又暹與上人ハ紀州ノ人ナリ。永万年十二月十六日大佛頂陀羅尼ヲ誦シテ安詳ニ逝ス。又圓長法師ト云人アリ日ニ理趣經。彌陀。尊勝ノ咒。大佛頂陀羅尼ヲ誦ズ。臨終ニ念佛シテ眼ルガ如クニ往生ストイヘリ。今世ノ人念佛ノ一行ノミ淨土ノ正因ナリト思ヘリ。而ルニ大佛頂等ノ陀羅尼ヲ誦シテ往生セル人少ナカラズ。何ゾ偏ニ心得ベキ。況ヤ佛説明ナルヲヤ

大隨求陀羅尼功能ノ事

大隨求陀羅尼ハ佛切利天宮ニ於テ説玉フ。功德廣多ナルコト大佛頂陀羅ニニ異ナルコトナシ。功能及ビ受持書寫ノ法具サニ二卷ノ經ニ出タリ。事多ケレバ今記セズ。○昔シ不空三藏再ビ天竺ニ往時南海ヲ離レテ訶陵國ノ界ニ至ルニ大黑風ニ遇フ。

城國久世郡小田原ニ住ス。後ニ高野山ニ登リテ住スルコトニ十餘年。常ニ兩部ノ大法。及ビ阿彌陀ノ法ヲ行ジ。大佛頂陀羅尼ヲ誦ジ。又阿彌陀ノ真言ヲ誦ス。寛治七年五月廿七日。自ラ不動ノ尊像數百幅ヲ摸寫シテ開眼供養ジ已テ。衆僧ヲ勸メテ念佛セシメ頭北面西ニシテ寂ス。奇雲室ヲ覆ヒ天樂遙ニ聞フ。延實快暹俱ニ此ヲ聞リ。又南院ノ維範阿闍梨遷化ノ時慶念夢ラク。無量ノ聖衆來テ維範ヲ迎フ。聖衆ノ中ニ教懷法師雲ニ乘シテ來ルト。是又決定シテ淨土ニ生セルガ故ナリ。又増延法師ハ泉州ノ人ナリ。毎日大佛頂及ビ理趣經ヲ誦シ。尊勝陀羅尼二千遍。慈救ノ咒一万遍ヲ誦ス。臨終ニ至ルマデ終ニ退轉セズ。永万年十月廿二日ニ弟子ニ告テ曰ク。我寂後追福スルコトナカレ。極樂ノ中品中生疑ヒナシト同廿五日ニ

正念ニ遷化ストイヘリ。○又暹與上人ハ紀州ノ人ナリ。永万年十二月十六日大佛頂陀羅尼ヲ誦シテ安詳ニ逝ス。又圓長法師ト云人アリ日ニ理趣經。彌陀。尊勝ノ咒。大佛頂陀羅尼ヲ誦ズ。臨終ニ念佛シテ眼ルガ如クニ往生ストイヘリ。今世ノ人念佛ノ一行ノミ淨土ノ正因ナリト思ヘリ。而ルニ大佛頂等ノ陀羅尼ヲ誦シテ往生セル人少ナカラズ。何ゾ偏ニ心得ベキ。況ヤ佛説明ナルヲヤ

大隨求陀羅尼功能ノ事

大隨求陀羅尼ハ佛切利天宮ニ於テ説玉フ。功德廣多ナルコト大佛頂陀羅ニニ異ナルコトナシ。功能及ビ受持書寫ノ法具サニ二卷ノ經ニ出タリ。事多ケレバ今記セズ。○昔シ不空三藏再ビ天竺ニ往時。南海ヲ離レテ訶陵國ノ界ニ至ルニ大黑風ニ遇フ。

船中ノ諸人各本國ノ法ニ依テ祈ルニ驗アルコトナシ。衆人慟哭シテ三藏ニ救護ヲ求ム。三藏ノ曰ク汝等憂ルコトナカレト。即チ右手ニ五股菩提心ノ杵ヲ執リ。左ノ手ニ般若佛母ノ經夾ヲ持シテ。大隨求ヲ誦ズルコト一遍シ玉フニ即時風止テ安穩ナリ。又大鯨水ヲ出デ、浪ヲ噴クコト山ノ如クシテ前ノ患ヨリモ甚シ。諸人又三藏ニ歸命スルニ。又同ジク隨求ヲ誦ジ玉ヘバ即チ諸難俱ニ息ンテ師子國ニ達シ玉ヘリ。金剛頂義訣ニハ金剛智三藏此法ヲ作シ玉フ事ヲ記ス。今ト大ニ同ジ。故ニ別ニ出サズ。今ノ説ハ僧傳ニヨレリ。上元ノ末ニ肅宗皇帝不豫ナリ。其ノ時モ不空三藏大隨求七遍ヲ誦ジ玉フニ。帝ノ病乃チ瘳ト。三藏大曆九年六月十五日ニ遷化シ玉フ。七月六日ニ荼毗スルニ。舍利數百粒ヲ得タリ。八十粒ハ禁中ヘ進リヌ。其ノ頂骨壞セス。中ニ

船中ノ諸人各本國ノ法ニ依テ祈ルニ驗アルコトナシ。衆人慟哭シテ三藏ニ救護ヲ求ム。三藏ノ曰ク汝等憂ルコトナカレト。即チ右手ニ五股菩提心ノ杵ヲ執リ。左ノ手ニ般若佛母ノ經夾ヲ持シテ。大隨求ヲ誦ズルコト一遍シ玉フニ即時風止テ安穩ナリ。又大鯨水ヲ出デ、浪ヲ噴クコト山ノ如クシテ前ノ患ヨリモ甚シ。諸人又三藏ニ歸命スルニ。又同ジク隨求ヲ誦ジ玉ヘバ即チ諸難俱ニ息ンテ師子國ニ達シ玉ヘリ。金剛頂義訣ニハ金剛智三藏此法ヲ作シ玉フ事ヲ記ス。今ト大ニ同ジ。故ニ別ニ出サズ。今ノ説ハ僧傳ニヨレリ。上元ノ末ニ肅宗皇帝不豫ナリ。其ノ時モ不空三藏大隨求七遍ヲ誦ジ玉フニ。帝ノ病乃チ瘳ト。三藏大曆九年六月十五日ニ遷化シ玉フ。七月六日ニ荼毗スルニ。舍利數百粒ヲ得タリ。八十粒ハ禁中ヘ進リヌ。其ノ頂骨壞セス。中ニ

④末03ウ

設利羅一願アリ。半ハ隠レ半ハ現ズ。勅アリテ本院ニ於テ別ニ塔ヲ建テ、供養セシムトイヘリ。
佛頂隨求ヲ誦シテ邪鬼辟ル事 附テ由靈人ニ託シテ回向ヲ望ム事
長州萩ノ邑ニ門田氏ノ武士アリ。先祖ハ方石餘ノ侯タリシガ。世替リ人去テ今ハ石八百ヲナン知行シケル。累代禪宗ニテ平生篤信ノ人ナリケリ。令媛四人アリ。姉ハ既ニ嫁ス。餘ハ處女ニシテ次ハ十六。其ノ次ハ十四。其ノ次ハ四歳。末子ハ男ニシテ一歳ナリ。元祿四年ノ十月ニ十六歳ナリケル娘邪鬼ノ狂疾ヲ受タリ。末子モ亦何トナク病ミテ命アヤウカリケリ。然ルニ門田氏ノ祖父ノ時ニ家人田中弥左衛門ト云者過失アリテ共ニ頭ヲ刎ラレタリ。此ノ田中カ靈モ亦彼ノ娘ニ託シテ種々ノ事ヲ言。邪鬼ノ言ト此ノ田中氏ガ言トハ音韻各別ニ聞ヘケリ。

設利羅一願アリ。半ハ隠レ半ハ現ズ。勅アリテ本院ニ於テ別ニ塔ヲ建テ、供養セシムトイヘリ。
佛頂隨求ヲ誦シテ邪鬼辟ル事 附テ由靈人ニ託シテ回向ヲ望ム事
長州萩ノ邑ニ門田氏ノ武士アリ。先祖ハ方石餘ノ侯タリシガ。世替リ人去テ今ハ石八百ヲナン知行シケル。累代禪宗ニテ平生篤信ノ人ナリケリ。令媛四人アリ。姉ハ既ニ嫁ス。餘ハ處女ニシテ次ハ十六。其ノ次ハ十四。其ノ次ハ四歳。末子ハ男ニシテ一歳ナリ。元祿四年ノ十月ニ十六歳ナリケル娘邪鬼ノ狂疾ヲ受タリ。末子モ亦何トナク病ミテ命アヤウカリケリ。然ルニ門田氏ノ祖父ノ時ニ家人田中弥左衛門ト云者過失アリテ共ニ頭ヲ刎ラレタリ。此ノ田中カ靈モ亦彼ノ娘ニ託シテ種々ノ事ヲ言。邪鬼ノ言ト此ノ田中氏ガ言トハ音韻各別ニ聞ヘケリ。

④末04オ

種々奇怪ノ事ヲ言。中ニモ一二百年モ往古ノ事ヲ具サニ語ル
コト見タル人ノ如シ。聞者且怪シ且恐レズト云コトナシ。門田氏は邪
鬼ノ所為ナルコトヲ知テ。山伏ヲ呼デ祈ラシムルニ狂疾イヨク重
ルトイヘトモ効シナシ。山伏十人バカリモ來リテ祈リケレトモ少シモ
効シナカリケリ。又圓清寺ト云真言師ヲ頼ミテ。二夜三日ノ間
修法セシムルニ少シモ効シナクシテ。却テ三人ノ娘皆一時ニ狂ジ
ケリ。門田氏仰天シテ是我家ノ滅亡ヨトテ悲シマレケリ。時ニ田
中弥左衛門ガ靈門田氏ニ白シテ曰ク。我ハ田中弥左衛門ニテ侍リ。
御息女ニ託シ侍ルモ少モ惱シ侍ントニハアラス。我本罪過アリテ
殺サレタリ。而モ多クノ追福ヲ蒙リ侍レバ。少シモ恨ミ申ス處侍
ラズ。今令媛ニ邪鬼取著侍ルマ、其ノヨハメヲ見テ託セリ。我託
スレバ邪鬼モ甚シク惱スコトヲ得ズ。又此ヲ縁トシテ佛法ノ結縁ヲ

種々奇怪ノ事ヲ言。中ニモ一二百年モ往古ノ事ヲ具サニ語ル
コト見タル人ノ如シ。聞者且怪シ且恐レズト云コトナシ。門田氏は邪
鬼ノ所為ナルコトヲ知テ。山伏ヲ呼デ祈ラシムルニ狂疾イヨク重
ルトイヘトモ効シナシ。山伏十人バカリモ來リテ祈リケレトモ少シモ
効シナカリケリ。又圓清寺ト云真言師ヲ頼ミテ。二夜三日ノ間
修法セシムルニ少シモ効シナクシテ。却テ三人ノ娘皆一時ニ狂ジ
ケリ。門田氏仰天シテ是我家ノ滅亡ヨトテ悲シマレケリ。時ニ田
中弥左衛門ガ靈門田氏ニ白シテ曰ク。我ハ田中弥左衛門ニテ侍リ。
御息女ニ託シ侍ルモ少モ惱シ侍ントニハアラス。我本罪過アリテ
殺サレタリ。而モ多クノ追福ヲ蒙リ侍レバ。少シモ恨ミ申ス處侍
ラズ。今令媛ニ邪鬼取著侍ルマ、其ノヨハメヲ見テ託セリ。我託
スレバ邪鬼モ甚シク惱スコトヲ得ズ。又此ヲ縁トシテ佛法ノ結縁ヲ

④末04ウ

蒙ムランガ為ナリ。此ノ邪鬼ハ山伏及ヒ萩ノ僧ノ祈禱ニテハ去
ベカラズ。三隅ノ發光寺ノ阿遮黎ヲ請ジ玉ハ去ルベシト。門田氏
イヨク奇異ノ思ヲ作シ即チ使价ヲ三隅ニ遣シ。轎子ヲ持
シメテ請ジケリ。時ニ十月廿三日ノ夜半ナリ。發光寺書ヲ見
テ明日是ヨリ詣ルベシト諾シテ使价及ビ轎子ヲ回サレタリ。同寅
ノ刻ニ門田氏ノ家ニ歸リテ報ズ。三隅ヨリ萩マデハ四里八町ノ
道ナレバ。性光法師ハ同廿四日ノ申ノ刻ニ至ルニ。夫妻共ニ悦ビテ
對面シ。病人ノアリサマヲ語り合ハ我家ノ滅亡トコソ存ズレトテ
悲シマレケリ。性光病人ノ前ニ至リテ見ルニ主人ノ語ニ違ハス即
チ病人色代シテ曰ク。我ハ田中弥左衛門ニテ侍リ。令媛ノ邪鬼ノ
病ハ闍黎ノ加持ニアラスンバ去ルベカラズ。闍黎勞ヲ憚カラズ祈
禱シ玉ヘ。且ツ我カ為ニ光明真言ノ護摩ヲ修シテ回向シ玉ヘ。生々

蒙ムランガ為ナリ。此ノ邪鬼ハ山伏及ヒ萩ノ僧ノ祈禱ニテハ去
ベカラズ。三隅ノ發光寺ノ阿遮黎ヲ請ジ玉ハ去ルベシト。門田氏
イヨク奇異ノ思ヲ作シ即チ使价ヲ三隅ニ遣シ。轎子ヲ持
シメテ請ジケリ。時ニ十月廿三日ノ夜半ナリ。發光寺書ヲ見
テ明日是ヨリ詣ルベシト諾シテ使价及ビ轎子ヲ回サレタリ。同寅
ノ刻ニ門田氏ノ家ニ歸リテ報ズ。三隅ヨリ萩マデハ四里八町ノ
道ナレバ。性光法師ハ同廿四日ノ申ノ刻ニ至ルニ。夫妻共ニ悦ビテ
對面シ。病人ノアリサマヲ語り合ハ我家ノ滅亡トコソ存ズレトテ
悲シマレケリ。性光病人ノ前ニ至リテ見ルニ主人ノ語ニ違ハス即
チ病人色代シテ曰ク。我ハ田中弥左衛門ニテ侍リ。令媛ノ邪鬼ノ
病ハ闍黎ノ加持ニアラスンバ去ルベカラズ。闍黎勞ヲ憚カラズ祈
禱シ玉ヘ。且ツ我カ為ニ光明真言ノ護摩ヲ修シテ回向シ玉ヘ。生々

④末05オ

世々有難ク御恩念レ侍ラジ。然ラバ來年ハ予ガ五十年忌ナ
レモ。其ノ追福ニモ及バジ。今夜ノ寅ノ刻ニ邪鬼モ我モ俱ニ公ル
ベシト。性光應諾シヌ。サテ家内ノ諸人ヲ集メテ諭シテ曰ク。我今
夜祈禱スベシ。邪鬼何事ヲ言何事ヲ作ストモ。對ヘ玉フナカレ。
驚キ玉フコトナカレ。聞ズヤ心生ズレバ種々ノ法生ジ。心滅スレバ種々
ノ法滅スト云コトヲ。諸法如幻ニシテ自性アルコトナシ。邪鬼便ヲ得モ
心動ズルガ故ナリ。何事ニモ騒ギ玉フコトナカレト。即時ニ供具ヲ
辦シテ襖障子ヲ隔テ。大佛頂。大隨求ヲ誦セラレケリ。サテ病
人大ニアレテ。三人ノ娘メ一時ニ立テ手ヲ振。殿様ノ御江戸下り
トテ大音ニテ訃リ。髮ハスククト立眼ハ血ノ如シ。怒レル音笑
フ音。家内隣家ニ響キワタリテ可畏ト云バカリナシ。近處ノ
人々常ニハ剛ナル人モ。此ノ病人ノ前ニ來リヌレバ。ツカミ立ル

世々有難ク御恩念レ侍ラジ。然ラバ來年ハ予ガ五十年忌ナ
レトモ。其ノ追福ニモ及バジ。今夜ノ寅ノ刻ニ邪鬼モ我モ俱ニ公ル
ベシト。性光應諾シヌ。サテ家内ノ諸人ヲ集メテ諭シテ曰ク。我今
夜祈禱スベシ。邪鬼何事ヲ言何事ヲ作ストモ。對ヘ玉フナカレ。
驚キ玉フコトナカレ。聞ズヤ心生ズレバ種々ノ法生ジ。心滅スレバ種々
ノ法滅スト云コトヲ。諸法如幻ニシテ自性アルコトナシ。邪鬼便ヲ得モ
心動ズルガ故ナリ。何事ニモ騒ギ玉フコトナカレト。即時ニ供具ヲ
辦シテ襖障子ヲ隔テ。大佛頂。大隨求ヲ誦セラレケリ。サテ病
人大ニアレテ。三人ノ娘メ一時ニ立テ手ヲ振。殿様ノ御江戸下り
トテ大音ニテ訃リ。髮ハスククト立眼ハ血ノ如シ。怒レル音笑
フ音。家内隣家ニ響キワタリテ可畏ト云バカリナシ。近處ノ
人々常ニハ剛ナル人モ。此ノ病人ノ前ニ來リヌレバ。ツカミ立ル

④末05ウ

如クニナリテ恐ル、コト限リナシ。或ハ手ヲ拍或ハ板ヲ打。謠淨
瑠璃。說經。小歌。處女ノ身殊ニ貴人ノ令媛ナドノ知ラザルコトヲ
夥タ、シク謠ヒテ騒ガシキコト云ツクシガタシ。性光ハサテコソト
思ヒテ諸法本ヨリ不生ナリ。此等ノ音聲何ヨリカ來ルヤト觀
シテ。一心ニ大佛頂大隨求ヲ誦セラレケリ。時ニ門田氏仰天シテ此ハ
邪鬼ニハアラジ。古狐ノ所為ナラント心動轉セリ。今宮ノ神主ニ
肥前ト云者アリ。能ク狐著ヲ治スト聞テ。即チ彼ヲ呼テ呪
セシム。肥前ハ知命ニ近キ齡ナリ。鬚髯甚ウルハシクシテ拂子
ヲ挂タルガ如シ。肥前來リ進ムニ病人大音ニテ罵テ曰ク。汝レ
何事ヲナスヤアラヲカシヤ。汝ガ狐ヲナブリタル手ニテ輒ク我
ヲ治セント思フハ實ニ笑殺スルニタレリ。汝ガ祈禱ニテ去モノ
汝ヨリモ百倍マサリタル圓清寺ノ祈リニテ何ゾノカザラン。

如クニナリテ恐ル、コト限リナシ。或ハ手ヲ拍或ハ板ヲ打。謠淨
瑠璃。說經。小歌。處女ノ身殊ニ貴人ノ令媛ナドノ知ラザルコトヲ
夥タ、シク謠ヒテ騒ガシキコト云ツクシガタシ。性光ハサテコソト
思ヒテ諸法本ヨリ不生ナリ。此等ノ音聲何ヨリカ來ルヤト觀
シテ。一心ニ大佛頂大隨求ヲ誦セラレケリ。時ニ門田氏仰天シテ此ハ
邪鬼ニハアラジ。古狐ノ所為ナラント心動轉セリ。今宮ノ神主ニ
肥前ト云者アリ。能ク狐著ヲ治スト聞テ。即チ彼ヲ呼テ呪
セシム。肥前ハ知命ニ近キ齡ナリ。鬚髯甚ウルハシクシテ拂子
ヲ挂タルガ如シ。肥前來リ進ムニ病人大音ニテ罵テ曰ク。汝レ
何事ヲナスヤアラヲカシヤ。汝ガ狐ヲナブリタル手ニテ輒ク我
ヲ治セント思フハ實ニ笑殺スルニタレリ。汝ガ祈禱ニテ去モノ
汝ヨリモ百倍マサリタル圓清寺ノ祈リニテ何ゾノカザラン。

④末06オ

然レドモ我ノカズ。而モ汝ガ分ニテハ何ゾ我ヲ去シメニヤ。汝レガ
自慢クサキ頬アラミトイフヤ。早く止ヨ。止ズンバ鬚ヲ引ムシラ
ントヨバ、リケリ。肥前狼狽曰ク。我自慢ノ心アルコトナント。病人
ノ曰ク止ヨト云ニ止ヌハ自慢ニアラズヤ。況ヤ我ハ發光寺ト約
束シテ今夜ノ寅ノ刻ニ去ルベシ。今發光寺現ニ祈禱シ玉ヘリ。而
シニ汝レ指出ルテ發光寺モ本意ニアラズ。早く立サレト口ヲソロ
ヘテ訕リケレバ。肥前モ閉口シテ赤辱カキテ退キケリ。サテ性光
ハ申ノ刻ヨリ寅ノ上刻マデ眠ラズシテ。大佛頂。大隨求。各三
十餘遍誦セラレケルガ。約束ノ如ク寅ノ刻ニ邪鬼去リテ。四
人ノ病者一時ニ平復スルコト常ノ如シ。一家集リテ驚歎ノ聲
洋々焉タリ。常ノ病人ハ愈テ後モ尚習氣アリテ久シク患フニ。
是ハ四人一同ニ本復シテ少モ影モナカリケリ。末代ナリトイヘドモ

真言ノ不思議力アリガタキコトナリ。彼娘性光阿闍梨ニ
對シテ真言ヲ受ケ。弥信ヲ發シテ改宗シテ真言宗トナレリ。性光
後ニ寺ニ歸リテ。光明真言ノ護摩ヲ修シテ田中弥左衛
門ガ靈ニ回向セラレタリ。病人平復ノ後。父娘ニ病中ノ様子ヲ
問ニ一モ知ラズト答ヘケリ。此ノ病人ノ事ヲ傳聞テ。今マデ佛
法ヲ信ゼザル闍提ノ腐儒等。信ヲ發セルモノアリ。諸人密教ニ
歸信スルモノ多シ。性光ハ予ガ莫逆ノ友ナリ。此事彼病人ノ前
ニアリテ現ニ見タル人ノ談ヲ。面乃聞テ書付侍ルナリ。大佛
頂大隨求ノヨク邪鬼ヲ退クルコト。經説及ヒ句義ト。今ノ現
證トニテ能シルベシ。殊ニ圓清寺モ同ジク密者ナレドモ。無戒ナル
故乎將爲密教ノ深奥ヲ解セザル乎。彼ハ驗シナカリケリ。性光
ハ持律ノ僧ニテ殊ニ密教ノ祕奧ヲ傳ヘ。明師ニ逢テ不生ノ觀

然レドモ我ノカズ。而モ汝ガ分ニテハ何ゾ我ヲ去シメニヤ。汝レガ
自慢クサキ頬アラミトイフナヤ。早く止ヨ。止ズンバ鬚ヲ引ムシラ
ントヨバ、リケリ。肥前狼狽曰ク。我自慢ノ心アルコトナント。病人
ノ曰ク止ヨト云ニ止ヌハ自慢ニアラズヤ。況ヤ我ハ發光寺ト約
束シテ今夜ノ寅ノ刻ニ去ルベシ。今發光寺現ニ祈禱シ玉ヘリ。而
ルニ汝レ指出ルコト發光寺モ本意ニアラズ。早く立サレト口ヲソロ
ヘテ訕リケレバ。肥前モ閉口シテ赤辱カキテ退キケリ。サテ性光
ハ申ノ刻ヨリ寅ノ上刻マデ眠ラズシテ。大佛頂。大隨求。各三
十餘遍誦セラレケルガ。約束ノ如ク寅ノ刻ニ邪鬼去リテ。四
人ノ病者一時ニ平復スルコト常ノ如シ。一家集リテ驚歎ノ聲
洋々焉タリ。常ノ病人ハ愈テ後モ尚習氣アリテ久シク患フニ。
是ハ四人一同ニ本復シテ少モ影モナカリケリ。末代ナリトイヘドモ

真言ノ不思議力アリガタキコトナリ。彼娘性光阿闍梨ニ
對シテ真言ヲ受ケ。弥信ヲ發シテ改宗シテ真言宗トナレリ。性光
後ニ寺ニ歸リテ。光明真言ノ護摩ヲ修シテ田中弥左衛
門ガ靈ニ回向セラレタリ。病人平復ノ後。父娘ニ病中ノ様子ヲ
問ニ一モ知ラズト答ヘケリ。此ノ病人ノ事ヲ傳聞テ。今マデ佛
法ヲ信ゼザル闍提ノ腐儒等。信ヲ發セルモノアリ。諸人密教ニ
歸信スルモノ多シ。性光ハ予ガ莫逆ノ友ナリ。此事彼病人ノ前
ニアリテ現ニ見タル人ノ談ヲ。面乃聞テ書付侍ルナリ。大佛
頂大隨求ノヨク邪鬼ヲ退クルコト。經説及ヒ句義ト。今ノ現
證トニテ能シルベシ。殊ニ圓清寺モ同ジク密者ナレドモ。無戒ナル
故乎將爲密教ノ深奥ヲ解セザル乎。彼ハ驗シナカリケリ。性光
ハ持律ノ僧ニシテ殊ニ密教ノ祕奧ヲ傳ヘ。明師ニ逢テ不生ノ觀

解ヲ習ヘル人ナリ。故ニ幽靈モ此ヲ知りテ祈禱及ビ回向ヲ請タルナルベシ。サレバ同ク受ケ修ストモ明師ヲ擇ンテ傳授シ。持律堅固ヲ修スベキナリ。此ノ事舊冬ノ事ナレバ。人或ハ疑ハン。然レドモ一モ虚誕ニハアラス。若シ強テ疑ヒ玉ハ。長州萩ノ城下門田五郎左衛門ト云武士ヲ尋テ。自ら問テ決シ玉フベシ。穴賢

千手陀羅尼功能ノ事

千手陀羅尼ハ。佛南海ノ補陀落山觀世音ノ宮殿ニ住シテ説法シ玉フ。時ニ觀自在菩薩。佛ニ請フ此陀羅尼ヲ説玉ヘリ。陀羅尼受持ノ法。及ビ無量ノ功德。經ノ中ニ具ニ説ケリ開テ見ルベシ。今其ノ少分ヲ擧バ。此ノ陀羅尼ヲ誦スル者ハ。過去無量億劫ニ作レル十惡五逆破齋破戒僧物ヲ盜セル罪。淨行ノ僧尼ヲ犯セル

罪等。速疾ニ滅シ餘アルコトナシ。未來ニハ必ズ極樂淨土ニ往生スベシ。一日ニ五遍ヅ、怠ラズ誦スル者ハ一切ノ願望満足セズト云コトナシ。又陀羅尼ヲ誦ズル人ハ水火盜賊。弓箭刀杖。杵槌枷鎖。疫癘邪鬼等ノ一切ノ難アルコトナシ。又觀自在菩薩。諸天龍王。諸鬼神二十八部衆等ヲ遣シテ。常ニ此ノ人ヲ擁護セシメ玉フ。若シ此人ノ身ニ吹アテタル風。又他人ニ吹觸ル時ハ其ノ人モ皆ナ一切ノ罪障ヲ滅シテ。更ニ三惡道ニ墮セズ淨土ニ生ズベシ。若シ此ノ陀羅尼ノ名ヲ聞者モ無量劫ノ生死ノ重罪ヲ除ク。或ハ女人難産ナラン時ニモ。此ノ陀羅尼ヲ誦ゼバ即チ安産ヲ得ベシ。唯シ陀羅尼ニ於テ疑ヒヲ起ス者ハ。罪ヲ滅セズトイヘドモ。終ニ無上菩提ノ因トナル種々無量ノ功德佛ノ辯説ヲ以テモ説盡シ玉フコトアタハズトイヘリ。本朝ニ昔ヨリ千手陀羅尼ヲ誦ノ利

④末

解ヲ習ヘル人ナリ。故ニ幽靈モ此ヲ知りテ祈禱及ビ回向ヲ請タルナルベシ。サレバ同ク受ケ修ストモ明師ヲ擇ンテ傳授シ。持律堅固ニシテ修スベキナリ。此ノ事舊冬ノ事ナレバ。人或ハ疑ハン。然レドモ一モ虚誕ニハアラス。若シ強テ疑ヒ玉ハ。長州萩ノ城下門田五郎左衛門ト云武士ヲ尋テ。自ら問テ決シ玉フベシ。穴賢

千手陀羅尼功能ノ事

千手陀羅尼ハ。佛南海ノ補陀落山觀世音ノ宮殿ニ住シテ説法シ玉フ。時ニ觀自在菩薩。佛ニ請フ此陀羅尼ヲ説玉ヘリ。陀羅尼受持ノ法。及ビ無量ノ功德。經ノ中ニ具ニ説ケリ開テ見ルベシ。今其ノ少分ヲ擧バ。此ノ陀羅尼ヲ誦スル者ハ。過去無量億劫ニ作レル。十惡五逆破齋破戒僧物ヲ盜セル罪。淨行ノ僧尼ヲ犯セル

④末07ウ

罪等。速疾ニ滅シテ餘アルコトナシ。未來ニハ必ズ極樂淨土ニ往生スベシ。一日ニ五遍ヅ、怠ラズ誦スル者ハ一切ノ願望満足セズト云コトナシ。又陀羅尼ヲ誦ズル人ハ水火盜賊。弓箭刀杖。杵槌枷鎖。疫癘邪鬼等ノ一切ノ難アルコトナシ。又觀自在菩薩。諸天龍王。諸鬼神二十八部衆等ヲ遣シテ。常ニ此ノ人ヲ擁護セシメ玉フ。若シ此人ノ身ニ吹アテタル風。又他人ニ吹觸ル時ハ其ノ人モ皆ナ一切ノ罪障ヲ滅シテ。更ニ三惡道ニ墮セズ淨土ニ生ズベシ。若シ此ノ陀羅尼ノ名ヲ聞者モ無量劫ノ生死ノ重罪ヲ除ク。或ハ女人難産ナラン時ニモ。此ノ陀羅尼ヲ誦ゼバ即チ安産ヲ得ベシ。唯シ陀羅尼ニ於テ疑ヒヲ起ス者ハ。罪ヲ滅セズトイヘドモ。終ニ無上菩提ノ因トナル種々無量ノ功德佛ノ辯説ヲ以テモ説盡シ玉フコトアタハズトイヘリ。本朝ニ昔ヨリ千手陀羅尼ヲ誦シテ利

④末08オ

益ヲ得ニ古記ノ如シ。中華ノ利益ハ觀音持驗記ノ中ニ明
スガ如シ。深く信ヲ生シテ歸依シ念誦スベシ。○又此比大坂阿波
座堀ニ一人ノ信士アリ。幼ヨリ密宗ニ歸依シテ常ニ真言ヲ念
誦シテ怠ラズ。今齒弱冠ニ及ベリ。元祿四年ノ秋母重病ヲ受テ
百療効シテ。宗ニ佛神ノ力ニアラズ。爭テカ本復ヲ得ニト
見ヘケリ。爰ニ信士孝志厚ク。一心ニ觀自在尊ニ祈リ。二日ノ
間ニ千手陀羅尼一千遍ヲ誦ジケレバ。不思議ヤ母暫ク假寐ス
ル夢ニ一ノ山中ニ至ル。忽チ二人アリ。手ニ弓矢ヲ持テ來リ與フ。
即チ弓ヲ以テ身中ノ病ヲ射ルト見テ覺メタリ。起居モナラ
ズ食物モ咽ヲ通ラザルニ介ヨリ心爽カニナリテ。一兩日ヲ經テ病
愈ヌ。又此ノ信士ハ予ガ知己ニ舊冬ノ事ナレバ。其ノ姓名ヲ茲ニ
記セズ。此人ハ祖母ノ死セシ時未ダ童子ナリシガ。父母親族ニハ

益ヲ得シコト古記ノ如シ。中華ノ利益ハ觀音持驗記ノ中ニ明
スガ如シ。深く信ヲ生シテ歸依シ念誦スベシ。○又此比大坂阿波
座堀ニ一人ノ信士アリ。幼ヨリ密宗ニ歸依シテ常ニ真言ヲ念
誦シテ怠ラズ。今齒弱冠ニ及ベリ。元祿四年ノ秋母重病ヲ受テ
百療効シテ。宗ニ佛神ノ力ニアラズ。爭テカ本復ヲ得ニト
見ヘケリ。爰ニ信士孝志厚クシテ。一心ニ觀自在尊ニ祈リ。二日ノ
間ニ千手陀羅尼一千遍ヲ誦ジケレバ。不思議ヤ母暫ク假寐ス
ル夢ニ一ノ山中ニ至ル。忽チ二人アリ。手ニ弓矢ヲ持テ來リ與フ。
即チ弓ヲ以テ身中ノ病ヲ射ルト見テ覺メタリ。起居モナラ
ズ食物モ咽ヲ通ラザルニ介ヨリ心爽カニナリテ。一兩日ヲ經テ病
愈ヌ。又此ノ信士ハ予ガ知己ニシテ舊冬ノ事ナレバ。其ノ姓名ヲ茲ニ
記セズ。此人ハ祖母ノ死セシ時未ダ童子ナリシガ。父母親族ニハ

④未08ウ

隱シテ。一七日ノ間ニ寶篋印陀羅尼一千遍誦シテ追福シケリ。
志ノ程一殊勝ナリ。今母ノ病ハ總テ醫師ノ力ニ及バヌ重病ナ
リシニ。孝心ノ感ズル所口大士ノ加被ヲ蒙リテ忽チニ愈ヌル
ヲ。末世トイヘドモ陀羅尼ノ力ヲ貴クコソ侍レ

尊勝陀羅尼功能ノ事

尊勝陀羅尼ハ善住天子ガ天壽盡テ七遍畜生道ニ墮シテ。後
ニ八地獄ニ落ベキ罪ヲ除テ。壽命ヲ延ベ玉フ因縁ニ依テ説玉ヘ
リ。種々不思議ノ利益。經ノ中ニ説ガ如シ。昔シ佛陀波利三
藏ト云アリ。北天竺罽賓國ノ人ナリ。身ヲ忘レテ名山靈跡
ヲ巡リ禮ス。文殊師利菩薩ノ震旦ノ清涼山ニ住シ玉フコトヲ
聞テ。遠ク流沙ヲ渡テ來ル。大唐ノ高宗皇帝ノ儀鳳元年
ニ五臺山ニ登テ。虔誠ニ禮拜シ淚ヲ流シテ聖容ヲ見上ラン

隱シテ。一七日ノ間ニ寶篋印陀羅尼一千遍誦シテ追福シケリ。
志ノ程一殊勝ナリ。今母ノ病ハ總テ醫師ノ力ニ及バヌ重病ナ
リシニ。孝心ノ感ズル所口大士ノ加被ヲ蒙リテ忽チニ愈ヌル
コト。末世トイヘドモ陀羅尼ノ力ヲ貴クコソ侍レ

尊勝陀羅尼功能ノ事

尊勝陀羅尼ハ善住天子ガ天壽盡テ七遍畜生道ニ墮シテ。後
ニ八地獄ニ落ベキ罪ヲ除テ。壽命ヲ延ベ玉フ因縁ニ依テ説玉ヘ
リ。種々不思議ノ利益。經ノ中ニ説ガ如シ。昔シ佛陀波利三
藏ト云アリ。北天竺罽賓國ノ人ナリ。身ヲ忘レテ名山靈跡
ヲ巡リ禮ス。文殊師利菩薩ノ震旦ノ清涼山ニ住シ玉フコトヲ
聞テ。遠ク流沙ヲ渡テ來ル。大唐ノ高宗皇帝ノ儀鳳元年
ニ五臺山ニ登テ。虔誠ニ禮拜シ淚ヲ流シテ聖容ヲ見上ラン

④未09オ

コトヲ祈ルニ。候焉トシテ一リノ老翁ヲ見ル。梵語ヲナシテ三藏ニ
語テ曰ク。師何ノ求ムル所ゾヤト。三藏答テ曰ク。聞ナラク文
殊大士現ニ此ノ山ニ住スト。故ニ遠ク天竺ヨリ來テ瞻禮セン
コトヲ求ム。老翁ノ曰ク。師佛頂尊勝陀羅尼經ヲ將來ルヤ否ヤ。
此ノ土ノ衆生多ク諸罪ヲ造ル。出家ノ輩ラ亦多ク破戒ナリ。
地獄ニ墮スル者ハ牛毛ノ如ク。淨土ニ生ズル者ハ鷹角ニ似タ
リ。佛頂神咒ハ滅罪ノ秘方ナリ。若シ經ヲ齎來ラズンバ何ノ
益カアラン。縱使文殊ヲ見ルトモ何ゾ能ク識ンヤ。師西域ニ還
テ彼ノ經ヲ取り來テ此ノ土ニ流傳セヨ。即是徧ネク衆聖ニ奉
事シ。廣ク羣生ヲ利益シ。幽冥ヲ拯ヒ。諸佛ノ恩ヲ報ズルナリ。
師經ヲ取り來ラバ弟子當ニ文殊ノ居處ヲ示スベシト。三藏
聞已テ歡喜シテ山ニ向テ更ニ禮ス。頭ヲ擧ルノ頃ニ老翁ノ所

在ヲ失ス。三藏驚愕ノミスク信ヲ生シ。遂ニ本國ニ歸リ遂ニ
經ヲ取テ。永淳二年ニ大唐ニ來ル。往來十餘年ヲ經タリ。即
チ敕シテ日照三藏ト共ニ翻譯セシム。所譯ノ本ハ禁中ニ留メ
テ出シ玉ハザレバ。又梵本ヲ持テ西明寺ノ順貞法師ト共ニ
再ヒ翻譯ス。佛頂尊勝陀羅尼經ト号シテ世ニ流布シ已テ。梵
本ヲ持テ五臺山ニ登テ終ニ歸ラズ。定メテ文殊ノ淨土。金
色世界ニ到リヌラン。大曆中ニ法照法師佛陀波利ニ逢トイ
ヘリ。上ニ記スルガ如シ。此傳來ノ因縁ナリ。法崇疏開元錄。日本
ハ我が弘法大師請來シ玉リ。昔シ藤原ノ常行ト云人アリ。
西ノ京ニ住ス。或夜潛カニ東京ノ妾ノ舍ニ往クニ。馬ニ乘リテ一
僕ノミナリ大内ノ美福門ノ前ヲ過ルニ。路ノ東ニ炬火ヲ秉テ
行者アリ。其衆二三百人ナリ。常行ハ忍ブ身ナレバ隱避ルニ地

コトヲ祈ルニ。候焉トシテ一リノ老翁ヲ見ル。梵語ヲナシテ三藏ニ
語テ曰ク。師何ノ求ムル所ゾヤト。三藏答テ曰ク。聞ナラク文
殊大士現ニ此ノ山ニ住スト。故ニ遠ク天竺ヨリ來テ瞻禮セン
コトヲ求ム。老翁ノ曰ク。師佛頂尊勝陀羅尼經ヲ將來ルヤ否ヤ。
此ノ土ノ衆生多ク諸罪ヲ造ル。出家ノ輩ラ亦多ク破戒ナリ。
地獄ニ墮スル者ハ牛毛ノ如ク。淨土ニ生ズル者ハ鷹角ニ似タ
リ。佛頂神咒ハ滅罪ノ秘方ナリ。若シ經ヲ齎來ラズンバ何ノ
益カアラン。縱使文殊ヲ見ルトモ何ゾ能ク識ンヤ。師西域ニ還
テ彼ノ經ヲ取り來テ此ノ土ニ流傳セヨ。即是徧ネク衆聖ニ奉
事シ。廣ク羣生ヲ利益シ。幽冥ヲ拯ヒ。諸佛ノ恩ヲ報ズルナリ。
師經ヲ取り來ラバ弟子當ニ文殊ノ居處ヲ示スベシト。三藏
聞已テ歡喜シテ山ニ向テ更ニ禮ス。頭ヲ擧ルノ頃ニ老翁ノ所

在ヲ失ス。三藏驚愕ノミスク信ヲ生シ。遂ニ本國ニ歸リ遂ニ
經ヲ取テ。永淳二年ニ大唐ニ來ル。往來十餘年ヲ經タリ。即
チ敕シテ日照三藏ト共ニ翻譯セシム。所譯ノ本ハ禁中ニ留メ
テ出シ玉ハザレバ。又梵本ヲ持テ西明寺ノ順貞法師ト共ニ
再ヒ翻譯ス。佛頂尊勝陀羅尼經ト号シテ世ニ流布シ已テ。梵
本ヲ持テ五臺山ニ登テ終ニ歸ラズ。定メテ文殊ノ淨土。金
色世界ニ到リヌラン。大曆中ニ法照法師佛陀波利ニ逢トイ
ヘリ。上ニ記スルガ如シ。此傳來ノ因縁ナリ。法崇疏開元錄。日本
ハ我が弘法大師請來シ玉リ。昔シ藤原ノ常行ト云人アリ。
西ノ京ニ住ス。或夜潛カニ東京ノ妾ノ舍ニ往クニ。馬ニ乘リテ一
僕ノミナリ大内ノ美福門ノ前ヲ過ルニ。路ノ東ニ炬火ヲ秉テ
行者アリ。其衆二三百人ナリ。常行ハ忍ブ身ナレバ隱避ルニ地

ナシ。神泉苑ノ北門ニ行テ。門ノ内ノ柱ノ下ニ屏ル。彼ノ炬火ヲ乗テ行者此ノ前ヲ過ル。常行闕看ルニ皆鬼神ナリ。或ハ一眼一手。三目二頭。奇形異類甚ダ怖ルベシ。僕主喘氣ス。其中ノ鬼ノ曰ク。人ノ氣近クアリト。鬼ノ曰ク。盍ゾ執リ來ラザルト。時ニ一鬼門ニ迫ク。主從共ニ鬼ニ執ラレンコトヲ思テカナシムニ。鬼走り反テ曰ク得ベカラズト。魁者叱テ又他鬼ヲ差テ遣ルニ。又得ズトイフ。魁者怒テ自ラ赴ク。常行等這回ハ宍ニ免レザランコトヲ怖ル、ニ。魁者モ亦物ニ怖レタル躰ニテ反テ曰ク。若何トモスベカラズト。諸鬼其ノ故ヲ問。魁者ノ曰ク。佛頂尊勝ノ咒アリ。故ニ得ベカラズト言已テ炬火皆ナ滅テ。鬼神共ニ皆走り散ズ。常行モ女舎ニ往ズシテ歸ルニ。面ノ色青カリケレバ。家人怪シミテ夜中ニ何レノ處ニカ行玉フヤト

問フ。常行アリノマ、ニ皆語り。我ハ尊勝ノ咒ヲ持セズ。不思議ナリトアリケレバ。乳母ノ曰。我昔シ一リノ沙門ヲ請シテ尊勝陀羅尼ヲ書シメテ君ガ衣領ニ縫含メタリ。是ナルベシト。乃チ綻バシテ陀羅尼ヲ取り出シ。諸人禮拜ストイヘリ。釋書第一尊勝陀羅尼ノ功能ハ沙石集等ニ粗見タレバ。今ハ略シテ煩ハシク記セズ

賀州ノ僧生身ニ魔道ニ墮セシ事

賀州何レノ郡トカヤニ一寺アリ。禪宗ニテ名高キ寺ナリ。中葉ノ住持ノ僧。才名アリテ人多ク聚リ。徒弟頗ル多カリキ。或時江湖ヲ營ミテ問答ノ次ニ秀句ヲ言ケルガ心中ニ甚シク慢ジ。代代ノ祖師ノ影像挂並テアリシヲ見回シテ思ハク。歴々タル祖師等モ這般ノ秀句ヲバ爭テカ言得ベキト。慢心頗リニ

ナシ。神泉苑ノ北門ニ行テ。門ノ内ノ柱ノ下ニ屏ル。彼ノ炬火ヲ乗テ行者此ノ前ヲ過ル。常行闕看ルニ皆鬼神ナリ。或ハ一眼一手。三目二頭。奇形異類甚ダ怖ルベシ。僕主喘氣ス。其中ノ鬼ノ曰ク。人ノ氣近クアリト。鬼ノ曰ク。盍ゾ執リ來ラザルト。時ニ一鬼門ニ迫ク。主從共ニ鬼ニ執ラレンコトヲ思テカナシムニ。鬼走り反テ曰ク得ベカラズト。魁者叱テ又他鬼ヲ差テ遣ルニ。又得ズトイフ。魁者怒テ自ラ赴ク。常行等這回ハ宍ニ免レザランコトヲ怖ル、ニ。魁者モ亦物ニ怖レタル躰ニテ反テ曰ク。若何トモスベカラズト。諸鬼其ノ故ヲ問。魁者ノ曰ク。佛頂尊勝ノ咒アリ。故ニ得ベカラズト言已テ炬火皆ナ滅テ。鬼神共ニ皆走り散ズ。常行モ女舎ニ往ズシテ歸ルニ。面ノ色青カリケレバ。家人怪シミテ夜中ニ何レノ處ニカ行玉フヤト

問フ。常行アリノマ、ニ皆語り。我ハ尊勝ノ咒ヲ持セズ。不思議ナリトアリケレバ。乳母ノ曰。我昔シ一リノ沙門ヲ請シテ尊勝陀羅尼ヲ書シメテ君ガ衣領ニ縫含メタリ。是ナルベシト。乃チ綻バシテ陀羅尼ヲ取り出シ。諸人禮拜ストイヘリ。釋書第一尊勝陀羅尼ノ功能ハ沙石集等ニ粗見タレバ。今ハ略シテ煩ハシク記セズ

賀州ノ僧生身ニ魔道ニ墮セシ事

賀州何レノ郡トカヤニ一寺アリ。禪宗ニテ名高キ寺ナリ。中葉ノ住持ノ僧。才名アリテ人多ク聚リ。徒弟頗ル多カリキ。或時江湖ヲ營ミテ問答ノ次ニ秀句ヲ言ケルガ心中ニ甚シク慢ジ。代代ノ祖師ノ影像挂並テアリシヲ見回シテ思ハク。歴々タル祖師等モ這般ノ秀句ヲバ爭テカ言得ベキト。慢心頗リニ

起リケレバ。椅子ニ坐シナガラ自然ト虚空ニ上リテ。終ニ行方知ズナリニケリ。弟子共悲泣シテ至ラヌ隈モナク尋ネ求メケレドモ所在シレズナリヌ。一人ノ弟子四五年ノ後。和州ノ金峯山ニ上リ深山ヘ尋ネ入りシニ歎然トシテ逢リ。弟子慟哭シテ如何ト問ケレバ。師モ悲哀シテ涙夕雨ノ如クニ降りケリ。サテ師弟子ニ告テ曰ク。我高慢ノ故ニ生身ニ魔界ニ墮セリ。無量ノ苦シミアリ然レドモ尊勝陀羅尼ノ聲ヲ聞時ハ苦患即チ止ム。我カ追福ノ為ナラバ日日ニ尊勝陀羅尼ヲ誦セヨト。弟子敬テ諾ス。然ル處ニ天ノ童子ノ如キ者挑子ニ甘露トヲホシキ物ヲ盛テ持來レリ。彼ノ僧此ヲ見テ恐怖ノ色アリ。天童彼ノ甘露ノ如キ物ヲ以テ。彼ノ僧ノ口ニ灌クニ即チ變シテ洋銅ト成テ五體身分皆ナ炭トナリテ失セヌ。彼ノ天童ハ惡鬼ト成テ忽チ

ニ消テ無リキトナン。是正シキ事ニテ。彼ノ禪寺今ニ尊勝陀羅尼ヲ誦ズトイヘリ。良トニ以ミレハ慢ハ五鈍使ノ隨一ナレバ大煩惱ナリ。然ルヲ苟且ニ秀句ヲ言タリトテ。上代ノ祖師ヲ慢セバ。生身ニ魔民トナレルコト宜ナルカナ。是禪者ノ常ノ癖ナリ。又講經ノ僧。論議ヲ好ム人並ビニ慢心多シ。慎マズンバアルベカラズ。昔シ東齊ノ明琛ハ論議詰難ヲ好ミテ。蛇勢論ヲ作り。現身ニ蟒蛇トナレリ。新羅ノ順環ハ法相宗ノ碩徳ナレドモ。華嚴經ノ初發心時便成正覺ノ文ヲ誦シテ。生身ニ地獄ニ墮セリ。夫レ論議ハ十二部經ノ隨一ニシテ。外道ヲ破スルニハ便ナレドモ。佛家ニ於テ自他宗互ニ得失ヲ論シテ誹謗スルハ却テ過ヲ生ズベシ。三乘五乘十二部經皆ナ如來ノ所説ニシテ。衆生ヲ度センガ爲ナリ。又密教ヨリ談スル時ハ。外道ノ經書マデモ皆ナ大日

起リケレバ。椅子ニ坐シナガラ自然ト虚空ニ上リテ。終ニ行方知ズナリニケリ。弟子共悲泣シテ至ラヌ隈モナク尋ネ求メケレドモ所在シレズナリヌ。一人ノ弟子四五年ノ後。和州ノ金峯山ニ上リ深山ヘ尋ネ入りシニ歎然トシテ逢リ。弟子慟哭シテ如何ト問ケレバ。師モ悲哀シテ涙夕雨ノ如クニ降りケリ。サテ師弟子ニ告テ曰ク。我高慢ノ故ニ生身ニ魔界ニ墮セリ。無量ノ苦シミアリ然レドモ尊勝陀羅尼ノ聲ヲ聞時ハ苦患即チ止ム。我カ追福ノ為ナラバ日日ニ尊勝陀羅尼ヲ誦セヨト。弟子敬テ諾ス。然ル處ニ天ノ童子ノ如キ者挑子ニ甘露トヲホシキ物ヲ盛テ持來レリ。彼ノ僧此ヲ見テ恐怖ノ色アリ。天童彼ノ甘露ノ如キ物ヲ以テ。彼ノ僧ノ口ニ灌クニ即チ變シテ洋銅ト成テ五體身分皆ナ炭トナリテ失セヌ。彼ノ天童ハ惡鬼ト成テ忽チ

ニ消テ無リキトナン。是正シキ事ニテ。彼ノ禪寺今ニ尊勝陀羅尼ヲ誦ズトイヘリ。良トニ以ミレハ慢ハ五鈍使ノ隨一ナレバ大煩惱ナリ。然ルヲ苟且ニ秀句ヲ言タリトテ。上代ノ祖師ヲ慢セバ。生身ニ魔民トナレルコト宜ナルカナ。是禪者ノ常ノ癖ナリ。又講經ノ僧。論議ヲ好ム人並ビニ慢心多シ。慎マズンバアルベカラズ。昔シ東齊ノ明琛ハ論議詰難ヲ好ミテ。蛇勢論ヲ作り。現身ニ蟒蛇トナレリ。新羅ノ順環ハ法相宗ノ碩徳ナレドモ。華嚴經ノ初發心時便成正覺ノ文ヲ誦シテ。生身ニ地獄ニ墮セリ。夫レ論議ハ十二部經ノ隨一ニシテ。外道ヲ破スルニハ便ナレドモ。佛家ニ於テ自他宗互ニ得失ヲ論シテ誹謗スルハ却テ過ヲ生ズベシ。三乘五乘十二部經皆ナ如來ノ所説ニシテ。衆生ヲ度センガ爲ナリ。又密教ヨリ談スル時ハ。外道ノ經書マデモ皆ナ大日

如來無量乘ノ一ナレバ棄ズ。況ヤ三乘五乘ヲヤ。而ルヲ今
教者ハ禪ヲ破シ。禪客ハ教ヲ毀リ。顯家ハ密乘ヲ貶シ。密
人ハ顯教ヲ輕シム。有戒無戒ハ讐敵ノ思ヲ作シ。聖道淨土
ハ水火ノ別ヲ談ズ。甚迷ヘルニアラズヤ。唯衆生ノ根機万差ナ
レバ如來ノ教モ千種ナリ。我カ應ズルニ隨テ受學シテ他人ヲ
誦ジ憎嫉ヲ生ゼザレ。況ヤ上代ノ祖師ヲ輕慢センヲヤ。明
慧傳ニ記セリ。中古已來ノ碩師多ク魔道ニ墮シテ重苦ヲ受
ト。有智ノ高僧既ニカクノ如シ。(吾儕羝羊ノ凡夫ナルヲヤ。懼ズ
ンバアルベカラズ。省ミズンバアルベカラズ。然モ尊勝陀羅尼ノ功能。
彼重苦ヲ滅スルヲ聞時ハ。祕密醍醐ノ妙用。又希有不思議
ノ勝利ニアラズヤ。彼ノ常行ハ我身ニ帶シテ。現ニ鬼神ノ難ヲ免
カレ。此ノ禪僧ハ弟子ニ追福ヲ頼ミテ冥ニ夜又ノ責ヲ脱ス。

文殊ノ苦ロニ勸メ波利ノ遠ク取りシハ。偏ニ是ガ為ナリ○寶
篋印陀羅尼ノ功德ハ。千手尊勝ノ二咒ト異ナルコトナシ。昇足
ノ如ク。○字ノ三點ノ如シ。功德同等ニシテ勝劣アルコトナシ。世ニ
三陀羅尼ト稱ズルモ是ガ為ナリ。具ニハ經ニ説カ如シ故ニ茲ニ
記セズ

密教ヲ知ラズシテ誇ズル人ノ事

或人維摩經ヲ講ズル次ニ。不動明王ヲ以テ鬼道ニ攝ストイヘ
リ。密宗台徒座ニアツテ聞テ憤懣ヲ懷クトイヘドモ此誇難
ヲ通ズル人ナシ。予後ニ聞テ笑テ曰ク。此ノ老宿禪ヲ善クスト
イヘドモ未ダ密ヲ知ラズ。故ニ此ノ言アルノミ。大日經及ヒ底哩
三昧耶經。立印儀軌等ノ密部ニ明ニ説ドモ未ダ見ザルガ
故ナリ。又我試ニ問ヘシ。佛ヲバ何物トカスル。三十二相ノ光儀是

如來無量乘ノ一ナレバ棄ズ。況ヤ三乘五乘ヲヤ。而ルヲ今
教者ハ禪ヲ破シ。禪客ハ教ヲ毀リ。顯家ハ密乘ヲ貶シ。密
人ハ顯教ヲ輕シム。有戒無戒ハ讐敵ノ思ヲ作シ。聖道淨土
ハ水火ノ別ヲ談ズ。甚迷ヘルニアラズヤ。唯衆生ノ根機万差ナ
レバ如來ノ教モ千種ナリ。我カ應ズルニ隨テ受學シテ他人ヲ
誦ジ憎嫉ヲ生ゼザレ。況ヤ上代ノ祖師ヲ輕慢センヲヤ。明
慧傳ニ記セリ。中古已來ノ碩師多ク魔道ニ墮シテ重苦ヲ受
ト。有智ノ高僧既ニカクノ如シ。(吾儕羝羊ノ凡夫ナルヲヤ。懼ズ
ンバアルベカラズ。省ミズンバアルベカラズ。然モ尊勝陀羅尼ノ功能。
彼重苦ヲ滅スルヲ聞時ハ。祕密醍醐ノ妙用。又希有不思議
ノ勝利ニアラズヤ。彼ノ常行ハ我身ニ帶シテ。現ニ鬼神ノ難ヲ免
カレ。此ノ禪僧ハ弟子ニ追福ヲ頼ミテ冥ニ夜又ノ責ヲ脱ス。

文殊ノ苦ロニ勸メ波利ノ遠ク取りシハ。偏ニ是ガ為ナリ○寶
篋印陀羅尼ノ功德ハ。千手尊勝ノ二咒ト異ナルコトナシ。昇足
ノ如ク。○字ノ三點ノ如シ。功德同等ニシテ勝劣アルコトナシ。世ニ
三陀羅尼ト稱ズルモ是ガ為ナリ。具ニハ經ニ説カ如シ故ニ茲ニ
記セズ

密教ヲ知ラズシテ誇ズル人ノ事

或人維摩經ヲ講ズル次ニ。不動明王ヲ以テ鬼道ニ攝ストイヘ
リ。密宗台徒座ニアツテ聞テ憤懣ヲ懷クトイヘドモ此誇難
ヲ通ズル人ナシ。予後ニ聞テ笑テ曰ク。此ノ老宿禪ヲ善クスト
イヘドモ未ダ密ヲ知ラズ。故ニ此ノ言アルノミ。大日經及ヒ底哩
三昧耶經。立印儀軌等ノ密部ニ明ニ説ドモ未ダ見ザルガ
故ナリ。又我試ニ問ヘシ。佛ヲバ何物トカスル。三十二相ノ光儀是

ナリトヤセシ。ハタ六十四種ノ梵音是ナルカ。金剛般若ノ中ニ
イハズヤ。若シ以テ色ヲ見レバ我ヲ。以テ音聲ヲ求メハ我ヲ。是人ハ行テ邪道ヲ不能見
如來。ト彼ノ老宿ハ形ヲ以テ求メ。音聲ヲ以テ求ルカ。然ラバ即チ
十二面觀音。千手大悲ノ像等ハ何ノ道ニ攝スルヤ。此老宿
未ダ密教ヲ學バザルノミニアラズ。又禪ヲモ精セザルノミト。他日
講座ニ於テ自ラ通シテ曰ク。是我レ自ラ言ニハアラス。名義集ノ
中ニ姑蘊ノ法雲曾テ此ヲイヘリト。予縑テ見ルニ鬼神ノ部ニ
眞頭盧伽ヲ立不動ト翻ズ。此蓋シ相似タルヲ以テ自ノ非
ヲ飾ルノミ。密家ニハ大聖不動明王ト号ス。立不動トハイハズ。
又自ラ梵語各別ナリ。摩訶阿利耶。阿遮羅曩多。毘你耶
羅惹。此ニハ大聖不動明王ト翻ズ。立印儀軌ニ曰ク。無邊如
來奉。是不動尊大威怒王。復有六十万恒河沙俱胝。

如來皆蒙教示得成無上正等菩提。此ノ説豈鬼趣ノ
攝ナランヤ。況ヤ密教ニ三部アリ。金剛部ト者皆忿怒ノ形ナリ。
首楞嚴ニ八万四千那由他恒河沙俱胝ノ金剛藏王菩薩ト
説ルハ。如來ノ差別智印ヲ皆ナ金剛部ノ種族ナリ。又光中ニ
於テ十恒河沙ノ金剛密迹ヲ現スト云モ是ナリ。不動明王ハ即
チ金剛薩埵ニシテ無量ノ持金剛衆ノ上首ナリ。又ハ金剛手トモ
秘密主トモ執金剛トモ名ク。一切如來ノ大悲攝取ノ徳ヲ蓮
花部ト号シ。大智抑止ノ徳ヲ金剛部ト号ス。又ハ折伏攝受ノ
二門ト名ク。各等於實際ノ尊ヲ佛徳ニ等シテ異アルコトナシ大師
ノ曰ク此尊ハ三世十方一切諸佛ノ之祖師。四十二地一切菩薩ノ
所尊ト。大佛頂經ニ我等久シク菩提ヲ成ズレドモ涅槃ヲ取ラ
ズト云ハ是ナリ。尚無盡ノ義アリ秘密ニ入テ問。如上ノ明文日

ナリトヤセシ。ハタ六十四種ノ梵音是ナルカ。金剛般若ノ中ニ
イハズヤ。若シ以テ色ヲ見レバ我ヲ。以テ音聲ヲ求メハ我ヲ。是人ハ行テ邪道ヲ不能見
如來。ト彼ノ老宿ハ形ヲ以テ求メ。音聲ヲ以テ求ルカ。然ラバ即チ
十二面觀音。千手大悲ノ像等ハ何ノ道ニ攝スルヤ。此老宿
未ダ密教ヲ學バザルノミニアラズ。又禪ヲモ精セザルノミト。他日
講座ニ於テ自ラ通シテ曰ク。是我レ自ラ言ニハアラス。名義集ノ
中ニ姑蘊ノ法雲曾テ此ヲイヘリト。予縑テ見ルニ鬼神ノ部ニ
眞頭盧伽ヲ立不動ト翻ズ。此蓋シ相似タルヲ以テ自ノ非
ヲ飾ルノミ。密家ニハ大聖不動明王ト号ス。立不動トハイハズ。
又自ラ梵語各別ナリ。摩訶阿利耶。阿遮羅曩多。毘你耶
羅惹。此ニハ大聖不動明王ト翻ズ。立印儀軌ニ曰ク。無邊如
來奉。是不動尊大威怒王。復有六十万恒河沙俱胝。

如來。皆蒙教示。得成無上正等菩提。此ノ説豈鬼趣ノ
攝ナランヤ。況ヤ密教ニ三部アリ。金剛部ト者皆忿怒ノ形ナリ。
首楞嚴ニ八万四千那由他恒河沙俱胝ノ金剛藏王菩薩ト
説ルハ。如來ノ差別智印ニシテ。皆ナ金剛部ノ種族ナリ。又光中ニ
於テ十恒河沙ノ金剛密迹ヲ現スト云モ是ナリ。不動明王ハ即
チ金剛薩埵ニシテ無量ノ持金剛衆ノ上首ナリ。又ハ金剛手トモ
秘密主トモ執金剛トモ名ク。一切如來ノ大悲攝取ノ徳ヲ蓮
花部ト号シ。大智抑止ノ徳ヲ金剛部ト号ス。又ハ折伏攝受ノ
二門ト名ク。各等於實際ノ尊ニシテ佛徳ニ等シテ異アルコトナシ大師
ノ曰ク此尊ハ三世十方一切諸佛ノ之祖師。四十二地一切菩薩ノ
所尊ナリト。大佛頂經ニ我等久シク菩提ヲ成ズレドモ涅槃ヲ取ラ
ズト云ハ是ナリ。尚無盡ノ義アリ秘密ニ入テ問。如上ノ明文日

月ノ天ニ麗ガ如クナレドモ見ズ知ラス。密教ヲ學セズノ鬼道ト云。是誦佛誦法ノ罪ニアラズヤ。本朝近代ノ頑才ハ知ラザルモ猶理リナリ。唐宋元明ノ諸徳スラ密教ヲ知ラズ。密教ハ唐ノ末ニ衰ヘ。宋ノ初メニ絶。唯我朝ノミ密教相應ノ地ニシテ今ニ絶ズ。昔シ宋ノ贊寧僧傳ヲ撰ズルニ。密教ヲ多分聲聞藏教トイヘリ。愚昧誦法ノ過幾何ゾヤ。又南宋ノ清信士。鎧庵ノ吳克己ト云モノ。釋門正統ヲ杜撰シテ。密教ヲ方等般若ノ二時トシテ法華ヨリモ劣ナリ開會ノ後ハ用ナシトイヘリ。者俗漢顯密二教ノ大歸ヲ辨ヘズ。唯台教ノ五時八教ニノミ黏纏シテ密藏ヲ學バズ。阿鼻ノ罪ヲ招ク。殊ニ華嚴法華ハ瑜伽ノ一會ナルコトヲ知ラス。若シ天台大師ノ時ニ密教傳リナバ。五時ノ中ニハ法華ノ時ニ攝入スベシ。然レドモ密教ハ玄宗代宗ノ時。金智廣智ノ日盛リニ行

ハレケレバ智者此ヲ知ルヲナレ。六波羅蜜經ノ説ニ依ル時ハ。法華華嚴モ尚大乘般若波羅蜜多藏ニ陀羅尼藏ニハアラズ。故ニ真言乘ノミ唯リ最上乘醍醐ノ教ナリ。本朝ノ傳教。慈覺智證。安然等ハ法花ノ理秘密ハ真言ニ同ジ。法花ニハ妙覺ヲ説トイヘドモ行法ヲ説ズ。真言ハ事理俱密ナリトテ。盛リニ密教ノ義ヲ談ゼリ。唯シ近代ノ台教ヲ學ブ人ハ。傳教等ノ意ヲ用ヒズ。宋明ノ末師ノ義ヲ盛リニ用ヒテ。密教ノ義ニ暗シト聞ク。偏ニ太息スルニ足レリ。虎關禪師ハ禪林ノ威鳳ナレドモ。鎧庵ガ僻見ヲ彈ゼリ。不動尊ヲ鬼道ト云底ノ人ハ言ニタラサルノミ。○又或碩師予ニ問ハク。密教ハ外道ノ法ニアラズヤ。藏經ノ中ニ少々經軌ノ有ルハ。龍對ノ昔シ外道ノ梵志タリシ時ニ種々ノ術ヲ學ルヲ世傳ヘ玉フナラント。予答ヘズシテ笑フノミ。何ントナレバ。四答ノ中ニ。我與蘊一耶異耶ト問フ

月ノ天ニ麗ガ如クナレドモ見ズ知ラス。密教ヲ學セズシテ鬼道ト云。是誦佛誦法ノ罪ニアラズヤ。本朝近代ノ頑才ハ知ラザルモ猶理リナリ。唐宋元明ノ諸徳スラ密教ヲ知ラズ。密教ハ唐ノ末ニ衰ヘ。宋ノ初メニ絶。唯我朝ノミ密教相應ノ地ニシテ今ニ絶ズ。昔シ宋ノ贊寧僧傳ヲ撰ズルニ。密教ヲ多分聲聞藏教トイヘリ。愚昧誦法ノ過幾何ゾヤ。又南宋ノ清信士。鎧庵ノ吳克己ト云モノ。釋門正統ヲ杜撰シテ。密教ヲ方等般若ノ二時トシテ法華ヨリモ劣ナリ開會ノ後ハ用ナシトイヘリ。者俗漢顯密二教ノ大歸ヲ辨ヘズ。唯台教ノ五時八教ニノミ黏纏シテ密藏ヲ學バズ。阿鼻ノ罪ヲ招ク。殊ニ華嚴法華ハ瑜伽ノ一會ナルコトヲ知ラス。若シ天台大師ノ時ニ密教傳リナバ。五時ノ中ニハ法華ノ時ニ攝入スベシ。然レドモ密教ハ玄宗代宗ノ時。金智。廣智ノ日盛リニ行

ハレケレバ智者此ヲ知ルコトナシ。六波羅蜜經ノ説ニ依ル時ハ。法華華嚴モ尚大乘般若波羅蜜多藏ニシテ陀羅尼藏ニハアラズ。故ニ真言乘ノミ唯リ最上乘醍醐ノ教ナリ。本朝ノ傳教。慈覺。智證。安然等ハ法花ノ理秘密ハ真言ニ同ジ。法花ニハ妙覺ヲ説トイヘドモ行法ヲ説ズ。真言ハ事理俱密ナリトテ。盛リニ密教ノ義ヲ談ゼリ。唯シ近代ノ台教ヲ學ブ人ハ。傳教等ノ意ヲ用ヒズ。宋明ノ末師ノ義ヲ盛リニ用ヒテ。密教ノ義ニ暗シト聞ク。偏ニ太息スルニ足レリ。虎關禪師ハ禪林ノ威鳳ナレドモ。鎧庵ガ僻見ヲ彈ゼリ。不動尊ヲ鬼道ト云底ノ人ハ言ニタラサルノミ。○又或碩師予ニ問ハク。密教ハ外道ノ法ニアラズヤ。藏經ノ中ニ少々經軌ノ有ルハ。龍對ノ昔シ外道ノ梵志タリシ時ニ種々ノ術ヲ學ルヲ世傳ヘ玉フナラント。予答ヘズシテ笑フノミ。何ントナレバ。四答ノ中ニ。我與蘊一耶異耶ト問フ

時ハ捨置シテ答ヘズトイヘリ。サレバ最上ノ醍醐ヲ以テ鴆毒ニ同ズル問ヲ答ヘズ。彼名藍ニ身ヲ庇シ僧衆ニ名ヲ偷シテ佛法ノ大歸ヲ知ラス。此等ノ問ヲ起スコト豈哀シカラズヤ。今世ニ老莊ノ見ヨリモ劣レル釋氏多シ。博學宏智ナリトモ何ノ益カアラシ

日本八密教相應ノ國ニシテ相承絶ス謬ナキ事 附イ慶圓上人ノ事

夫レ密教ハ師資傳授シテ謬リアルコトナシ。龍猛菩薩南天ノ鐵塔ヲ開テ。金薩ニ灌頂ヲ受テヨリ已來。八祖相承シテ今ニ至ルマデ三十八代三十九代嫡々相承ノ血脉絶ルコトナシ。震旦國ニハ久シク断絶セリ。我朝ハ國ヲ大日本國ト号シ。神ヲ大ヒルメノ貴ト名ケ。聖ヲ遍照金剛ト稱シ。依正人法相稱。密教相應ノ國ナレバ。今ニ如來祕密ノ印璽絶ルコトナシ。昔シ聖武天皇東大寺ヲ營構シ玉フ時ニ思念シ玉ハク。我が國ハ歷代神ニ奉ス。今佛殿ヲ營

時ハ。捨置シテ答ヘズトイヘリ。サレバ最上ノ醍醐ヲ以テ鴆毒ニ同ズル問ヲ答ヘズ。彼名藍ニ身ヲ庇シ僧衆ニ名ヲ偷シテ佛法ノ大歸ヲ知ラス。此等ノ問ヲ起スコト豈哀シカラズヤ。今世ニ老莊ノ見ヨリモ劣レル釋氏多シ。博學宏智ナリトモ何ノ益カアラシ

日本八密教相應ノ國ニシテ相承絶ス謬ナキ事 附イ慶圓上人ノ事

夫レ密教ハ師資傳授シテ謬リアルコトナシ。龍猛菩薩南天ノ鐵塔ヲ開テ。金薩ニ灌頂ヲ受テヨリ已來。八祖相承シテ今ニ至ルマデ三十八代三十九代嫡々相承ノ血脉絶ルコトナシ。震旦國ニハ久シク断絶セリ。我朝ハ國ヲ大日本國ト号シ。神ヲ大ヒルメノ貴ト名ケ。聖ヲ遍照金剛ト稱シ。依正人法相稱。密教相應ノ國ナレバ。今ニ如來祕密ノ印璽絶ルコトナシ。昔シ聖武天皇東大寺ヲ營構シ玉フ時ニ思念シ玉ハク。我が國ハ歷代神ニ奉ス。今佛殿ヲ營

④末15ウ

ハ神意ニ逆フアラザランヤトテ。天平十三年ニ行基菩薩ヲ勅使トシ佛舍利一粒ヲ授ケテ。伊勢皇大神宮ニ獻ゼシム。行基菩薩内宮ノ南門大杉ノ下ニ廬ヲ結テ居リ。七日ヲ期シテ持念シテ勅ノ旨ヲ告グ。第七ノ夜神自ラ殿ヲ開テ大聲ニ唱テ曰ク。實相真如之日輪。照却生死之長夜。本有常住之月輪。燦爛破煩惱之迷雲。我今逢難遭大願。如二渡リニ得ルカ船ヲ。又受ク難得寶珠。如二暗ニ得ルカ炬ヲ。師其持シテ舍利ヲ。藏ニ埋飯高郷以テ。賴邦家ニ文行基菩薩即チ神敕ニ任セテ。舍利ヲ彼ノ所ニ藏メ。都ニ歸テ奏スルニ。天皇大ニ悦ヒ玉フ。又謂ハク朕行基ヲ廟使トス。恐クハ朝儀ニ協ハジト。十一月三日重ネテ右大臣橘氏ヲ敕使トシテ。伊勢ヘ詣セシムルニ。同ク十五日ニ行基菩薩ノ如クニ同シク奏ス。其夜天皇ノ夢ニ太神宮告テ曰ク日輪ハ是毘盧遮那也。帝

ハ神意ニ逆フアラザランヤトテ。天平十三年ニ行基菩薩ヲ勅使トシテ。佛舍利一粒ヲ授ケテ。伊勢皇大神宮ニ獻ゼシム。行基菩薩内宮ノ南門大杉ノ下ニ廬ヲ結テ居リ。七日ヲ期シテ持念シテ勅ノ旨ヲ告グ。第七ノ夜神自ラ殿ヲ開テ大聲ニ唱テ曰ク。實相真如之日輪。照却生死之長夜。本有常住之月輪。燦爛破煩惱之迷雲。我今逢難遭大願。如二渡リニ得ルカ船ヲ。又受ク難得寶珠。如二暗ニ得ルカ炬ヲ。師其持シテ舍利ヲ。藏ニ埋飯高郷以テ。賴邦家ニ文行基菩薩即チ神敕ニ任セテ。舍利ヲ彼ノ所ニ藏メ。都ニ歸テ奏スルニ。天皇大ニ悦ヒ玉フ。又謂ハク朕行基ヲ廟使トス。恐クハ朝儀ニ協ハジト。十一月三日重ネテ右大臣橘氏ヲ敕使トシテ。伊勢ヘ詣セシムルニ。同ク十五日ニ行基菩薩ノ如クニ同シク奏ス。其夜天皇ノ夢ニ太神宮告テ曰ク日輪ハ是毘盧遮那也。帝

④末16オ

此ノ意ヲ得テ營興セヨト。言訖テ日輪ノ相ヲ現ス。光明赫如タリ。天皇夢覺テ感悦シ。行基及ビ右大臣ノ奏ノ安ナラザルコトヲ知シメシテ。終ニ大佛殿及ビ金銅十六丈ノ盧舍那佛ヲ建立シ玉ヘリ。毘盧遮那ヲ光明遍照ト翻ズ。即チ日ノ別名ナリ。太神宮ノ告ニ。實相真如ノ日輪。本有常住ノ月輪ト云ハ。兩部ノ教ナリ。又難得ノ寶珠ヲ受ト云ハ。密教ノ中ニ舍利ヲ寶珠トスルコトアリ。彼此符節ヲ合セタルガ如シ。吾弘法大師。八祖相承ノ寶珠ヲ以テ室生山ニ埋ミ玉ヘリ。是偏ニ扶桑鎮護ノ為ナリ。又吾朝ハ獨リ密教ノ護持ニ依テ安穩ナリ。○昔シ日藏上人金峯山ノ金剛藏王菩薩ヲ拜シテ。因ミニ天滿天神ノ居處ニ至ルニ。大池ノ中ニ島アリ。廣サ百餘里。中ニ方壇アリ。壇中ニ蓮花臺アリ。其ノ上ニ寶塔アリ。莊嚴巨麗人間ノ有ニアラズ。塔

④末16ウ

中ニ法花經ヲ安ジ。東西ノ壁ニ兩部ノ曼荼羅ヲ挂タリ。大政天。日藏上人ニ語ラク。天帝我ヲ字シテ日本大政威徳天ト呼ブ。我國土ノ一切ノ疾疫災難ノ事ヲ主ドル。我君臣ヲ惱シ人民ヲ傷ハント欲ス。又思フ我が生前悲泣ノ淚ヲ以テ。化シテ大雨トナシテ本國ヲ浸シテ海水ト為シテ。八十四年ヲ經テ國土ヲ成立シ。我が住城トセント。然レドモ此ノ國ハ普賢龍猛ノ密教ヲ流傳スルノ地ナリ。又應化ノ諸聖悲願力ヲ以テ。名ヲ明神ニ借テ諸處ニ住シテ。衆生ヲ覆護ス。彼ノ諸ノ神常ニ我ヲ慰諭ス。我モ亦佛敎ニ歸依ス。故ニ巨害ヲ作ザルノミト。是日本ハ普賢龍猛密敎ヲ流傳スル國ナレバ。大キナル害ヲナシ玉ハズト。サレバ此ノ國ノ安穩ナルハ皆密敎ノ護持力ナリ。高雄ヲバ神護國祚真言寺ト号シ。東寺ヲ教主護國寺ト名ク。弘法大師ヨリ今ニ至ルマデ。

④末17オ

此ノ意ヲ得テ營興セヨト。言訖テ日輪ノ相ヲ現ズ。光明赫如タリ。天皇夢覺テ感悦シ。行基及ビ右大臣ノ奏ノ安ナラザルコトヲ知シメシテ。終ニ大佛殿及ビ金銅十六丈ノ盧舍那佛ヲ建立シ玉ヘリ。毘盧遮那ヲ光明遍照ト翻ズ。即チ日ノ別名ナリ。太神宮ノ告ニ。實相真如ノ日輪。本有常住ノ月輪ト云ハ。兩部ノ教ナリ。又難得ノ寶珠ヲ受ト云ハ。密教ノ中ニ舍利ヲ寶珠トスルコトアリ。彼此符節ヲ合セタルガ如シ。吾弘法大師。八祖相承ノ寶珠ヲ以テ室生山ニ埋ミ玉ヘリ。是偏ニ扶桑鎮護ノ為ナリ。又吾朝ハ獨リ密教ノ護持ニ依テ安穩ナリ。○昔シ日藏上人金峯山ノ金剛藏王菩薩ヲ拜シテ。因ミニ天滿天神ノ居處ニ至ルニ。大池ノ中ニ島アリ。廣サ百餘里。中ニ方壇アリ。壇中ニ蓮花臺アリ。其ノ上ニ寶塔アリ。莊嚴巨麗人間ノ有ニアラズ。塔

中ニ法花經ヲ安ジ。東西ノ壁ニ兩部ノ曼荼羅ヲ挂タリ。大政天。日藏上人ニ語ラク。天帝我ヲ字シテ日本大政威徳天ト呼ブ。我國土ノ一切ノ疾疫災難ノ事ヲ主ドル。我君臣ヲ惱シ人民ヲ傷ハント欲ス。又思フ我が生前悲泣ノ淚ヲ以テ。化シテ大雨トナシテ本國ヲ浸シテ海水ト為シテ。八十四年ヲ經テ國土ヲ成立シ。我が住城トセント。然レドモ此ノ國ハ普賢龍猛ノ密教ヲ流傳スルノ地ナリ。又應化ノ諸聖悲願力ヲ以テ。名ヲ明神ニ借テ諸處ニ住シテ。衆生ヲ覆護ス。彼ノ諸ノ神常ニ我ヲ慰諭ス。我モ亦佛敎ニ歸依ス。故ニ巨害ヲ作ザルノミト。是日本ハ普賢龍猛密敎ヲ流傳スル國ナレバ。大キナル害ヲナシ玉ハズト。サレバ此ノ國ノ安穩ナルハ皆密敎ノ護持力ナリ。高雄ヲバ神護國祚真言寺ト号シ。東寺ヲ教主護國寺ト名ク。弘法大師ヨリ今ニ至ルマデ。

年始ノ御修法怠ラス。國家ヲ安鎮セリ。又頭北面西ニシテ寂スルハ沙門ノ常法ナルニ。不空三藏ハ唐朝ヲ護持シテ東首北面ニシテ。帝闕ヲ瞻望シテ寂シ玉ヘリ。諸伽藍ニ北面ナク北面アルコトナシ。獨リ東寺ハ教主護國ノ寺ナレバ北門アリテ。曩祖ノ御影モ北ニ向ヒ玉ヘリ。是國家ヲ擁護シ玉フ故ナリ。サレバ國ニ變アル時ハ必ズ東寺ノ佛供ノ飯破裂ストイヘリ。又上古ヨリ朝敵ヲ退治スルニハ皆ナ密供ヲ修シテ其ノ驗シアリ。具ニ記シガダシ。台密東密ノ異アリトイヘトモ皆神通乘ナリ。故ニ日本ハ密教相應ノ地ニシテ又皆密教ノ護持力ニ依レリ。今ニ至ルマデ灌頂等ノ相承血脉絶ユルコトナク。世ニ盛ナルハ依正人法。相稱フ故ナリ。和州室生龍門寺ノ慶圓上人ハ鎮西ノ人ナリ。親ラ大般若華嚴。大集。大品。法華。涅槃等ノ經及ビ真言ノ諸儀軌并ニ

④末17ウ

天台ノ三大部ヲ書ス。日日ノ念誦讀經護摩修法等怠ラス。甚多ク早シ。五六人相分テ作セドモ及バズ。多武峯ニ方等法師ト云者アリ。狂疾ヲ受テ數月差ズ。慶圓上人ヲ迎ヘテ加持セシム。上人來テ房ニ入ルニ。方等法師曰ク怒ラカシテ瞰ミ。火箸ヲ燒テ指著ントス。上人輒語ヲ以テ慰誘シテ菩薩戒ヲ誦スルニ。狂人微笑シテ曰ク。今マ師ノ誦戒ヲ聞テ我が心已ニ降ルト。上人ノ曰ク公ハ誰ゾヤ。狂人ノ曰ク我ハ覺鑿ナリ。此ノ方等法師我ヲ誣テ曰ク。即身成佛ノ印言ハ鑿始メテ作レリト。殊ニ知ラズ。三國相承シテ。一切如來ノ肝心。兩部秘奧ノ印明ナルコトヲ。我只此ノ事ヲ言ント欲シテ屢方等法師ニ託スルノミ。鬼魅ノ類ニアラズト。余時ニ慶圓上人ノ曰ク。幸ニ今名徳ニ逢奉テ未聞ヲ聞コトヲ得タリト。良久シク法義ヲ談シテ狂人病即チ愈タリ。

④末18オ

年始ノ御修法怠ラス。國家ヲ安鎮セリ。又頭北面西ニシテ寂スルハ沙門ノ常法ナルニ。不空三藏ハ唐朝ヲ護持シテ東首北面ニシテ。帝闕ヲ瞻望シテ寂シ玉ヘリ。諸伽藍ニ北面ナク北面アルコトナシ。獨リ東寺ハ教主護國ノ寺ナレバ北門アリテ。曩祖ノ御影モ北ニ向ヒ玉ヘリ。是國家ヲ擁護シ玉フ故ナリ。サレバ國ニ變アル時ハ必ズ東寺ノ佛供ノ飯破裂ストイヘリ。又上古ヨリ朝敵ヲ退治スルニハ皆ナ密供ヲ修シテ其ノ驗シアリ。具ニ記シガダシ。台密東密ノ異アリトイヘトモ皆神通乘ナリ。故ニ日本ハ密教相應ノ地ニシテ又皆密教ノ護持力ニ依レリ。今ニ至ルマデ灌頂等ノ相承血脉絶ユルコトナク。世ニ盛ナルハ依正人法。相稱フ故ナリ。和州室生龍門寺ノ慶圓上人ハ鎮西ノ人ナリ。親ラ大般若華嚴。大集。大品。法華。涅槃等ノ經及ビ真言ノ諸儀軌。并ニ

天台ノ三大部ヲ書ス。日日ノ念誦讀經護摩修法等怠ラス。甚多ク早シ。五六人相分テ作セドモ及バズ。多武峯ニ方等法師ト云者アリ。狂疾ヲ受テ數月差ズ。慶圓上人ヲ迎ヘテ加持セシム。上人來テ房ニ入ルニ。方等法師曰ク怒ラカシテ瞰ミ。火箸ヲ燒テ指著ントス。上人輒語ヲ以テ慰誘シテ菩薩戒ヲ誦スルニ。狂人微笑シテ曰ク。今マ師ノ誦戒ヲ聞テ我が心已ニ降ルト。上人ノ曰ク公ハ誰ゾヤ。狂人ノ曰ク我ハ覺鑿ナリ。此ノ方等法師我ヲ誣テ曰ク。即身成佛ノ印言ハ鑿始メテ作レリト。殊ニ知ラズ。三國相承シテ。一切如來ノ肝心。兩部秘奧ノ印明ナルコトヲ。我只此ノ事ヲ言ント欲シテ屢方等法師ニ託スルノミ。鬼魅ノ類ニアラズト。余時ニ慶圓上人ノ曰ク。幸ニ今名徳ニ逢奉テ未聞ヲ聞コトヲ得タリト。良久シク法義ヲ談シテ狂人病即チ愈タリ。

又室生山ニ屏居スル一千日。還テ河邊ニ至ルニ洪水ナリ。河ノ一方ヲ見ルニ高貴キ女人衣服莊嚴甚ウルハシクシテ來ル。然レドモ面ヲ露ハサス。上人ニ言テ曰ク。願クハ即身成佛ノ印明ヲ授ケ玉ヘト。上人ノ曰ク大姊ハ誰人ゾヤ。印明ヲ授ルニハ必ズ名字ヲ稱ズ我聞ント欲スト。女ノ曰ク我ハ善女龍王ナリト。上人ノ曰ク實ニ然ラバ河ヲ渡テ來リ玉ヘト。即チ彼ノ女暴流ノ水上ヲ歩テ來ル。上人印明ヲ傳授スルニ女歡喜シテ曰。我過去ノ七佛ニ傳受スルニ今上人ノ授クルト。一モ違錯アルコトナシ。有ガタシトテ淚ヲ流シ玉ヒケリ。上人ノ曰ク願クハ女ノ顔ヲ見ント欲スト。女ノ曰ク我形甚ダ可畏ケナリ。人間ハ見テアタハズ。然レドモ今深法ヲ受ク。阿遮黎ノ尊旨忤ヒガタシ豈ニ已ムベケンヤト。即チ空中ニ騰ルニ忽チニ雷電霹靂シテ黑雲

又室生山ニ屏居スルコト一千日。還テ河邊ニ至ルニ洪水ナリ。河ノ一方ヲ見ルニ高貴キ女人衣服莊嚴甚ウルハシクシテ來ル。然レドモ面ヲ露ハサス。上人ニ言テ曰ク。願クハ即身成佛ノ印明ヲ授ケ玉ヘト。上人ノ曰ク大姊ハ誰人ゾヤ。印明ヲ授ルニハ必ズ名字ヲ稱ズ我聞ント欲スト。女ノ曰ク我ハ善女龍王ナリト。上人ノ曰ク實ニ然ラバ河ヲ渡テ來リ玉ヘト。即チ彼ノ女暴流ノ水上ヲ歩テ來ル。上人印明ヲ傳授スルニ女歡喜シテ曰。我過去ノ七佛ニ傳受スルニ今上人ノ授クルト。一モ違錯アルコトナシ。有ガタシトテ淚ヲ流シ玉ヒケリ。上人ノ曰ク願クハ女ノ顔ヲ見ント欲スト。女ノ曰ク我形甚ダ可畏ケナリ。人間ハ見ルコトアタハズ。然レドモ今深法ヲ受ク。阿遮黎ノ尊旨忤ヒガタシ豈ニ已ムベケンヤト。即チ空中ニ騰ルニ忽チニ雷電霹靂シテ黑雲

④末18ウ

雲ノ中ヨリ右ノ手ノ小指ヲ出スニ。其ノ爪長サ一文アリ。五色ノ光リヲ放ツテ倏忽トシテ隱レヌ。上人且ツ恐レ且ツ喜ンデ淚漣如タリ。彌淨信ヲ增長シテ密印ノ妄ナラズ。相承絶ザルコトヲ喜ビ。倍々精修苦行シ玉ヘリ。又舍利ノ法ヲ修スルコト一千日ナリ。結願ノ日壇ノ上及ビ花瓶皆ナ舍利ヲ出スコト千餘粒ナリ。諸弟子皆ナ分チ持シテ供養ジケリ。又和州ニ堯信ト云者アリ狂疾ヲ受ク凡ソ加持スル人アレバ。大ニ罵テ拳ヲ握リテ毆ントス。其ノ父上人ヲ請ズ。上人來ルニ堯信即チ立テ恭敬禮拜シテ曰ク。比來愚カナル僧賤巫覡ドモ。聲ヲ厲シテ呼號スルガ故ニ我レ大ニ慢罵ス。今日高德ノ阿闍黎ニ値遇又幸ナリ。願クハ左右ヲ辟ケヨ我が夙ノ志ヲ白サント。上人即チ看病人等ヲ去ラシム。余時ニ堯信ガ曰ク。我ハ先世ニ僧ナリキ。灌頂

雲ノ中ヨリ右ノ手ノ小指ヲ出スニ。其ノ爪長サ一文アリ。五色ノ光リヲ放ツテ倏忽トシテ隱レヌ。上人且ツ恐レ且ツ喜ンデ淚漣如タリ。彌淨信ヲ增長シテ密印ノ妄ナラズ。相承絶ザルコトヲ喜ビ。倍々精修苦行シ玉ヘリ。又舍利ノ法ヲ修スルコト一千日ナリ。結願ノ日壇ノ上及ビ花瓶皆ナ舍利ヲ出スコト千餘粒ナリ。諸弟子皆ナ分チ持シテ供養ジケリ。又和州ニ堯信ト云者アリ狂疾ヲ受ク凡ソ加持スル人アレバ。大ニ罵テ拳ヲ握リテ毆ントス。其ノ父上人ヲ請ズ。上人來ルニ堯信即チ立テ恭敬禮拜シテ曰ク。比來愚カナル僧賤巫覡ドモ。聲ヲ厲シテ呼號スルガ故ニ我レ大ニ慢罵ス。今日高德ノ阿闍黎ニ値遇又幸ナリ。願クハ左右ヲ辟ケヨ我が夙ノ志ヲ白サント。上人即チ看病人等ヲ去ラシム。余時ニ堯信ガ曰ク。我ハ先世ニ僧ナリキ。灌頂

④末19オ

フ受ント欲ソ遂ズ死ス。餘執猶竭ズ鬼趣ニ生ストイドモ。法
力ノ感スル所口威神力アリテ苦報アルコトナシ。願ハクハ慈悲ヲ
垂テ灌頂ヲ授ケ玉ヘト。上人ノ曰ク公ハ何人ゾヤ。曾テ名字ヲバ
如何トカ申シキト。堯信恥ル容チアリ。上人ノ曰ク已ニ授受ヲ
乞フ。豈名ヲ恥ニヤト。堯信良久シテ曰ク我ハ是レ中院ノ僧都
某乙ナリト。上人即チ灌頂ヲ授クルニ歡喜合掌シテ曰ク。宿望已
ニ足レリ。吾今去ラントス。深恩何ヲ以テ報センヤト。上人ノ曰ク
我レ世間ノ事一モ望ミアルコトナシ。唯シ一ノ願アリ。古ヨリ碩師
宿徳タリトイヘトモ。臨終ニ魔ノ為ニ燒惱サル。汝チ威神アリト云。請
我が臨終ヲ擁護シテ魔障ナカラシメヨト。堯信ガ曰ク。我が徒カラ神
力ノ者三百有餘アリ。人ノ死ヲ伺テ燒害ヲナス。我誠メバ敢
テ為ジト言已テ病即チ愈ヌ。慶圓上人貞應二年正月二十七日ニ

印ヲ結ビ明ヲ誦シテ曰ク。我口中甚ダ甘シ。甘露ヲ含ガ如シト言
訖テ遷化シ玉ヘリ。年八十四。預ジメ三日前ニ死期ヲ知ル少シモ魔
燒アルコトナシ。茶毗ノ後其地光リアリ大サ蓋ノ如シトイヘリ。釋書
是ヲ以テ見ルニ真言ノ相承ハ七佛ヨリ今ニ至ルニテ訛謬アル
コトナシ。嗚呼悲ヒカナ末世ノ真言者。忝ナク諸佛祕密ノ印璽
ヲ傳ヘナガラ。精修練行シテ悉地ヲ期スルコトアタハズ。徒ニ口腹ヲ
養ハンガ為ニシテ正信アルコトナシ。無上ノ醍醐ヲ以テ薄酒ニ混
ジ。無價ノ栴檀ヲ以テ凡木ニ買フ。慧眼永ク盲ヒテ正路ヲ見
ルコトアタハズ。今世間ノ灌頂阿闍黎位ヲ受ルヲ見ルニ。多クハ生
計ノ為ニスルコト猶盲者ノ衆分ノ官ヲ受ルニ似タリ。慙ズンバアルベ
カラズ恐レズンバアルベカラズ。幸ナルカナ我等夙ニ密林ニ入テ。同
ジク七佛已來ヨリ傳受謬ラザル印明ヲ傳ヘテ。手中既ニ這ノ

フ受ント欲シテ遂ズシテ死ス。餘執猶竭ズシテ鬼趣ニ生ズトイヘドモ。法
力ノ感スル所口威神力アリテ苦報アルコトナシ。願ハクハ慈悲ヲ
垂テ灌頂ヲ授ケ玉ヘト。上人ノ曰ク公ハ何人ゾヤ。曾テ名字ヲバ
如何トカ申シキト。堯信恥ル容チアリ。上人ノ曰ク已ニ授受ヲ
乞フ。豈名ヲ恥ニヤト。堯信良久シテ曰ク我ハ是レ中院ノ僧都
某乙ナリト。上人即チ灌頂ヲ授クルニ歡喜合掌シテ曰ク。宿望已
ニ足レリ。吾今去ラントス。深恩何ヲ以テ報センヤト。上人ノ曰ク
我レ世間ノ事一モ望ミアルコトナシ。唯シ一ノ願アリ。古ヨリ碩師
宿徳タリトイヘトモ。臨終ニ魔ノ為ニ燒惱サル。汝チ威神アリト云。請
我が臨終ヲ擁護シテ魔障ナカラシメヨト。堯信ガ曰ク。我が徒カラ神
力ノ者三百有餘アリ。人ノ死ヲ伺テ燒害ヲナス。我誠メバ敢
テ為ジト言已テ病即チ愈ヌ。慶圓上人貞應二年正月二十七日ニ

印ヲ結ビ明ヲ誦シテ曰ク。我口中甚ダ甘シ。甘露ヲ含ガ如シト言
訖テ遷化シ玉ヘリ。年八十四。預ジメ三日前ニ死期ヲ知ル少シモ魔
燒アルコトナシ。茶毗ノ後其地光リアリ大サ蓋ノ如シトイヘリ。釋書
是ヲ以テ見ルニ真言ノ相承ハ七佛ヨリ今ニ至ルニテ訛謬アル
コトナシ。嗚呼悲ヒカナ末世ノ真言者。忝ナク諸佛祕密ノ印璽
ヲ傳ヘナガラ。精修練行シテ悉地ヲ期スルコトアタハズ。徒ニ口腹ヲ
養ハンガ為ニシテ正信アルコトナシ。無上ノ醍醐ヲ以テ薄酒ニ混
ジ。無價ノ栴檀ヲ以テ凡木ニ買フ。慧眼永ク盲ヒテ正路ヲ見
ルコトアタハズ。今世間ノ灌頂阿闍黎位ヲ受ルヲ見ルニ。多クハ生
計ノ為ニスルコト猶盲者ノ衆分ノ官ヲ受ルニ似タリ。慙ズンバアルベ
カラズ恐レズンバアルベカラズ。幸ナルカナ我等夙ニ密林ニ入テ。同
ジク七佛已來ヨリ傳受謬ラザル印明ヲ傳ヘテ。手中既ニ這ノ

摩尼寶ヲ握レリ。優曇鉢花ノ時ニ。一タビ現ズルヨリモ希レニ。盲
龜ノ浮木ノ孔ニ値ニモ超タリ。有難クアリガタシ是此ノ摩尼
蓋ゾ早ク灰水瑩拭シ。高幢ニ置在シテ種々ノ寶ヲ雨シ普ネク
十方沈淪ノ有情ヲ利濟セザランヤ。敬テ同志ノ行者ニ告グ慶
圓上人ノゴトキ高德モ臨終ヲ兼テ用心シ玉ヘリ。今ノ人少シキ不
生ノ解ヲ生シ。一兩節ノ禪ヲ聞ケバ即チ曰ク生死ニ自在ヲ得
タリト。寔ニ自在ニ地獄ニ墮スベキニコソ。出ル息入ル息待ヌ人ノ
命チ只今ヲモシラネバ。常ニ用心シテ念レザレ。兼テ佛神ニモ臨終
正念斷除障導ノ事ヲ祈リ玉フベシ華嚴ノ文曰ク

願我臨欲命終時 盡除一切諸障礙
面見彼佛阿弥陀 速得往生安樂刹

餘慶法師ノ事

餘慶法師ハ筑前ノ國早良郡ノ人ナリ。常ニ不動尊ノ真言ヲ
持念シテ靈應屢多ナリ。曾テ一ノ山谷ニ入ルニ遙ニ鐘ノ聲聞ヘ
ケレバ。靜ニ尋ネテ其所ニ至ルニ寺アリ。檐端幽ニシテ奇花枝
ヲ連ネ。珍シキ香ヒ遠ク薫ズ。一リノ比丘アリ。法華ヲ讀誦ス。
見ルニ年三十可ナリ。餘慶法師庭ノ隅ニ相羊ルニ。比丘見テ
凡人ナラザルコトヲ知テ。經ヲ停テ問訊シ。是ヘトテ堂ノ内ヘ入
シメテ互相ニ談話セリ。余時ニ餘慶問テ曰ク。君カ年幾乎ト。
比丘ノ曰ク。一百餘歲ナリ。餘慶ノ曰ク。先ツ經ヲ誦シ畢リ玉
ヘ聽聞シ奉ント。比丘乃チ誦ズ。安樂行品ノ天諸童子ノ爲
給使ノ句ニ至テ。天童二人忽チニ降ル。一人ハ供ヲ持シ一人ハ蓋
ヲ把ル。比丘供ヲ分テ一分ハ自ら喫シ。一分ヲバ餘慶法師ニ

摩尼寶ヲ握レリ。優曇鉢花ノ時ニ。一タビ現ズルヨリモ希レニ。盲
龜ノ浮木ノ孔ニ値ニモ超タリ。有難クアリガタシ是此ノ摩尼
蓋ゾ早ク灰水瑩拭シ。高幢ニ置在シテ種々ノ寶ヲ雨シ普ネク
十方沈淪ノ有情ヲ利濟セザランヤ。敬テ同志ノ行者ニ告グ慶
圓上人ノゴトキ高德モ臨終ヲ兼テ用心シ玉ヘリ。今ノ人少シキ不
生ノ解ヲ生シ。一兩節ノ禪ヲ聞ケバ即チ曰ク生死ニ自在ヲ得
タリト。寔ニ自在ニ地獄ニ墮スベキニコソ。出ル息入ル息待ヌ人ノ
命チ只今ヲモシラネバ。常ニ用心シテ念レザレ。兼テ佛神ニモ臨終
正念斷除障導ノ事ヲ祈リ玉フベシ華嚴ノ文曰ク

願我臨欲命終時 盡除一切諸障礙
面見彼佛阿弥陀 速得往生安樂刹

餘慶法師ノ事

餘慶法師ハ筑前ノ國早良郡ノ人ナリ。常ニ不動尊ノ真言ヲ
持念シテ靈應屢多ナリ。曾テ一ノ山谷ニ入ルニ遙ニ鐘ノ聲聞ヘ
ケレバ。靜ニ尋ネテ其所ニ至ルニ寺アリ。檐端幽ニシテ奇花枝
ヲ連ネ。珍シキ香ヒ遠ク薫ズ。一リノ比丘アリ。法華ヲ讀誦ス。
見ルニ年三十可ナリ。餘慶法師庭ノ隅ニ相羊ルニ。比丘見テ
凡人ナラザルコトヲ知テ。經ヲ停テ問訊シ。是ヘトテ堂ノ内ヘ入
シメテ互相ニ談話セリ。余時ニ餘慶問テ曰ク。君カ年幾乎ト。
比丘ノ曰ク。一百餘歲ナリ。餘慶ノ曰ク。先ツ經ヲ誦シ畢リ玉
ヘ聽聞シ奉ント。比丘乃チ誦ズ。安樂行品ノ天諸童子ノ爲
給使ノ句ニ至テ。天童二人忽チニ降ル。一人ハ供ヲ持シ一人ハ蓋
ヲ把ル。比丘供ヲ分テ一分ハ自ら喫シ。一分ヲバ餘慶法師ニ

與フ。其ノ味ヒ甚ハダ美ナルト人間ノ有ニアラス。終ニ辭シテ歸ラ
ントス。比丘ノ曰ク。此ノ地常ノ人ノ往來スル處ニアラズ。今日君
來ツテ悦ビ語ルコト幸ヒ甚シト。餘慶ノ曰ク。路ヲ失テ聖境ニ
到ル是何ノ幸ゾヤ。歸テ人間ニ此事ヲ傳ヘント欲ス。何ヲ以テカ
驗シトセシヤ。時ニ經ノ傍ニ几案アリ願クハ惠施サレヨト。比丘
悟ム色アリケレバ。忽チ二十童兒出デ、几案ヲ守護ス。餘慶ハ
本不動ノ行者ナレバ。持念スルコト須臾クシ玉フニ。忽チ大聖明
王形ヲ現シテ奪フ。十童兒拒ンテ與ヘズ。明王力強シ。終ニ其ノ
几案分テ二トナル。一半ハ比丘ノ處ニアリ。一半ハ餘慶持シテ歸ル。
其ノ十童兒ハ蓋シ十羅刹女ナラシ。餘慶法師後ニ京ニ上テ
藤原大政大臣ニ謁スル次デ。圖ラザルニ空也弘也上人入リ
來ル。相見シテ談話シ玉フニ。空也ノ左ノ手不在ナリ。餘慶其ノ

故ヲ問フ。空也ノ曰ク。我レ稚孩キ時。父母相媚ム。或時母志
テ我ヲ捉テ地ニ投グ。余ヨリ左ノ腕終ニ順ナラス。久ク聞ク闍
黎法驗ヲ得タリト。幸ニ今日相見ユ。加持セラレバ恩惠厚カ
ラント。餘慶ノ曰ク。一易キ事ナリトテ。暫ク目ヲ瞑テ持誦シ玉
フ。大政大臣ノ家人上下皆ナ羣リ集ツテ見ル。餘慶法師
乃チ空也上人ノ手ヲ執テ引クニ鳴テ聲出テ、後屈伸自在
ナルコト右ノ手ノ如シ。空也上人乃チ三拜シテ謝シ玉フ。相國已下
嘆伏セズト云コトナシ。時ノ人謠テ曰ク。弥陀ノ病明王ノ醫亦宜
ナラズヤト。空也ヲバ市ノ聖トモ。阿弥陀ノ聖トモ云ガ故ナリ。餘
慶法師天元二年ニ園城寺ノ長史ニ補セラレ。四年ニ法性寺
ノ座主ニ任ズ。永祚ノ始メ延曆寺ノ座主トナル。正曆二年閏
二月十八日寂ス。時ノ天子ヨリ智辯ト謚ヲ賜ハリケリ。四人ノ

與フ。其ノ味ヒ甚ハダ美ナルコト人間ノ有ニアラス。終ニ辭シテ歸ラ
ントス。比丘ノ曰ク。此ノ地常ノ人ノ往來スル處ニアラズ。今日君
來ツテ悦ビ語ルコト幸ヒ甚シト。餘慶ノ曰ク。路ヲ失テ聖境ニ
到ル是何ノ幸ゾヤ。歸テ人間ニ此事ヲ傳ヘント欲ス。何ヲ以テカ
驗シトセシヤ。時ニ經ノ傍ニ几案アリ願クハ惠施サレヨト。比丘
悟ム色アリケレバ。忽チ二十童兒出デ、几案ヲ守護ス。餘慶ハ
本不動ノ行者ナレバ。持念スルコト須臾クシ玉フニ。忽チ大聖明
王形ヲ現シテ奪フ。十童兒拒ンテ與ヘズ。明王力強シ。終ニ其ノ
几案分テ二トナル。一半ハ比丘ノ處ニアリ。一半ハ餘慶持シテ歸ル。
其ノ十童兒ハ蓋シ十羅刹女ナラシ。餘慶法師後ニ京ニ上テ
藤原大政大臣ニ謁スル次デ。圖ラザルニ空也弘也上人入リ
來ル。相見シテ談話シ玉フニ。空也ノ左ノ手不在ナリ。餘慶其ノ

故ヲ問フ。空也ノ曰ク。我レ稚孩キ時。父母相媚ム。或時母志
テ我ヲ捉テ地ニ投グ。余ヨリ左ノ腕終ニ順ナラス。久ク聞ク闍
黎法驗ヲ得タリト。幸ニ今日相見ユ。加持セラレバ恩惠厚カ
ラント。餘慶ノ曰ク。一易キ事ナリトテ。暫ク目ヲ瞑テ持誦シ玉
フ。大政大臣ノ家人上下皆ナ羣リ集ツテ見ル。餘慶法師
乃チ空也上人ノ手ヲ執テ引クニ鳴テ聲出デ、後屈伸自在
ナルコト右ノ手ノ如シ。空也上人乃チ三拜シテ謝シ玉フ。相國已下
嘆伏セズト云コトナシ。時ノ人謠テ曰ク。弥陀ノ病明王ノ醫亦宜
ナラズヤト。空也ヲバ市ノ聖トモ。阿弥陀ノ聖トモ云ガ故ナリ。餘
慶法師天元二年ニ園城寺ノ長史ニ補セラレ。四年ニ法性寺
ノ座主ニ任ズ。永祚ノ始メ延曆寺ノ座主トナル。正曆二年閏
二月十八日寂ス。時ノ天子ヨリ智辯ト謚ヲ賜ハリケリ。四人ノ

神足アリ皆ナ當代ノ名僧ナリ。謂ク勸修。勝筭。慶祚。穆筭ナリ。餘慶阿闍黎ハ智證ノ門人ナリ。既ニ能ク不動ノ咒ヲ持シテ現ニ悉地ヲ成ゼリ。空也ハ世ニ阿弥陀ノ聖トモ云トイヘドモ。現成悉地ハ又密乘ノ事ナレバ。明王ノ加護ヲ蒙レリ。今ノ世ニ現ニ悉地ヲ得タル人ハ希ナレトモ。豈除病延命滅除罪障冥ニ其利益ナカラシヤ

池上ノ皇慶阿闍黎及ヒ性空上人ノ事

皇慶法師ハ橘氏中納言廣相ノ曾孫書寫山ノ性空上人ノ姪ナリ。母孕ミシ時肉五辛ヲ食セズ。設ヒ食スレドモ皆吐ク。皇慶七歳ニシテ睿山ニ登ル時。山下ニ柿ノ對アリ。絶テ子ヲ結バズ。餘ノ木ハ皆ナ實アリ。其地ヲ不實柿ト名ク。兒問フ此地ハ何ノ名ゾ。人ノ曰ク不實柿ト。兒ノ曰ク然ラバ何ゾ實アル

ヤ。山ニ上ルニ茶店アリ。陟降ノ人憩息シテ茶湯ヲ飲ム。俗此ヲ水飲ト云兒又問フ何ノ名ゾ。人ノ曰ク水飲ト。兒ノ曰ク何ゾ湯ヲ飲ヤ。嶽ノ頂ニ上ルニ小竹多クアリ。兒又問フ何ノ名ゾ。人ノ曰ク大嶽ナリ。兒ノ曰ク然ラバ何ゾ小竹アルヤト。幼少ノ時ヨリ敏捷ナルコト凡ソ此ノ類ナリ。東塔院ノ靜真阿闍黎ハ慈覺大師六代ノ嫡嗣ナリ。即チ是ヲ師トシテ密教ヲ學ブ。梵字悉曇研究メズト云フナク五部三部底ヲ盡シテ。山門ノ奥秘ヲ傳ヘ法ノ燈火是ニ熾ナリ。然レドモ尚シテ又火ノ筑紫ニ游ヒテハ。景雲阿闍黎ニ就テ東寺ノ秘密ヲ傳フ景雲。皇慶ノ法器ナルコトヲ知テ殘サズ東寺ノ秘奥ヲ傳ヘ。又大師ノ寶瓶ヲ以テ瀉瓶ノ信シトシテ付ス。時ニ延般法師ト云人アリ。亦顯密ノ名匠ナリ。皇慶ト共ニ景雲阿闍黎ニ隨テ密教ヲ傳授ス。皇

神足アリ皆ナ當代ノ名僧ナリ。謂ク勸修。勝筭。慶祚。穆筭ナリ。餘慶阿闍黎ハ智證ノ門人ナリ。既ニ能ク不動ノ咒ヲ持シテ現ニ悉地ヲ成ゼリ。空也ハ世ニ阿弥陀ノ聖トモ云トイヘドモ。現成悉地ハ又密乘ノ事ナレバ。明王ノ加護ヲ蒙レリ。今ノ世ニ現ニ悉地ヲ得タル人ハ希ナレトモ。豈除病延命滅除罪障冥ニ其利益ナカラシヤ

池上ノ皇慶阿闍黎及ヒ性空上人ノ事

皇慶法師ハ橘氏中納言廣相ノ曾孫。書寫山ノ性空上人ノ姪ナリ。母孕ミシ時肉五辛ヲ食セズ。設ヒ食スレドモ皆吐ク。皇慶七歳ニシテ睿山ニ登ル時。山下ニ柿ノ對アリ。絶テ子ヲ結バズ。餘ノ木ハ皆ナ實アリ。其地ヲ不實柿ト名ク。兒問フ此地ハ何ノ名ゾ。人ノ曰ク不實柿ト。兒ノ曰ク然ラバ何ゾ實アル

ヤ。山ニ上ルニ茶屋アリ。陟降ノ人憩息シテ茶湯ヲ飲ム。俗此ヲ水飲ト云兒又問フ何ノ名ゾ。人ノ曰ク水飲ト。兒ノ曰ク何ゾ湯ヲ飲ヤ。嶽ノ頂ニ上ルニ小竹多クアリ。兒又問フ何ノ名ゾ。人ノ曰ク大嶽ナリ。兒ノ曰ク然ラバ何ゾ小竹アルヤト。幼少ノ時ヨリ敏捷ナルコト凡ソ此ノ類ナリ。東塔院ノ靜真阿闍黎ハ慈覺大師六代ノ嫡嗣ナリ。即チ是ヲ師トシテ密教ヲ學ブ。梵字悉曇研究メズト云フナク五部三部底ヲ盡シテ。山門ノ奥秘ヲ傳ヘ法ノ燈火是ニ熾ナリ。然レドモ尚シテ又火ノ筑紫ニ游ヒテハ。景雲阿闍黎ニ就テ東寺ノ秘密ヲ傳フ景雲。皇慶ノ法器ナルコトヲ知テ殘サズ東寺ノ秘奥ヲ傳ヘ。又大師ノ寶瓶ヲ以テ瀉瓶ノ信シトシテ付ス。時ニ延般法師ト云人アリ。亦顯密ノ名匠ナリ。皇慶ト共ニ景雲阿闍黎ニ隨テ密教ヲ傳授ス。皇

慶筑前ノ國背振山ニ於テ安居スル時ニ延般ト俱ニ法ヲ修スル次テ驚發地神ノ真言ヲ誦シテ。印手ヲ以テ地ヲ按スニ地大ニ震フ。皇慶乃チ延般ヲ誡メテ曰ク。無上菩提ヲ成ズルニ至ルマデ。慎シテ是ヲ他ニ語ルコトナカレト。又池上ノ菴ニ於テ舍利ヲ禮スルニ舍利光リヲ放ツ。四天王寺ニ詣テ、舍利ヲ禮スルニ。舍利本ハ三粒ナリ即チ分シテ八粒トナル。薄暮ニ一リノ童子來ル。貌チ甚ダ偉壯ナリ。皇慶問フ汝ハ何人ノ童子ノ曰ク僕ハ久シク播州書寫ノ性空上人ニ給事セル乙護法ト云者ナリ。或時役夫上人ノ上供ヲ偷ハ我レ忿リニ耐ス。拳ヲ以テ頭ヲ擊ニ其人即チ死ス。故ヲ以テ上人我ヲ驅テ去ラシム。故ニ今師ニ投ズト。皇慶飲食ヲ與フ。童ノ曰ク願ハクハ印言ヲ以テ加持シ玉ヘ受ヤスカラン。皇慶乙童ヲ數百里ノ外ニ使ハスニ半時ナラ

スニ往來ス。或ハ衣ヲ洗ガシムルニ虚空ニ曝シテ桁竿ヲ用ヒズ。又袈裟ヲ洗ハシムルニ。震旦日本ニハ清淨ノ水ナシト云テ。天竺ノ無熱池ヘ往テ洗ヒケリ。其外ノ靈異甚多シ。或時二諸ノ役夫列坐シテ戲謔ケル次テ。各拳ヲ以テ輔車ヲ打ツ。次第ニ巡テ相ヒ授ケテ乙童ニ至ル。乙童辭シテ曰ク。我若シ打タバ恐クハ其人死スベシト。諸人強テ望ミケレバ。乙童爲方ナクテ。勇カニ打ツニ。其人血ヲ吐テ殆ト死ナントス。皇慶聞テ呵噴シテ擯シ出ス。時ニ乙童泣テ曰ク。背振山ノ地動ハ堅牢善女天出現ノ時ナリ。我レ親リ見ルガ故ニ此ノ勝徳ヲ感シテ來ルニ。今又擯出セラル悲イカナト。長曆中ニ智證慈覺ノ兩門人相評フコトナリ。朝廷皇慶ノ德望一山ニ蓋ヲ以テ皇慶ヲ譴ム皇慶ノ曰ク。官事若シ急ナラバ乙童ヲ宥ムベシト。余時ニ朝廷恐

慶筑前ノ國背振山ニ於テ安居スル時ニ。延般ト俱ニ法ヲ修スル次テ驚發地神ノ真言ヲ誦シテ。印手ヲ以テ地ヲ按スニ。地大ニ震フ。皇慶乃チ延般ヲ誡メテ曰ク。無上菩提ヲ成ズルニ至ルマデ。慎シテ是ヲ他ニ語ルコトナカレト。又池上ノ菴ニ於テ舍利ヲ禮スルニ舍利光リヲ放ツ。四天王寺ニ詣テ、舍利ヲ禮スルニ。舍利本ハ三粒ナリ即チ分シテ八粒トナル。薄暮ニ一リノ童子來ル。貌チ甚ダ偉壯ナリ。皇慶問フ汝ハ何人ノ童子ノ曰ク僕ハ久シク播州書寫ノ性空上人ニ給事セル乙護法ト云者ナリ。或時役夫上人ノ上供ヲ偷ム。我レ忿リニ耐ス。拳ヲ以テ頭ヲ擊ニ其人即チ死ス。故ヲ以テ上人我ヲ驅テ去ラシム。故ニ今師ニ投ズト。皇慶飲食ヲ與フ。童ノ曰ク願ハクハ印言ヲ以テ加持シ玉ヘ受ヤスカラン。皇慶乙童ヲ數百里ノ外ニ使ハスニ半時ナラ

スシテ往來ス。或ハ衣ヲ洗ガシムルニ虚空ニ曝シテ桁竿ヲ用ヒズ。又袈裟ヲ洗ハシムルニ。震旦日本ニハ清淨ノ水ナシト云テ。天竺ノ無熱池ヘ往テ洗ヒケリ。其外ノ靈異甚多シ。或時二諸ノ役夫列坐シテ戲謔ケル次デ。各拳ヲ以テ輔車ヲ打ツ。次第ニ巡テ相ヒ授ケテ乙童ニ至ル。乙童辭シテ曰ク。我若シ打タバ恐クハ其人死スベシト。諸人強テ望ミケレバ。乙童爲方ナクテ。勇カニ打ツニ。其人血ヲ吐テ殆ト死ナントス。皇慶聞テ呵噴シテ擯シ出ス。時ニ乙童泣テ曰ク。背振山ノ地動ハ堅牢善女天出現ノ時ナリ。我レ親リ見ルガ故ニ此ノ勝徳ヲ感シテ來ルニ。今又擯出セラル悲イカナト。長曆中ニ智證慈覺ノ兩門人相評フコトナリ。朝廷皇慶ノ德望一山ニ蓋ヲ以テ皇慶ヲ譴ム皇慶ノ曰ク。官事若シ急ナラバ乙童ヲ宥ムベシト。余時ニ朝廷恐

レテ強テ譚ズトイヘリ。宗ニ乙童又來ラバ衆人此ヲ何トセ
ンヤ。○性空上人ハ六根清淨ヲ得タル人ナリ。一日背振山ニ於
テ法花ヲ誦スルニ。兒童數人年十四五許。左右ニ來テ同ジク
誦ズ。容貞奇麗ニシテ音韻清雅ナリ。平生神童二人左右ニ侍ス。
一リヲバ乙ト名ケ。一リヲバ若ト名ケ。皇慶ノ所へ來リシハ乙
護法ナリ。增賀法師和州ノ多武ノ峯ニ在テ。或時私カニ念
ク。性空法師ニ播磨杉原多クアルベシ。三輪清淨ノ施ナレバ我
受クベキニト。即時ニ性空護法神ニ命シテ贈ル。增賀嘆シテ曰ク空
公ハ夫レ六根ヲ淨ムルカ。能ク人ノ心念ヲ知ルト又書寫山ニ
在シ時。一夕金剛薩埵夢中ニ兩部ノ密教ヲ授ク。覺テ能ク
記憶ス。或時睿山ノ篤上人書寫山ニ來ル。性空夢ノ事ヲ説ク。
篤公聞ビテ涙ヲ流シテ曰ク。兩界ノ印明一事ヲ違ヘズ。但シ一

印アリテ予ガ軌ニ異ナリ。然レドモ夢授甚ハダ詳ナリ。恐ハ軌
ノ説誤レリト。性空ハ曾テ密教ヲ傳ザル人ナリ。然レニ金薩
ノ親リ授クルコトヲ蒙フル。諸人不思議ノ思ヲナストイヘリ。吾
朝ハ密教相應ノ地ナレバ。悉地成就ノ人少カラズ。又智證。性空
同ジク夢ニ灌頂ヲ受ク。是モ亦相應ノ故ナリ。支那ニハ此ノ例
シナシ。驚發地神ノ印明ハ大日經ニ出ツ。胎藏及ヒ地鎮作壇
等ノ法ニ用ユ。疑フベカラズ。只今ノ人地神ノ出現ヲ感スル程ノ
コトハナクトモ。ナド其ノ法力通ゼザラン慈氏軌ニ如來ノ密印
ハ凡人結ブトイヘドモ力用殊ナラズ。喩ヘバ上手ノ彫印判ヲ以
テ押ス時ハ。拙人押セドモ能ク明カニ現ズルガ如ク。密印モ
亦然ナリ。召請撥遣等皆ナ其ノ用ヲ施ストイヘリ。慶圓ノ
善女龍王ヲ見。皇慶ノ堅牢地神ヲ感ズル。性空ノ夢授。覺鏗

レテ強テ譚ズトイヘリ。宗ニ乙童又來ラバ衆人此ヲ何トセ
ンヤ。○性空上人ハ六根清淨ヲ得タル人ナリ。一日背振山ニ於
テ法花ヲ誦ズルニ。兒童數人年十四五許。左右ニ來テ同ジク
誦ズ。容貞奇麗ニシテ音韻清雅ナリ。平生神童二人左右ニ侍ス。
一リヲバ乙ト名ケ。一リヲバ若ト名ケ。皇慶ノ所へ來リシハ乙
護法ナリ。增賀法師和州ノ多武ノ峯ニ在テ。或時私カニ念
ク。性空法師ニ播磨杉原多クアルベシ。三輪清淨ノ施ナレバ我
受クベキニト。即時ニ性空護法神ニ命シテ贈ル。增賀嘆シテ曰ク空
公ハ夫レ六根ヲ淨ムルカ。能ク人ノ心念ヲ知ルト又書寫山ニ
在シ時。一夕金剛薩埵夢中ニ兩部ノ密教ヲ授ク。覺テ能ク
記憶ス。或時睿山ノ篤上人書寫山ニ來ル。性空夢ノ事ヲ説ク。
篤公聞ビテ涙ヲ流シテ曰ク。兩界ノ印明一事ヲ違ヘズ。但シ一

印アリテ予ガ軌ニ異ナリ。然レドモ夢授甚ハダ詳ナリ。恐ハ軌
ノ説誤レリト。性空ハ曾テ密教ヲ傳ザル人ナリ。然レニ金薩
ノ親リ授クルコトヲ蒙フル。諸人不思議ノ思ヲナストイヘリ。吾
朝ハ密教相應ノ地ナレバ。悉地成就ノ人少カラズ。又智證。性空
同ジク夢ニ灌頂ヲ受ク。是モ亦相應ノ故ナリ。支那ニハ此ノ例
シナシ。驚發地神ノ印明ハ大日經ニ出ツ。胎藏及ヒ地鎮作壇
等ノ法ニ用ユ。疑フベカラズ。只今ノ人地神ノ出現ヲ感スル程ノ
コトハナクトモ。ナド其ノ法力通ゼザラン慈氏軌ニ如來ノ密印
ハ凡人結ブトイヘドモ力用殊ナラズ。喩ヘバ上手ノ彫印判ヲ以
テ押ス時ハ。拙人押セドモ能ク明カニ現ズルガ如ク。密印モ
亦然ナリ。召請撥遣等皆ナ其ノ用ヲ施ストイヘリ。慶圓ノ
善女龍王ヲ見。皇慶ノ堅牢地神ヲ感ズル。性空ノ夢授。覺鏗

玉(身)然レトモ衆生ヲ哀愍スルガ故ニ菩薩ノ形ヲ現シテ衆生ヲ救度シ玉フト。此ノ果位ハ即是無覺無成ノ阿字本不生ノ心地ナリ。藏ト者金剛寶藏ナリ。既ニ久シク金剛寶藏ヲ開見スレドモ度生ノ爲ノ故ニ尚菩薩ノ位ニ居ス。自ラ既ニ此ノ位ヲ證シテ。又人ヲ度シテ此ノ心地ヲ證ゼシメ此ノ寶藏ヲ開カシム。故ニ地藏ト云。又悲願金剛ト号ス此菩薩ハ悲願深重ニシテ。衆生界ヲ度シ盡サズンハ正覺ヲトラジトノ本誓ナリ。故ニ悲願金剛ト云。又大日如來普門万徳ノ中ノ悲願ノ一徳ヲ渾テ此ノ菩薩ニ名ク。悲ハ拔苦ヲ先トス。本願經ノ中ニ罪苦ノ六道ノ衆生ヲ拔濟シ畢テ後ニ菩提ヲ證ゼント誓フハ。一切如來ノ悲願ハ皆ナ此尊ノ三昧ナルガ故ナリ。又大日經ノ第二ニ地藏菩薩金剛不可壞行境界ニ三昧ニ住シテ眞言ヲ説玉ヘリ金剛不可

④末26ウ

壞行境界ハ何物ノヤ。阿字金剛輪本不生ノ心地金剛寶藏ヲ指ナリ。又悲願甚深ヲ盡ル期ナク堅固ナルコト金剛ノ如クニシテ。破壊スベカラサルガ故ナリ。又三昧耶形ハ寶幢旗ナリ。一經ニハ此ヲ金剛大軍ト説キ或ハ虚空旗菩薩ト名ク。金剛頂經ニハ一切如來思惟王摩尼寶幢大菩薩ト号ス。金剛幢大軍ト説ガ故ニ勝軍地藏ト云アリ。幢旗ハ大將ノ持スル物ナリ。淨菩提心ハ衆行ノ導主ナルコト。猶大將ノ幢旗ノ如シ。菩提心ノ幢旗堅固ナル時ハ。向フ所ノ煩惱ノ賊天魔ノ軍ニ勝スト云コトナシ。故ニ勝軍地藏ト号ス。金剛不可壞行境界三昧ト云モ。太公及ヒ韓信ガ如キ大將ヲハ。容易ニハ破壊スベカラザルガ如ク。今本不生ノ心地ニ住シテ。自心ノ金剛寶藏ヲ開ク時ハ地獄モ天堂モ佛性モ闡提モ。空有モ偏圓モ。二乗モ一乘モ。

④末27オ

玉ヘリ。然レトモ衆生ヲ哀愍スルガ故ニ菩薩ノ形ヲ現シテ衆生ヲ救度シ玉フト。此ノ果位ハ即是無覺無成ノ阿字本不生ノ心地ナリ。藏ト者金剛寶藏ナリ。既ニ久シク金剛寶藏ヲ開見スレドモ度生ノ爲ノ故ニ尚菩薩ノ位ニ居ス。自ラ既ニ此ノ位ヲ證シテ。又人ヲ度シテ此ノ心地ヲ證ゼシメ此ノ寶藏ヲ開カシム。故ニ地藏ト云。又悲願金剛ト号ス此菩薩ハ悲願深重ニシテ。衆生界ヲ度シ盡サズンハ正覺ヲトラジトノ本誓ナリ。故ニ悲願金剛ト云。又大日如來普門万徳ノ中ノ悲願ノ一徳ヲ渾テ此ノ菩薩ニ名ク。悲ハ拔苦ヲ先トス。本願經ノ中ニ罪苦ノ六道ノ衆生ヲ拔濟シ畢テ後ニ菩提ヲ證ゼント誓フハ。一切如來ノ悲願ハ皆ナ此尊ノ三昧ナルガ故ナリ。又大日經ノ第二ニ地藏菩薩金剛不可壞行境界ニ三昧ニ住シテ眞言ヲ説玉ヘリ金剛不可

壞行境界ハ何物ノヤ。阿字金剛輪本不生ノ心地金剛寶藏ヲ指ナリ。又悲願甚深ニシテ盡ル期ナク。堅固ナルコト金剛ノ如クニシテ。破壊スベカラサルガ故ナリ。又三昧耶形ハ寶幢旗ナリ。一經ニハ此ヲ金剛大軍ト説キ或ハ虚空旗菩薩ト名ク。金剛頂經ニハ一切如來思惟王摩尼寶幢大菩薩ト号ス。金剛幢大軍ト説ガ故ニ勝軍地藏ト云アリ。幢旗ハ大將ノ持スル物ナリ。淨菩提心ハ衆行ノ導主ナルコト。猶大將ノ幢旗ノ如シ。菩提心ノ幢旗堅固ナル時ハ。向フ所ノ煩惱ノ賊天魔ノ軍ニ勝スト云コトナシ。故ニ勝軍地藏ト号ス。金剛不可壞行境界三昧ト云モ。太公及ヒ韓信ガ如キ大將ヲハ。容易ニハ破壊スベカラザルガ如ク。今本不生ノ心地ニ住シテ。自心ノ金剛寶藏ヲ開ク時ハ地獄モ天堂モ佛性モ闡提モ。空有モ偏圓モ。二乗モ一乘モ。

天魔モ波旬モ皆自心佛ノ名字ナレバ。取ルベキ物モナク。奔ベ
キ物モナシ。天魔及ヒ煩惱ハ自心ノ功德眷屬ナリ。彼何ゾ我
ヲ壊スベキヤ。我レ何ゾ彼ヲ破スベキヤ。此ヲ眞實ノ金剛不可
壊行境界三昧。大力勝軍ト号スルナリ。又一切罪苦ノ衆生ヲ
度シ盡シテ後ニ成佛スベシト云大悲願ハ。一切ニ勝出スルコト。高幢
ノ獨リ高ク空中ニ出タルガ如シ。故ニ虚空旗菩薩ト名ク。心
身。智。虚空。衆生。ハ實ニ無量ナレバ。衆生界ハ盡ル期ナシ。故ニ地
藏菩薩ノ大悲願モ亦盡ル期ナシ。盡ルコトナキハ不可壊行境界
ナリ。此又種子ノ義ト同シ。カ字ハ風大ノ種子ナリ。大力ノ義堅
固ノ義。恐怖ノ義。摧破ノ義。成就ノ義。擁護ノ義。歡喜ノ義
等アリ。大力ノ義ヲイハバ。風輪ハ能ク此ノ三千界ヲ持シ又能ク
此世界ヲ壊ス。金剛杵ヲ以テモ此風輪ヲ壊スベカラサルハ不可

壊行境界ナリ。又カ字ハ因ノ義ナリ。謂ク菩提心ヲ因トス。最
則衆行ノ導主大將ノ幢旗ナリ。是ノ菩提心堅固不動ナルハ
不可壊行境界ナリ。自分堅固ナルガ故ニ能ク他ヲ壊ス。故ニ
菩提心ヲ發ス時ハ魔宮震動シ。乃至菩提ヲ成スル時ハ能ク
四魔ヲ破ス。猶風大ノ能ク世界ヲ持シ。又能ク世界ヲ壊スル
ガ如シ。花ノ開クルモ風ノ力ナリ。落ルモ亦風ニ依ル。開落ハ豈
因縁ニアラスヤ。地藏菩薩此ノ金剛不可壊行境界三昧ニ住
シ玉フガ故ニ。能ク地獄ヲ破シテ羣生ノ苦ヲ拔キ。煩惱ヲ壊
滅シ。二十五有ヲ破シ。又能ク一毛一沙一塵一善ヨリ。漸ク
増シテ菩提ヲ成ゼシメ玉フナリ。若字義ニ付テ釋セバ。大品及ヒ
金剛頂ニ曰ク。カ字門ハ盡不可得ノ故ニト云。是大悲闡提ノ
菩薩ノ不度盡衆生界不取正覺ノ願ナリ。佛切利天ニ居テ説

天魔モ波旬モ皆自心佛ノ名字ナレバ。取ルベキ物モナク。奔ベ
キ物モナシ。天魔及ヒ煩惱ハ自心ノ功德眷屬ナリ。彼何ゾ我
ヲ壊スベキヤ。我レ何ゾ彼ヲ破スベキヤ。此ヲ眞實ノ金剛不可
壊行境界三昧。大力勝軍ト号スルナリ。又一切罪苦ノ衆生ヲ
度シ盡シテ後ニ成佛スベシト云大悲願ハ。一切ニ勝出スルコト。高幢
ノ獨リ高ク空中ニ出タルガ如シ。故ニ虚空旗菩薩ト名ク。心
身。智。虚空。衆生。ハ實ニ無量ナレバ。衆生界ハ盡ル期ナシ。故ニ地
藏菩薩ノ大悲願モ亦盡ル期ナシ。盡ルコトナキハ不可壊行境界
ナリ。此又種子ノ義ト同シ。カ字ハ風大ノ種子ナリ。大力ノ義堅
固ノ義。恐怖ノ義。摧破ノ義。成就ノ義。擁護ノ義。歡喜ノ義
等アリ。大力ノ義ヲイハバ。風輪ハ能ク此ノ三千界ヲ持シ又能ク
此世界ヲ壊ス。金剛杵ヲ以テモ此風輪ヲ壊スベカラサルハ不可

壊行境界ナリ。又カ字ハ因ノ義ナリ。謂ク菩提心ヲ因トス。是
則衆行ノ導主大將ノ幢旗ナリ。是ノ菩提心堅固不動ナルハ
不可壊行境界ナリ。自分堅固ナルガ故ニ能ク他ヲ壊ス。故ニ
菩提心ヲ發ス時ハ魔宮震動シ。乃至菩提ヲ成スル時ハ能ク
四魔ヲ破ス。猶風大ノ能ク世界ヲ持シ。又能ク世界ヲ壊スル
ガ如シ。花ノ開クルモ風ノ力ナリ。落ルモ亦風ニ依ル。開落ハ豈
因縁ニアラスヤ。地藏菩薩此ノ金剛不可壊行境界三昧ニ住
シ玉フガ故ニ。能ク地獄ヲ破シテ羣生ノ苦ヲ拔キ。煩惱ヲ壊
滅シ。二十五有ヲ破シ。又能ク一毛一沙一塵一善ヨリ。漸ク
増シテ菩提ヲ成ゼシメ玉フナリ。若字義ニ付テ釋セバ。大品及ヒ
金剛頂ニ曰ク。カ字門ハ盡不可得ノ故ニト云。是大悲闡提ノ
菩薩ノ不度盡衆生界不取正覺ノ願ナリ。佛切利天ニ居テ説

法ニ至フ時ニ此世界此世界此國土他國土ノ無量無□ノ十界ノ有情皆ナ來集セリ。文殊ノ妙慧ヲ以テ千劫測度スレドモ知レテアタハズ。如來佛眼ヲ以テ觀ジ玉ヘドモ尚數ヲ盡サズ。皆是地藏菩薩ノ已度當度未度。已成就當成就未成就ノ衆生ナリトイヘリ。佛眼尚數ヲ盡サズト云ハ。キヤ字ノ盡不可得ノ義ナリ。又囑累人天品ニ。佛地藏菩薩ノ神力。慈悲。智慧。辯才ヲ讚歎シテ。正使十方ノ諸佛汝ガ不思議ノ事ヲ讚歎シ宣說シ玉フコト千萬劫ノ中ニモ盡スコトアタハジト說玉ヘリ。此モ亦キヤ字ノ實義ナリ。然レバ則チ此菩薩ノ願力。智慧。神通。辯才。慈悲。分身等ノ事皆無盡ナル義ナリ。次ニイ字ハイ字ヲ躰トス。イ字ハ如不可得ノ義ナリ。兩部大品ニハイ字門ハ入諸法如相不動故ニト說ケリ。地ハ不動

ニ十方ニ邊際ナク盡ル期□シ。故ニキヤ字ヲ地ト云。是ハ字義ヲ積ンテ句義ヲ成ズルナリ。イ字ハ如ノ義ナレバ此菩薩既ニ諸法如如ノ極際ニ至リ玉ヘリ。故ニ又一切衆生ヲ度シテ如如ノ地ニ至ラシム。如不可得ハ即チイ字本不生六大平等ノ心地。不可壞行境界ナリ。(イ)点ハ根本ノ義ナリ。六大真如ハ諸法ノ根本ナルガ故ニ。亦自在ノ義ナリ。此尊ハ真如實際ニ於テ大自在ヲ得テ。恒沙ノ國土ニ於テ自在ニ衆生ヲ度メ。如實際ニ至ラシムルガ故ニ。次ニキヤ字ハ二合ノ字ナリ。キヤ字ヲ體トス。キヤ字ハ離作業ノ義ナリ。兩部涅槃經ニ曰ク。於諸衆生起大慈悲。生於子想如羅睺羅。作妙善義。是故名レト說ケリ。作業不可得ト者。外道等ハ作者アリト計ス。凡夫及ビ二乘皆ナ作業ヲ離レズ。此菩薩ハ久ク既ニ金剛寶

法シ玉フ時ニ此世界此世界此國土他國土ノ無量無□ノ十界ノ有情皆ナ來集セリ。文殊ノ妙慧ヲ以テ千劫測度スレドモ知ルコトアタハズ。如來佛眼ヲ以テ觀ジ玉ヘドモ尚數ヲ盡サズ。皆是地藏菩薩ノ已度當度未度。已成就當成就未成就ノ衆生ナリトイヘリ。佛眼尚數ヲ盡サズト云ハ。キヤ字ノ盡不可得ノ義ナリ。又囑累人天品ニ。佛地藏菩薩ノ神力。慈悲。智慧。辯才ヲ讚歎シテ。正使十方ノ諸佛汝ガ不思議ノ事ヲ讚歎シ宣說シ玉フコト千萬劫ノ中ニモ盡スコトアタハジト說玉ヘリ。此モ亦キヤ字ノ實義ナリ。然レバ則チ此菩薩ノ願力。智慧。神通。辯才。慈悲。分身等ノ事皆無盡ナル義ナリ。次ニイ字ハイ字ヲ躰トス。イ字ハ如不可得ノ義ナリ。兩部大品ニハイ字門ハ入諸法如相不動故ニト說ケリ。地ハ不動

ニシテ十方ニ邊際ナク盡ル期□シ。故ニキヤ字ヲ地ト云。是ハ字義ヲ積ンテ句義ヲ成ズルナリ。イ字ハ如ノ義ナレバ此菩薩既ニ諸法如如ノ極際ニ至リ玉ヘリ。故ニ又一切衆生ヲ度シテ如如ノ地ニ至ラシム。如不可得ハ即チイ字本不生六大平等ノ心地。不可壞行境界ナリ。(イ)点ハ根本ノ義ナリ。六大真如ハ諸法ノ根本ナルガ故ニ。亦自在ノ義ナリ。此尊ハ真如實際ニ於テ大自在ヲ得テ。恒沙ノ國土ニ於テ自在ニ衆生ヲ度シテ。如實際ニ至ラシムルガ故ニ。次ニキヤ字ハ二合ノ字ナリ。キヤ字ヲ體トス。キヤ字ハ離作業ノ義ナリ。兩部涅槃經ニ曰ク。於諸衆生起大慈悲。生於子想如羅睺羅。作妙善義。是故名レト說ケリ。作業不可得ト者。外道等ハ作者アリト計ス。凡夫及ビ二乘皆ナ作業ヲ離レズ。此菩薩ハ久ク既ニ金剛寶

藏ヲ開見スルガ故ニ。一切ノ作業ヲ究竟ノ作業ナルコトナシ。故ニ寶藏ヨリ一切ノ珍寶ヲ出シテ。衆生ノ願ニ隨テ賜與シ。一切衆生ニ於テ一子ノ想ヲ作シテ濟度シ。皆ナ最妙善ノ境ニ至ラシムル義ナリ。又字ハ譬喩不可得ノ義。此菩薩ノ功德悲願辯才智慧無量不可思議ニシテ。譬喩モ及バザル義ナリ。又諸法本有ニシテ世諦即チ第一義諦ナルガ故ニ。却テ譬喩ヲ以テ法身不可得ノ境ヲ顯ハシテ地藏ト名ク。又字ハ損減不可得ノ義ナリ。此菩薩十方法界ニ於テ百千万億ノ身ヲ現ジ。一一ノ身ニ各百千万億ノ衆生ヲ度シ玉ヘドモ。神通智慧ニ於テ損減アルコトナキ義ナリ。又能ク二十五有ヲ損減シテ。妙善ノ境界ニ至ラシムル義ナリ。上ノ句義ノ中ノ能殺能成。不壞能壞ノ義ト同ナリ。又字ハ本性寂ノ義ナリ。疏ニ曰ク凡夫二乘ハ少

分ノ擔怕ヲ得ルヲ寂トスレドモ。然モ本性常寂ニハアラス。諸法從本來常自寂滅相ナリ。三界六道何者カ是レ涅槃ニアラザル。乃至是ノ法ハ平等ニシテ高下アルコトナシ。常ニ動ズル所口ナラシテ而モ為ザル所口ナシ。故ニ解脱ノ中ニハ容受スル所口多シト。諸法高下ナク平等ニシテ容受スル所口多キハ菩薩ノ大悲願海ナリ。又藏ノ義也。容受スル所口多ク本來寂靜ナルガ故ニ能ク大悲願。這ノ寶藏ヨリ一切ノ寶ヲ出シテ羣生ヲ度シ玉フ。此ノ寶藏ハ本有無作ニシテ。損減アルコトナク。譬喩スベカラズ。如來ノ法身ト衆生ノ本性ト同ジク此ノ本來寂靜ノ理ヲ得タリ。然レドモ衆生ハ覺セズ知セズ。故ニ地藏菩薩苦到ニ此ノ寶處ヲ開示シ玉フ。是ハ字義ヲ積テ句義ヲ成ズルモノナリ。又或ハ行義ヲ藏ト云。行ハ行不可得ノ義即チ金剛不可

藏ヲ開見スルガ故ニ。一切ノ作業ヲ究竟シテ作業アルコトナシ。故ニ寶藏ヨリ一切ノ珍寶ヲ出シテ。衆生ノ願ニ隨テ賜與シ。一切衆生ニ於テ一子ノ想ヲ作シテ濟度シ。皆ナ最妙善ノ境ニ至ラシムル義ナリ。又字ハ譬喩不可得ノ義。此菩薩ノ功德悲願辯才智慧無量不可思議ニシテ。譬喩モ及バザル義ナリ。又諸法本有ニシテ世諦即チ第一義諦ナルガ故ニ。却テ譬喩ヲ以テ法身不可得ノ境ヲ顯ハシテ地藏ト名ク。又字ハ損減不可得ノ義ナリ。此菩薩十方法界ニ於テ百千万億ノ身ヲ現ジ。一一ノ身ニ各百千万億ノ衆生ヲ度シ玉ヘドモ。神通智慧ニ於テ損減アルコトナキ義ナリ。又能ク二十五有ヲ損減シテ。妙善ノ境界ニ至ラシムル義ナリ。上ノ句義ノ中ノ能殺能成。不壞能壞ノ義ト同ナリ。又字ハ本性寂ノ義ナリ。疏ニ曰ク凡夫二乘ハ少

分ノ擔怕ヲ得ルヲ寂トスレドモ。然モ本性常寂ニハアラス。諸法從本來常自寂滅相ナリ。三界六道何者カ是レ涅槃ニアラザル。乃至是ノ法ハ平等ニシテ高下アルコトナシ。常ニ動ズル所口ナラシテ而モ為ザル所口ナシ。故ニ解脱ノ中ニハ容受スル所口多シト。諸法高下ナク平等ニシテ容受スル所口多キハ菩薩ノ大悲願海ナリ。又藏ノ義也。容受スル所口多ク本來寂靜ナルガ故ニ能ク大悲願。這ノ寶藏ヨリ一切ノ寶ヲ出シテ羣生ヲ度シ玉フ。此ノ寶藏ハ本有無作ニシテ。損減アルコトナク。譬喩スベカラズ。如來ノ法身ト衆生ノ本性ト同ジク此ノ本來寂靜ノ理ヲ得タリ。然レドモ衆生ハ覺セズ知セズ。故ニ地藏菩薩苦到ニ此ノ寶處ヲ開示シ玉フ。是ハ字義ヲ積テ句義ヲ成ズルモノナリ。又或ハ行義ヲ藏ト云。行ハ行不可得ノ義即チ金剛不可

壞行境界三昧ナリ。是ハハ有ノ義不壞ノ義ナリ。又ハ離塵垢ノ義ナリ。是レ二十五有ノ衆生ヲ度シテ。煩惱塵垢ヲ除キ玉フ義ナリ。又不壞ハ金剛不可壞行境界三昧ナリ。又行ハ造作遷流ノ義ナリ。又字ノ作業ニ同ジ。又ハ離塵ノ義本性常寂ナレバ。一切ノ煩惱塵垢ノ散動ヲ離ル、ガ故ニ又同シ。又ハ有ナリ。二十五有ハ皆散動ノ法ナリ。今有不可得ト知ルカ故ニ又字ノ本性寂ノ義ニ同ジ。乃至字相字義ニ約シテ秘密ヲ釋セバ。劫ヲ歷トモ盡シガタシ。面ニアラズンバ何ゾ明ラカナラン。見諦ノ阿闍黎ニ隨テ聽受セヨ。故ニ略シテ抄セザルノミ

地藏菩薩四重祕釋ノ事

上ニ既ニ阿弥陀佛ノ四重ヲ明セリ。今ノ釋煩重ニ似タリトイヘトモ。初心ノ人ノ為ニ再ビ記スルノミ。幸ニ鄙陋ヲ責ルコトナカレ。

第一ニ淺略ト者。此地藏菩薩ハ過去無量阿僧祇劫ニ長者ノ子トシテ。師子奮迅具足萬行如來ノ御前ニ於テ大願ヲ發シ。又聖女トシテハ亡母ノ墮獄ヲ救ヒ。覺華定自在王如來ノ塔像ノ前ニ於テ弘誓願ヲ發シ。及ビ清淨蓮花目如來ノ法ノ中ニ於テ。不度盡衆生界不取正覺ノ願ヲ發シテヨリ已來。千万億無量阿僧祇不可說不可說恒河沙劫。猶ヲ菩薩トシテ。十方法界ノ中ニ。各百千万億ノ身ヲ現ジテ衆生ヲ救濟シ。八十百千那由多頻跋羅ノ菩薩ト共ニ南方ヨリ佉羅帝耶山ニ來リ。及ビ忉利天宮ニ來テ。世尊慇懃ノ讚歎ヲ蒙リ。如來ノ付囑ヲ受テ弥勒ノ出世マデノ一切衆生ヲ救護シ玉フ尊ナリ。是地藏十輪經。及ビ本願經。占察經等ノ所說。聲聞形ノ菩薩ナリ

壞行境界三昧ナリ。是ハハ有ノ義不壞ノ義ナリ。又ハ離塵垢ノ義ナリ。是レ二十五有ノ衆生ヲ度シテ。煩惱塵垢ヲ除キ玉フ義ナリ。又不壞ハ金剛不可壞行境界三昧ナリ。又行ハ造作遷流ノ義ナリ。又字ノ作業ニ同ジ。又ハ離塵ノ義本性常寂ナレバ。一切ノ煩惱塵垢ノ散動ヲ離ル、ガ故ニ又同シ。又ハ有ナリ。二十五有ハ皆散動ノ法ナリ。今有不可得ト知ルカ故ニ又字ノ本性寂ノ義ニ同ジ。乃至字相字義ニ約シテ秘密ヲ釋セバ。劫ヲ歷トモ盡シガタシ。面ニアラズンバ何ゾ明ラカナラン。見諦ノ阿闍黎ニ隨テ聽受セヨ。故ニ略シテ抄セザルノミ

地藏菩薩四重祕釋ノ事

上ニ既ニ阿弥陀佛ノ四重ヲ明セリ。今ノ釋煩重ニ似タリトイヘトモ。初心ノ人ノ為ニ再ビ記スルノミ。幸ニ鄙陋ヲ責ルコトナカレ。

第一ニ淺略ト者。此地藏菩薩ハ過去無量阿僧祇ニ長者ノ子トシテ。師子奮迅具足萬行如來ノ御前ニ於テ大願ヲ發シ。又聖女トシテハ亡母ノ墮獄ヲ救ヒ。覺華定自在王如來ノ塔像ノ前ニ於テ弘誓願ヲ發シ。及ビ清淨蓮花目如來ノ法ノ中ニ於テ。不度盡衆生界不取正覺ノ願ヲ發シテヨリ已來。千万億無量阿僧祇不可說不可說恒河沙劫。猶ヲ菩薩トシテ。十方法界ノ中ニ。各百千万億ノ身ヲ現ジテ衆生ヲ救濟シ。八十百千那由多頻跋羅ノ菩薩ト共ニ南方ヨリ佉羅帝耶山ニ來リ。及ビ忉利天宮ニ來テ。世尊慇懃ノ讚歎ヲ蒙リ。如來ノ付囑ヲ受テ弥勒ノ出世マデノ一切衆生ヲ救護シ玉フ尊ナリ。是地藏十輪經。及ビ本願經。占察經等ノ所說。聲聞形ノ菩薩ナリ

第二ニ深祕ト者。此尊ハ胎藏界ニハ地藏院ノ主。金剛界ニハ南方ノ金剛幢菩薩ナリ。各寶冠形ニシテ大日如來万徳ノ中ノ悲願ノ徳ヲ主リ玉フ。是大日經金剛頂經ノ所説ナリ。十方法界ノ一切ノ諸佛菩薩ノ悲願ハ皆ナ此菩薩ニ攝スルガ故ニ深祕ナリ。第三ニ祕中深祕ト者。此尊ハ直ニ摩訶毘盧遮那如來ナリ。地ト者本不生ノ心地。即チ胎藏中臺ノ大日如來ナリ。藏ト者金剛寶藏即チ金剛界ノ大日如來ナリ。本願經ノ中ニ普賢文殊觀音弥勒等ノ菩薩ハ其願尚畢竟アツテ。地藏菩薩ニ及バズトイヘリ。是ハ此密意ナリ。宜ナルカナ及ハザルコト。上ノ四尊ハ八葉四隅ノ尊ナレバ。何ゾ中臺ノ徳ニ等シカラシヤ

第四ニ祕々中深祕ト者。此ノ尊ハ直ニ是一切衆生ノ色心ノ實相。本來常住ノ平等智身ナリ。地藏菩薩カ字ヲ種子トシ。寶

第二ニ深祕ト者。此尊ハ胎藏界ニハ地藏院ノ主。金剛界ニハ南方ノ金剛幢菩薩ナリ。各寶冠形ニシテ大日如來万徳ノ中ノ悲願ノ徳ヲ主リ玉フ。是大日經金剛頂經ノ所説ナリ。十方法界ノ一切ノ諸佛菩薩ノ悲願ハ皆ナ此菩薩ニ攝スルガ故ニ深祕ナリ。第三ニ祕中深祕ト者。此尊ハ直ニ摩訶毘盧遮那如來ナリ。地ト者本不生ノ心地。即チ胎藏中臺ノ大日如來ナリ。藏ト者金剛寶藏即チ金剛界ノ大日如來ナリ。本願經ノ中ニ普賢文殊觀音弥勒等ノ菩薩ハ其願尚畢竟アツテ。地藏菩薩ニ及バズトイヘリ。是ハ此密意ナリ。宜ナルカナ及ハザルコト。上ノ四尊ハ八葉四隅ノ尊ナレバ。何ゾ中臺ノ徳ニ等シカラシヤ

第四ニ祕々中深祕ト者。此ノ尊ハ直ニ是一切衆生ノ色心ノ實相。本來常住ノ平等智身ナリ。地藏菩薩カ字ヲ種子トシ。寶

④末31ウ

珠ヲ持ス。此ノ寶ハ即チ一切衆生ノ内心八瓣ノ堅實心ナリ。此淨菩提心ノ如意寶ヲ。人々具足シ箇々圓成スレドモ。無始ノ間隔ノ為ニ蔽シテ實ノ如クニシラズ。故ニ地藏菩薩手ニ持シテ示シ衆生ヲ引攝シ玉フ。又カ字ハ因業不可得ノ義ナリ。因不可得ナレバ果モ亦不可得ナリ。因果俱ニ不可得ナレバ。心佛衆生三平等ニシテ異アルコトナシ。又此ノカ字ハカ心ノカナルガ故ニ。即チ淨菩提心ノ如意寶珠ナリ。又カハ因縁ノ義ナリ。本願經等ニ此菩薩ハ閻浮提ノ衆生ニ於テ大因縁アリト云ハ是ナリ。此ノ大因縁ハ何事ソヤ。一切衆生ノ心直ニ是地藏菩薩ノ體ナルガ故ナリ。又一毛一滌一沙一塵ノ善モ漸ク度メ菩提ニ至ラシムト説ハ。此心ニ万徳圓滿セリ。此ヲ本有ト名ク。一毛乃至毫髮許ノ善ヲ得ルハ修生ノ初メナリ。故ニ終ニ本有ノ三身

珠ヲ持ス。此ノ寶ハ即チ一切衆生ノ内心八瓣ノ堅實心ナリ。此淨菩提心ノ如意寶ヲ。人々具足シ箇々圓成スレドモ。無始ノ間隔ノ為ニ蔽シテ實ノ如クニシラズ。故ニ地藏菩薩手ニ持シテ示シ衆生ヲ引攝シ玉フ。又カ字ハ因業不可得ノ義ナリ。因不可得ナレバ果モ亦不可得ナリ。因果俱ニ不可得ナレバ。心佛衆生三平等ニシテ異アルコトナシ。又此ノカ字ハカ心ノカナルガ故ニ。即チ淨菩提心ノ如意寶珠ナリ。又カハ因縁ノ義ナリ。本願經等ニ此菩薩ハ閻浮提ノ衆生ニ於テ大因縁アリト云ハ是ナリ。此ノ大因縁ハ何事ソヤ。一切衆生ノ心直ニ是地藏菩薩ノ體ナルガ故ナリ。又一毛一滌一沙一塵ノ善モ漸ク度シテ菩提ニ至ラシムト説ハ。此心ニ万徳圓滿セリ。此ヲ本有ト名ク。一毛乃至毫髮許ノ善ヲ得ルハ修生ノ初メナリ。故ニ終ニ本有ノ三身

④末32オ

ヲ顯現シ證得セシメ玉フナリ。大日經ニ淨菩提心ノ如意寶ハ滿
世出世勝希願ヲ除疑究竟獲三昧ノ自利利他因是生ト説
ハ是ナリ。又肉團心ニ七穴三毛アリ。中ヨリ通ズル氣ヲ悉多心
ト名ク。我等慮知分別ノ心ナリ。此ノ心外ニ現ハルハ息風トス。
息風ハ即チカ字風大無量壽命ノ體ナリ。衆生界無盡ナルガ
故ニ菩薩ノ大悲方便亦復無量壽命ト号シ。地藏菩薩ト名ク。
カ字ノ義ト同シ。地藏菩薩ノ聲聞形ハ阿弥陀佛ノ因位。寶
藏比丘ノ貌ナリトイヘリ。又カ字ニ大力堅固不動等ノ義アリ。
即チ金剛不可壞行境界三昧ナリ。又カ字ノ中ニカノ聲アリ。
又カ字ノ最初ノ横ノ一畫ハカ字ナリ。又口ヲ開ク最初ニカ
ノ聲アリ。是諸音ノ根本ナリ。次ニ轉シテ喉内ニ籠ク觸ヲカト云
摩多ノ始終ハカナリ。體文ノ始終ハカノ音ナリ。諸字諸音諸

法諸義皆此ノ二字ニ攝シ盡ス。是ヲカカ一體ノ實義ト名ク。
金剛頂經ニ曰カ字菩提心種智之本源是レ一切ノ字ノ母ト
方三世佛所説法無非此ノ字躰纏念即同稱一切如來
法此性成密言三世佛法教皆廣明此字其義説難窮
已上カ字ハ地大本初不生ノ心地カ字ハ風大如意寶金剛
寶藏ナリ。所謂ル唯心ノ弥陀己心ノ淨土。寶藏比丘ノ名義亦
近カラズヤ。又カ字ニ降伏摧破ノ義アリ。勝軍地藏ノ名義亦
宜ナラズヤ。此ノ本不生ノ心地ヲ以テ見ル時ハ阿弥陀不動
愛染等ノ尊。乃至海會ノ諸尊皆ナ地藏尊ニアラズト云フ
ナク。又赤肉團中ヲ出ズ。蓮花三昧經ニ曰ク歸命本覺眞法
身。常住妙法心蓮臺。本來具足三身德。三十七尊住心
城。普門塵數諸三昧。遠離因果法然具無邊德海本圓

ヲ顯現シ證得セシメ玉フナリ。大日經ニ淨菩提心ノ如意寶ハ滿
世出世勝希願ヲ除疑究竟獲三昧ノ自利利他因是生ト説
ハ是ナリ。又肉團心ニ七穴三毛アリ。中ヨリ通ズル氣ヲ悉多心
ト名ク。我等慮知分別ノ心ナリ。此ノ心外ニ現ハルハ息風トス。
息風ハ即チカ字風大無量壽命ノ體ナリ。衆生界無盡ナルガ
故ニ菩薩ノ大悲方便亦復無量壽命ト号シ。地藏菩薩ト名ク。
カ字ノ義ト同シ。地藏菩薩ノ聲聞形ハ阿弥陀佛ノ因位。寶
藏比丘ノ貌ナリトイヘリ。又カ字ニ大力堅固不動等ノ義アリ。
即チ金剛不可壞行境界三昧ナリ。又カ字ノ中ニカノ聲アリ。
又カ字ノ最初ノ横ノ一畫ハカ字ナリ。又口ヲ開ク最初ニカ
ノ聲アリ。是諸音ノ根本ナリ。次ニ轉シテ喉内ニ籠ク觸ヲカト云
摩多ノ始終ハカナリ。體文ノ始終ハカノ音ナリ。諸字諸音諸

法諸義皆此ノ二字ニ攝シ盡ス。是ヲカカ一體ノ實義ト名ク。
金剛頂經ニ曰カ字菩提心種智之本源是レ一切ノ字ノ母ト
方三世佛所説法無非此ノ字躰纏念即同稱一切如來
法此性成密言三世佛法教皆廣明此字其義説難窮
已上カ字ハ地大本初不生ノ心地カ字ハ風大如意寶金剛
寶藏ナリ。所謂ル唯心ノ弥陀己心ノ淨土。寶藏比丘ノ名義亦
近カラズヤ。又カ字ニ降伏摧破ノ義アリ。勝軍地藏ノ名義亦
宜ナラズヤ。此ノ本不生ノ心地ヲ以テ見ル時ハ阿弥陀不動
愛染等ノ尊。乃至海會ノ諸尊皆ナ地藏尊ニアラズト云フ
ナク。又赤肉團中ヲ出ズ。蓮花三昧經ニ曰ク歸命本覺眞法
身。常住妙法心蓮臺。本來具足三身德。三十七尊住心
城。普門塵數諸三昧。遠離因果法然具無邊德海本圓

滿還我頂禮心諸佛ト。是正レク己心ノ地藏尊ナリ。遠離
因果ト云豈カ字門ノ實義ニアラズヤ。但シ此ノ法ヲ信解
シ受持スルコト難中ノ難ナリ。上上決定ノ信解空々無著
ノ心智ニアラズンバ。誰ガ能ク難信ノ法ヲ信ジ難入ノ門ニ入ラ
ンヤ。真言ノ中ニカカカト者三乗ノ因ナリ。十輪等ノ經ニ説
ガ如シ。今因不可得ト知ルガ故ニ本有無作ナリ。カカカハ
希有ノ義ナリ。一切有情ニハ我想ノ煩惱アリ。裁カニ此ノ真言
ヲ念ジ此尊ニ歸スレバ我想即チ除ル。此ヲ希有ト云。亦是希
奇ノ義ナリ。又カカカハ三毒煩惱ノ因ナリ。カカカハ奇
哉怪哉ノ義ナリ。佛ノ常教ノ如キハ慈ヲ以テ瞋ヲ對治シ。無
貪ヲ以テ貪ヲ治シ。正見ヲ以テ邪見ヲ治ス。密教ハ然ラズ。大
貪ヲ以テ一切ノ貪ヲ除キ。大瞋ヲ以テ一切ノ瞋ヲ治シ。自性

鈍ノ大癡ヲ以テ一切ノ癡ヲ破ス。三毒ノ體性ハ三部ノ佛徳ナ
リト覺ル。此法門最モ難解難信ナリ故ニ奇哉怪哉ト云。又
カカカハ笑聲ナリ。若人オニ此尊ニ歸依シ此真言ヲ持念
スレバ。一切ノ願望速疾ニ成就ノ歡喜スルガ故ナリ。是ヲ幢上ノ
如意霽ノ衆生ノ願ヒニ隨テ一切ノ寶ヲ雨シテ饒益スルニ喻
フ。即チ此位ヲ南方ノ金剛笑菩薩ト名ク。敬テ十方求佛ノ
客ニ告ク勤メテ精進シテ此ノ醍醐ノ妙味ヲ嘗メヨ。若シ善男
善女有テオカニ此ノ門ニ入レバ則チ三大僧祇ヲ一念ノカ字
ニ超。無量ノ福智ヲ三密ノ金剛ニ具ス。八万ノ塵勞ハ變シテ醍醐
トナリ。五蘊ノ旃陀ハ忽チニ佛慧トナル。開口發聲ハ真言ニシテ
罪ヲ滅シ。舉手動足ハ印契ヲ福ヲ増ス。心ノ起ストコロ妙觀
自ラ生ジ。意ノ趣ク所口等持即チ成ル。貧女ガ穢庭ニ忽チニ

滿スレハ。還我レ頂禮ス心ノ諸佛ト。是正レク己心ノ地藏尊ナリ。遠離
因果ト云豈カ字門ノ實義ニアラズヤ。但シ此ノ法ヲ信解
シ受持スルコト難中ノ難ナリ。上上決定ノ信解空々無著
ノ心智ニアラズンバ。誰ガ能ク難信ノ法ヲ信ジ難入ノ門ニ入ラ
ンヤ。真言ノ中ニカカカト者三乗ノ因ナリ。十輪等ノ經ニ説
ガ如シ。今因不可得ト知ルガ故ニ本有無作ナリ。カカカハ
希有ノ義ナリ。一切有情ニハ我想ノ煩惱アリ。裁カニ此ノ真言
ヲ念ジ此尊ニ歸スレバ我想即チ除ル。此ヲ希有ト云。亦是希
奇ノ義ナリ。又カカカハ三毒煩惱ノ因ナリ。カカカハ奇
哉怪哉ノ義ナリ。佛ノ常教ノ如キハ慈ヲ以テ瞋ヲ對治シ。無
貪ヲ以テ貪ヲ治シ。正見ヲ以テ邪見ヲ治ス。密教ハ然ラズ。大
貪ヲ以テ一切ノ貪ヲ除キ。大瞋ヲ以テ一切ノ瞋ヲ治シ。自性

鈍ノ大癡ヲ以テ一切ノ癡ヲ破ス。三毒ノ體性ハ三部ノ佛徳ナ
リト覺ル。此法門最モ難解難信ナリ故ニ奇哉怪哉ト云。又
カカカハ笑聲ナリ。若人オニ此尊ニ歸依シ此真言ヲ持念
スレバ。一切ノ願望速疾ニ成就シテ歡喜スルガ故ナリ。是ヲ幢上ノ
如意霽ノ衆生ノ願ヒニ隨テ一切ノ寶ヲ雨シテ饒益スルニ喻
フ。即チ此位ヲ南方ノ金剛笑菩薩ト名ク。敬テ十方求佛ノ
客ニ告ク勤メテ精進シテ此ノ醍醐ノ妙味ヲ嘗メヨ。若シ善男
善女有テオカニ此ノ門ニ入レバ則チ三大僧祇ヲ一念ノカ字
ニ超。無量ノ福智ヲ三密ノ金剛ニ具ス。八万ノ塵勞ハ變シテ醍醐
トナリ。五蘊ノ旃陀ハ忽チニ佛慧トナル。開口發聲ハ真言ニシテ
罪ヲ滅シ。舉手動足ハ印契ニシテ福ヲ増ス。心ノ起ストコロ妙觀
自ラ生ジ。意ノ趣ク所口等持即チ成ル。貧女ガ穢庭ニ忽チニ

如意幢ヲ建テ。無明ノ暗室ニ乍チニ日月ノ燈ヲ懸ク。四種ノ魔軍旗ヲ靡カシテ面縛シ。六境ノ猥賊黨ヲ率キテ入附ス。心王ノ國土無爲ノ樂シミ踵スヲ旋スニ期シツベシ。四種法身恆沙ノ徳即身ニ自ラ得タリ。故ニ文ニ曰ク於顯教ニ修行スル者經三大劫難行苦行或得或不得。真言門ニ行菩薩行諸菩薩無量無數劫所積集修行無量功德智慧皆悉成就。文地藏祕密ノ大意蓋シ斯ノ如シ。此ノ己心ノ地藏ヲ知ラズノ自ラ種々ノ業ヲ作テ三途ニ墮スルコト。彼ノ無知ノ繪師ノ自ラ衆綵ヲ以テ可畏ノ夜又ノ形ヲ描キ。描キ畢テ恐レテ地ニ躡レテ苦シムガ如ク。又暗中ニ利寶ノ爲ニ傷ラレテ。謬テ毒蛇ナリト思テ毒氣深ク入ルガ如シ。故ニ地藏菩薩種々ノ方便ヲ以テ利濟シ。地獄ニ入テハ乃至其ノ重苦ニ代リ玉フト。未來際ヲ

盡スニテ休息アルコトナシ。其餘ノ印真言三摩地等ノ奧義無量無邊ナリ。未灌頂ノ人ニ向テハ説ベカラズ。明師ニ逢テ問ベシ。謬見ヲ生ズルコトナカレ

一日稱地藏 功德大名聞

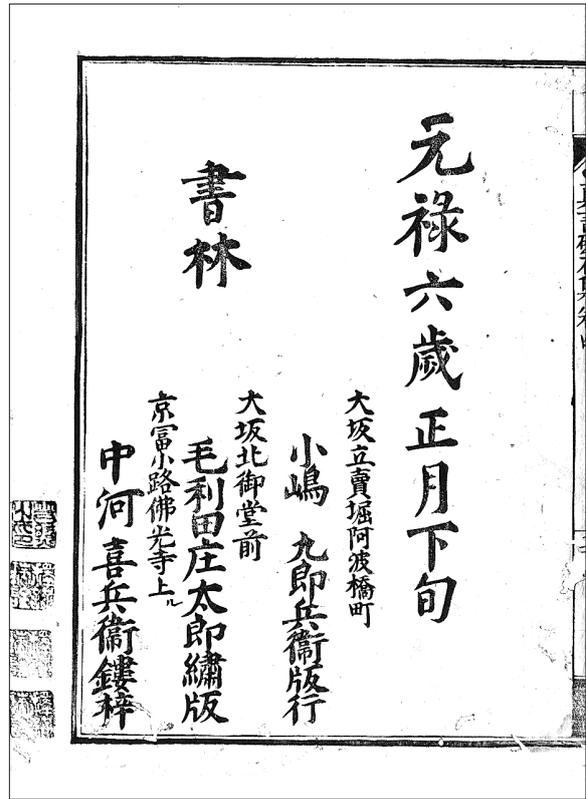
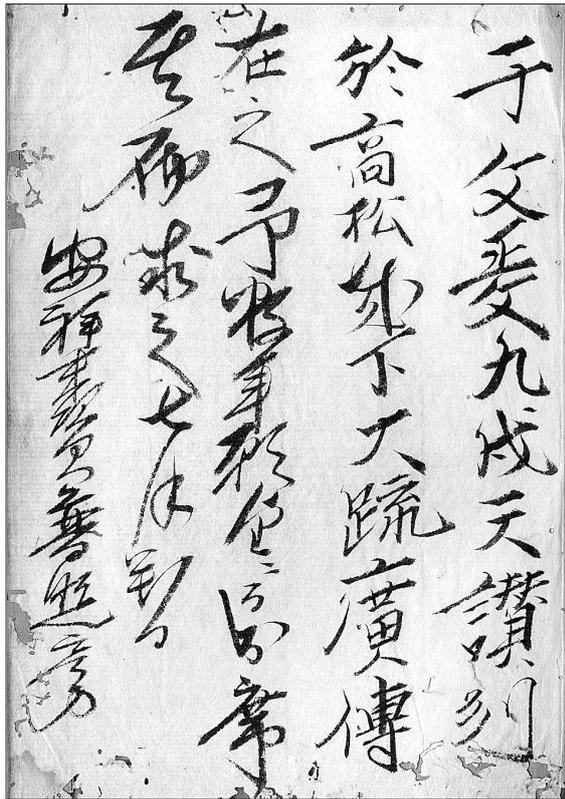
勝俱胝劫中 稱餘智者徳

如意幢ヲ建テ。無明ノ暗室ニ乍チニ日月ノ燈ヲ懸ク。四種ノ魔軍旗ヲ靡カシテ面縛シ。六境ノ猥賊黨ヲ率キテ入附ス。心王ノ國土無爲ノ樂シミ踵スヲ旋スニ期シツベシ。四種法身恆沙ノ徳即身ニ自ラ得タリ。故ニ文ニ曰ク於顯教ニ修行スル者經三大劫難行苦行或得或不得。真言門ニ行菩薩行諸菩薩無量無數劫所積集修行無量功德智慧皆悉成就。文地藏祕密ノ大意蓋シ斯ノ如シ。此ノ己心ノ地藏ヲ知ラズノ自ラ種々ノ業ヲ作テ三途ニ墮スルコト。彼ノ無知ノ繪師ノ自ラ衆綵ヲ以テ可畏ノ夜又ノ形ヲ描キ。描キ畢テ恐レテ地ニ躡レテ苦シムガ如ク。又暗中ニ利寶ノ爲ニ傷ラレテ。謬テ毒蛇ナリト思テ毒氣深ク入ルガ如シ。故ニ地藏菩薩種々ノ方便ヲ以テ利濟シ。地獄ニ入テハ乃至其ノ重苦ニ代リ玉フト。未來際ヲ

盡スマデ休息アルコトナシ。其餘ノ印真言三摩地等ノ奧義無量無邊ナリ。未灌頂ノ人ニ向テハ説ベカラズ。明師ニ逢テ問ベシ。謬見ヲ生ズルコトナカレ

一日稱地藏 功德大名聞

勝俱胝劫中 稱餘智者徳



于文政九戌天讚州
於高松城下大疏廣傳
在之予數年願望三而出席
其砌求之七月朔日
安祥末資普照房

書林

元祿六歲正月下旬
大坂立賣堀阿波橋町
小嶋 九郎兵衛版行
大坂北御堂前
毛利田庄太郎繡版
京富小路佛光寺上
中河喜兵衛鏤梓

普照
之印 (印)

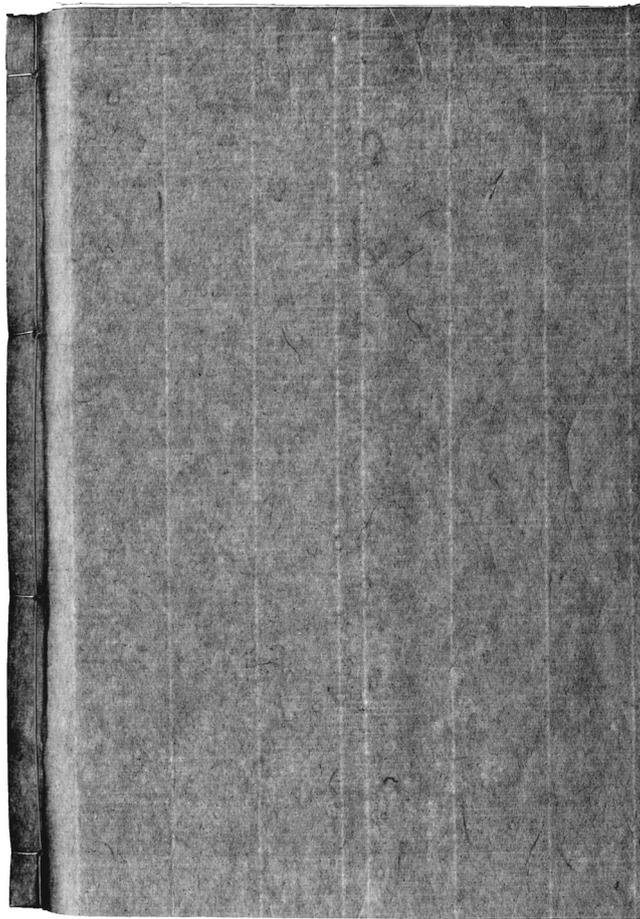
釋
瑞詮 (印)

釋
瑞詮 (印)

釋
瑞詮 (印)

④末35ウ

④裏表紙見返

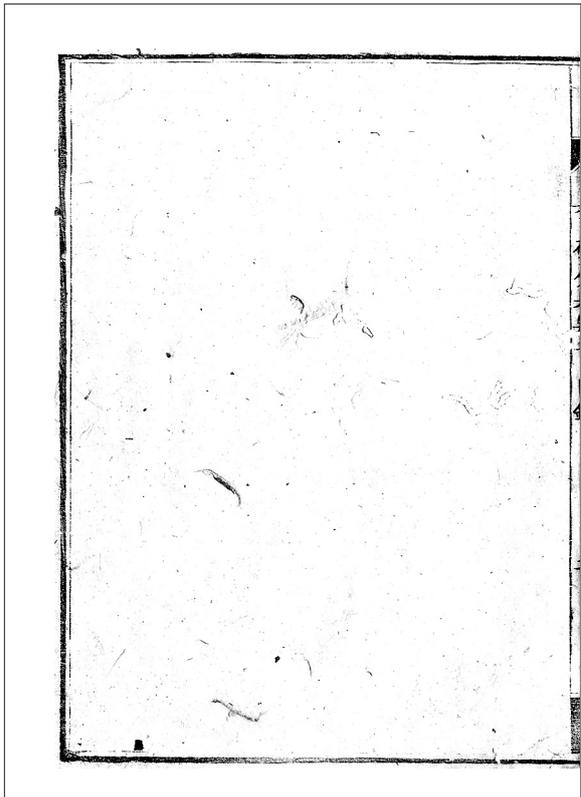


④裏表紙

三版本『真言礦石集』第一卷第一話

【翻刻凡例】

1. 底本には宮島コレクション所蔵本を用いた。
2. 原文を尊重し、表記上明らかに誤りと認められる場合も、正すことをしなかった。
3. 通行の文字表記を用いて翻刻したが、固有名詞は必要に応じて原文字体のままとした。
4. 清濁・句点・読点は原文のままとした。
5. 右ルビは原文のままに付したが、左ルビは当該語句に続いて括弧内に小字で示した。
6. 判読不能の箇所は□で示した。



真言礦石集第一

蓮體輯

地蔵菩薩種々利益ノ事
 夫地藏菩薩ハ過去不可思議阿僧祇劫ニ國王トナリ。又大長者ノ子ト生レテ。大悲願ヲ起シ。又聖女光目女トシテ。亡母ノ地獄ノ苦ヲ救ヒ玉ヒ。不度衆生界盡不取正覺ノ大誓願ヲ立玉フ事。十輪經並ニ本願經ノ説分明ナレバ。勞シク書頭スニ及バズ。毎日晨朝ニ恒河沙等ノ定ニ入テ。所度ノ機ヲ觀シ。恒河沙等ノ身ヲ現ジテ。各各ニ恒河沙等ノ世界ニ於テ。各各ニ恒河沙等ノ衆生ヲ濟度シ玉フ。豈三十三身ノミナランヤ。無邊ノ身ヲ現ジテ。種々ノ趣ニ應ジテ。拔苦與樂シ玉フ。天竺ニテハ伽羅帝耶山ハ所居ノ淨土ナリ。真丹ニテハ池州ノ青陽縣ノ南。九華山ハ分身金

真言礦石集第一

真言礦石集第一

蓮體輯

地蔵菩薩種々利益ノ事
 夫地藏菩薩ハ。過去不可思議阿僧祇劫ニ國王トナリ。又大長者ノ子ト生レテ。大悲願ヲ起シ。又聖女光目女トシテ。亡母ノ地獄ノ苦ヲ救ヒ玉ヒ。不度衆生界一尽不レトノ取正覺ノ大誓願ヲ立玉フ事。十輪經並ニ本願經ノ説分明ナレバ。勞シク書頭スニ及バズ。毎日晨朝ニ恒河沙等ノ定ニ入テ。所度ノ機ヲ觀シ。恒河沙等ノ身ヲ現ジテ。各各ニ恒河沙等ノ世界ニ於テ。各各ニ恒河沙等ノ衆生ヲ濟度シ玉フ。豈三十三身ノミナランヤ。無邊ノ身ヲ現ジテ。種々ノ趣ニ應ジテ。拔苦與樂シ玉フ。天竺ニテハ伽羅帝耶山ハ所居ノ淨土ナリ。真丹ニテハ池州ノ青陽縣ノ南。九華山ハ分身金

三版①01才

三版見返

地藏所住ノ靈區ナリ。昔ハ九子山ト名ク。唐ノ李太白來テ
山ノ峯蓮華ニ似タルヲ以テ。改メテ九華山ト号ストイヘリ。或人
朝鮮ノ李學士ニ金地藏ノ事跡ヲ問。李氏答テ曰ク。唐ノ
初新羅國敬順王金傳ノ子。宗社ノ亡ルヲ見ニ忍ズ。二十四
歳ニシテ出家シ。金剛山ノ百川洞ニ隱レ。岩居シテ道ヲ修スル
コト三十年。國民蠲慕シテ。城ヲ築テ護ルヲ以テ。喧ヲ厭ヒ白
犬善聽ト云ヲ携テ海ヲ渡リ。唐ノ肅宗ノ至德二年ニ。五十三
ニシテ。九華山ニ入テ住ス。或時村人鹿ヲ追テ山ニ入り見レバ。岩
間ノ白土ヲ飯ニ雜ヘテ食シテ。常ニ坐禪シ玉ヘバ驚歎セズト云
コトナシ。後ニ閣老閔公ニ隨テ。袈裟ヲ覆バカリノ地ヲ乞玉フ。公
許スニ袈裟普ク九華ヲ覆フニ依テ。公歎伏シテ皆喜捨ス。諸人
德風ニ靡テ化城寺ヲ創メテ居ス。新羅此ヲ聞テ海ヲ渡テ

投歸スル者許多。寺院繁富シテ百楹ニ餘レリ。德宗ノ朝ニ張公
嚴此州ニ知タル時。奏シテ額ヲ改メテ官寺トセリ。終ニ貞元十
九年六月廿四日。九十九歳ニシテ寂ス。全身散ゼザレバ。瑩ヲ
築テ寔ル。費冠卿事ヲ序シテ存ゼリ。後ニ墳塔頻リニ光リヲ
放ツ。故ニ其処ヲ神光嶺ト号ス。是レ地藏菩薩ノ應身ナリ。宋高
僧傳ノ二十。大明一統志ノ十六ニ傳アリ。三才圖會ノ七ニ山
ノ圖アリ。山高コト数千丈。中央ニ一ノ峯アリ。四方ニ八峯圍繞
セリ。蓋シテ神仙ノ所居ニシテ。八十餘ノ峯巒峭壁岩洞。飛泉。怪
石。具ニ記シガタシ。又唐詩英華集ノ中ニ。金地藏ノ詩一律ヲ載ス。
格律高奇ナリ。日本ニテハ。淨藏貴所ハ。地藏ノ化身ナリトイヘ
リ。寔ニ是大倉ノ一粟。恒河ノ一沙ナリ。其ノ顯レザルモノ。幾百千
萬ト云コトヲ知カガタシ。殊ニ神明權現多ハ佛菩薩ノ垂迹ナレバ。

地藏所住ノ靈區ナリ。昔ハ九子山ト名ク。唐ノ李太白來テ
山ノ峯蓮華ニ似タルヲ以テ。改メテ九華山ト号ストイヘリ。或人
朝鮮ノ李學士ニ。金地藏ノ事跡ヲ問。李氏答テ曰ク。唐ノ
初新羅國敬順王金傳ノ子。宗社ノ亡ルヲ見ニ忍ズ。二十四
歳ニシテ出家シ。金剛山ノ百川洞ニ隱レ。岩居シテ道ヲ修スル
コト三十年。國民蠲慕シテ。城ヲ築テ護ルヲ以テ。喧ヲ厭ヒ白
犬善聽ト云ヲ携テ海ヲ渡リ。唐ノ肅宗ノ至德二年ニ。五十三
ニシテ。九華山ニ入テ住ス。或時村人鹿ヲ追テ山ニ入り見レバ。岩
間ノ白土ヲ飯ニ雜ヘテ食シテ。常ニ坐禪シ玉ヘバ驚歎セズト云
コトナシ。後ニ閣老閔公ニ隨テ。袈裟ヲ覆バカリノ地ヲ乞玉フ。公
許スニ袈裟普ク九華ヲ覆フニ依テ。公歎伏シテ皆喜捨ス。諸人
德風ニ靡テ化城寺ヲ創メテ居ス。新羅此ヲ聞テ海ヲ渡テ

投歸スル者許多。寺院繁富シテ百楹ニ餘レリ。德宗ノ朝ニ張公
嚴。此州ニ知タル時。奏シテ額ヲ改メテ官寺トセリ。終ニ貞元十
九年六月廿四日。九十九歳ニシテ寂ス。全身散ゼザレバ。瑩ヲ
築テ寔ル。費冠卿事ヲ序シテ存ゼリ。後ニ墳塔頻リニ光リヲ
放ツ。故ニ其処ヲ神光嶺ト号ス。是レ地藏菩薩ノ應身ナリ。宋高
僧傳ノ二十。大明一統志ノ十六ニ傳アリ。三才圖會ノ七ニ山
ノ圖アリ。山高コト数千丈。中央ニ一ノ峯アリ。四方ニ八峯圍繞
セリ。蓋シテ神仙ノ所居ニシテ。八十餘ノ峯巒峭壁岩洞。飛泉。怪
石。具ニ記シガタシ。又唐詩英華集ノ中ニ。金地藏ノ詩一律ヲ載ス。
格律高奇ナリ。日本ニテハ。淨藏貴所ハ。地藏ノ化身ナリトイヘ
リ。寔ニ是大倉ノ一粟。恒河ノ一沙ナリ。其ノ顯レザルモノ。幾百千
萬ト云コトヲ知カガタシ。殊ニ神明權現多ハ佛菩薩ノ垂迹ナレバ。

其ノ内証ヲ量リタタニ往古ヨリ山城ノ愛宕山。伯耆ノ大山。下野ノ岩船。伊豆ノ木崎ノ明神等ハ。地藏権現ナリトイヘリ。具ニ記スルコトアタハズ。且ク一二ヲ述ルノミ。阿波國住吉郡。徳成寺ノ地藏菩薩ハ。高祖大師ノ御作ナリ。昔シ永祿中ニ。大守三好實休長治。共ニ暴虐ニシテ。或年ノ暮。徳成寺ノ僧ヲ差テ。京都ノ三好長慶カ許ニ使セシム。僧頻ニ歎トモ不可。僧大ニ悲シテ。文箱ヲ持シテ歸リ。本尊ノ前ニ置テ泣テ曰ク。國主我ヲシテ。京都ニ使セシム。窮陰晦朔ニ連リ。積雪山川ニ遍シ。豪客路ニ塞ツテ。風濤海惡シ。禪誦ヲ止テ。危險ヲ越ユ。宿業ノ果ストコロ。嗚呼如何セント。至心ニ懺悔シテ臥シ。明日發セントシテ。文箱ヲ見ルニ。長慶ガ返東ナリ。僧大ニ驚テ三好ニ白ス。三好封ヲ發キ見ルニ。實ニ返東ナリケレバ。地藏ノ神變ヲ感

ジテ。後ニ長慶ニ逢テ問ニ。其夜一リノ僧。文箱ヲ持テ參スルガ故ニ。返答セリト云。時刻ヲ考レバ。符節ヲ合セタルガ如シ。故ニ文使ノ地藏ト号ス。予曾テ此尊像ヲ拜シ。面會寺僧ノ説ヲ聞リ。殊勝ノ靈像ナリ。○又高野山ニ。靈像多シ。中ニモ地藏院ノ地藏ハ。地藏房仁濟ノ持尊ニシテ。小野ノ篁ノ作ナリ。嘉元中ニ。池魚ノ災アツテ。移シテ補陀洛院ニ安置スルコト三年。後ニ地藏院ニ還シ。安ゼントス。薩埵夢中ニ。院主慶賢ニ。四印ニ明ヲ授ケ玉フ。今ニ相傳セリ。又何ノ時代ニカ。關東下妻ノ領主。田賀谷大夫。高野ニ詣セントテ。紀川ノ邊ニ來ラシニ。洪水ニテ渡ルコトヲ得ズ。空シク歸ントセラレシ時。小僧一人。船ニ棹來テ。大夫ヲ渡シ。同道シテ地藏院ニ到ル。大夫大ニ悦ビ。寺僧ニ問フニ。小僧ヲ知スト云。大夫怪シテ。後ニ堂ヲ拜スルニ。小サキ跡アツテ泥著タリ。

其ノ内証ヲ量リガタシ。往古ヨリ山城ノ愛宕山。伯耆ノ大山。下野ノ岩船。伊豆ノ木崎ノ明神等ハ。地藏権現ナリトイヘリ。具ニ記スルコトアタハズ。且ク一二ヲ述ルノミ。阿波國住吉郡。徳成寺ノ地藏菩薩ハ。高祖大師ノ御作ナリ。昔シ永祿中ニ。大守三好實休長治。共ニ暴虐ニシテ。或年ノ暮。徳成寺ノ僧ヲ差テ。京都ノ三好長慶カ許ニ使セシム。僧頻ニ歎トモ不可。僧大ニ悲シテ。文箱ヲ持シテ歸リ。本尊ノ前ニ置テ泣テ曰ク。國主我ヲシテ。京都ニ使セシム。窮陰晦朔ニ連リ。積雪山川ニ遍シ。豪客路ニ塞ツテ。風濤海惡シ。禪誦ヲ止テ。危險ヲ越ユ。宿業ノ果ストコロ。嗚呼如何セント。至心ニ懺悔シテ臥シ。明日發セントシテ。文箱ヲ見ルニ。長慶ガ返東ナリ。僧大ニ驚テ三好ニ白ス。三好封ヲ發キ見ルニ。實ニ返東ナリケレバ。地藏ノ神變ヲ感

ジテ。後ニ長慶ニ逢テ問ニ。其夜一リノ僧。文箱ヲ持テ參スルガ故ニ。返答セリト云。時刻ヲ考レバ。符節ヲ合セタルガ如シ。故ニ文使ノ地藏ト号ス。予曾テ此尊像ヲ拜シ。面會寺僧ノ説ヲ聞リ。殊勝ノ靈像ナリ。○又高野山ニ。靈像多シ。中ニモ地藏院ノ地藏ハ。地藏房仁濟ノ持尊ニシテ。小野ノ篁ノ作ナリ。嘉元中ニ。池魚ノ災アツテ。移シテ補陀洛院ニ安置スルコト三年。後ニ地藏院ニ還シ。安ゼントスルニ。薩埵夢中ニ。院主慶賢ニ。四印ニ明ヲ授ケ玉フ。今ニ相傳セリ。又何ノ時代ニカ。關東下妻ノ領主。田賀谷大夫。高野ニ詣セントテ。紀川ノ邊ニ來ラシニ。洪水ニテ渡ルコトヲ得ズ。空シク歸ントセラレシ時。小僧一人。船ニ棹來テ。大夫ヲ渡シ。同道シテ地藏院ニ到ル。大夫大ニ悦ビ。寺僧ニ問フニ。小僧ヲ知スト云。大夫怪シテ。後ニ堂ヲ拜スルニ。小サキ跡アツテ泥著タリ。

正シク此ノ尊像ノ小僧ト現ジテ引導シ玉フコト疑ナシトテ。感涙ヲ流シテ信伏シ。國ニ歸リテ後領分ノ人ヲシテ。皆永代此院ノ檀越トセリトカヤ。○又最勝院ノ地藏尊ハ。曩代住持ノ僧貧ニシテ。獨住セル時。小僧ノ身ヲ現ジテ薪ヲ採。火ヲ燒テ僧ヲシテ背炙リ臥シメ玉フ。後ニ尊像ヲ拜スルニ。面貌煙ニフスボリ。手足灰炭ニ穢サセ玉フトイヘリ。○又花王院ノ地藏尊ハ。土佐國金剛頂寺ノ千體ノ中ノ一尊ナリ。大師ノ御作ニシテ。御長九寸六分ナリ。然ルニ何ナル故ニカ。紀伊國海士ノ郡ニ鹽ヲ燒テ。世ヲ渡ル姥カ家ニ。二體ヲ求メ得テ小棚ニ安置シテ。此ヲ棚佛ト号シテ。朝夕食物ノ上分ヲ供養ジケリ。文永七年五月雨ノ日。其処ノ地頭ノ計ニテ。葛城ノ麓ニテ。女谷ト云山一所ヲ。鹽木ノ料ニ充免シケレバ。

村人羣集リテ恣ニ刈取ケル老婆足立ズシテ泣テ曰ク。我久シク佛ニ仕マツレドモ。木像ホド無聊モノハアラジ。我が為ニ少シキ薪ヲコリ玉フ事モナシト。闔ヲ枕トシテ臥シケレバ。妻ニ小法師二人婆カ上ヲ胯ゲテ外ニ出玉ヒ。暫アツテ復胯ゲ越テ内ニ歸リ入玉ヘリ。一人ノ小僧婆ニ告玉ハク。汝ガ望ムトコロノ鹽木ハ刈テ来ヌト。婆驚キ覺テ見ニ。薪櫓ニ等シク積重ネタリ。尊像ヲ拜ムニ手足ニ泥著タリケル。此ヨリ木積ノ地藏ト号ストカヤ。後ニ故アツテ此院ニ相傳シ供養ジ奉ル。具ニハ通念集ニ見タリ。○又十輪院ノ地藏尊ハ。大師ノ御作ナリ。或時光棍窺ヒ来ツテ。院主ヲ害セントスルニ。僧ハ臥具ヲ蒙リ臥タリ。賊此ヲ見バ。最美若ナル小僧ナリ。サテハ人違ヘリト思ヒ。小僧ヲ覺シ院主ノ臥処ヲ問ント。

正シク此ノ尊像ノ小僧ト現ジテ。引導シ玉フコト疑ナシトテ。感涙ヲ流シテ信伏シ。國ニ歸リテ後。領分ノ人ヲシテ。皆永代此院ノ檀越トセリトカヤ。○又最勝院ノ地藏尊ハ。曩代住持ノ僧貧ニシテ。獨住セル時。小僧ノ身ヲ現ジテ薪ヲ採。火ヲ燒テ僧ヲシテ背炙リ臥シメ玉フ。後ニ尊像ヲ拜スルニ。面貌煙ニフスボリ。手足灰炭ニ穢サセ玉フトイヘリ。○又花王院ノ地藏尊ハ。土佐國金剛頂寺ノ千體ノ中ノ一尊ナリ。大師ノ御作ニシテ。御長九寸六分ナリ。然ルニ何ナル故ニカ。紀伊國海士ノ郡ニ鹽ヲ燒テ。世ヲ渡ル姥カ家ニ。二體ヲ求メ得テ小棚ニ安置シテ。此ヲ棚佛ト号シテ。朝夕食物ノ上分ヲ供養ジケリ。文永七年五月雨ノ日。其処ノ地頭ノ計ニテ。葛城ノ麓ニテ。女谷ト云山一所ヲ。鹽木ノ料ニ充免シケレバ。

村人羣集リテ恣ニ刈取ケル。老婆足立ズシテ泣テ曰ク。我久シク佛ニ仕マツレドモ。木像ホド無聊モノハアラジ。我が為ニ少シキ薪ヲコリ玉フ事モナシト。闔ヲ枕トシテ臥シケレバ。妻ニ小法師二人婆カ上ヲ胯ゲテ外ニ出玉ヒ。暫アツテ復胯ゲ越テ内ニ歸リ入玉ヘリ。一人ノ小僧婆ニ告玉ハク。汝ガ望ムトコロノ鹽木ハ刈テ来ヌト。婆驚キ覺テ見ニ。薪櫓ニ等シク積重ネタリ。尊像ヲ拜ムニ手足ニ泥著タリケル。此ヨリ木積ノ地藏ト号ストカヤ。後ニ故アツテ此院ニ相傳シ供養ジ奉ル。具ニハ通念集ニ見タリ。○又十輪院ノ地藏尊ハ。大師ノ御作ナリ。或時光棍窺ヒ来ツテ。院主ヲ害セントスルニ。僧ハ臥具ヲ蒙リ臥タリ。賊此ヲ見バ。最美若ナル小僧ナリ。サテハ人違ヘリト思ヒ。小僧ヲ覺シ院主ノ臥処ヲ問ント。

拏起シテ見レバ。地藏菩薩ノ尊像ナリ。賊大ニ驚キ慚愧ノ
涙ヲ流スニ。伽子トモ目ヲ覺シテ賊ヲ捉フ。賊始メヨリノ事ヲ
語りテワビコトストイヘリ。又一代ノ住持三冬ノ嚴寒ニ伽子ニ
課セテ曰ク。地藏菩薩ハ。毎日晨朝ニ六道ノ衆生ヲ濟度ニ
出玉フ間。庭上ノ雪ヲ搔除ヨトテ。毎朝払ハシメラレケレバ。
僕豎大ニ苦シミテ。一日ツブヤキケルハ。地藏ノイハレザル朝ア
ルキシ玉フ故ニ。吾們寒ヲ侵シテ掃治ス。責テ一度ハ自らモ
雪カキ玉ヘカシト云テ。庭ニ出テ見レバ。何人ノ掃除セルヤラ
ン。皆掃ヒ弃タリ。大ニ怪ンテ堂ノ櫺ヲ見ルニ雪アリ。内
陣マデ足跡アリ。知又此尊像ノ自ら雪ヲ掃ヒ玉フナリ
トテ。涙ヲ流シテ貴ミケリ。其ヨリ雪カキ地藏ト号ス
イヘリ。○又清雲院ハ。昔ハ花園院ト号ス。本尊地藏菩薩

薩ハ持經上人ノ安置シ玉ヘルナリ。毎年八月二十一日
ヨリ。晦日マデノ勸學院ノ講談ハ。一山ノ大役ニテ。毎歳十
人。二十五卷ノ本書ヲ誦誦シテ。鬪取ニシテ誦ニ講ズルナ
レバ。魯鈍ノ人ノ勤ムルコトアタハサル。晴ノ儀ナリ。能ク講ジ畢
ルコト三年スレバ。學頭ト成。後ニハ一山ノ貫首ニ進ムナリ。一
代ノ住持常ニ此尊像ニ祈誓シテ。恙ナク勸學院ノ學頭ヲ
勤メ畢シメ玉ヘト祈ルニ。其日ニ至テ此僧鬪ヲ取り當レリ。
大ニ愁ヘテ至心ニ祈念スルニ。背後ニ一リノ僧アリ。衆人ノ眼ニ
ニハ見ザレドモ。無碍ノ妙弁ヲ以テ。深義ヲ談説スルコト。妙吉
滿慈モカクヤト。諸衆驚歎セズト云コトナシ。已ノ刻ヨリ申ノ
刻ノ終リニ至ルマデ。宣暢スルコト懸河ノゴトシ。尔時上座ノ
曰ク。日既ニ曛ナントス。講ヲ止玉ヘ。明日ノ講讀無ニシモアラ

ヒキテ見レバ。地藏菩薩ノ尊像ナリ。賊大ニ驚キ慚愧ノ
涙ヲ流スニ。伽子トモ目ヲ覺シテ賊ヲ捉フ。賊始メヨリノ事ヲ
語りテワビコトストイヘリ。又一代ノ住持三冬ノ嚴寒ニ伽子ニ
課セテ曰ク。地藏菩薩ハ。毎日晨朝ニ六道ノ衆生ヲ濟度ニ
出玉フ間。庭上ノ雪ヲ搔除ヨトテ。毎朝払ハシメラレケレバ。
僕豎大ニ苦シミテ。一日ツブヤキケルハ。地藏ノイハレザル朝ア
ルキシ玉フ故ニ。吾們寒ヲ侵シテ掃治ス。責テ一度ハ自らモ
雪カキ玉ヘカシト云テ。庭ニ出テ見レバ。何人ノ掃除セルヤラ
ン。皆掃ヒ弃タリ。大ニ怪ンテ堂ノ櫺ヲ見ルニ雪アリ。内
陣マデ足跡アリ。知又此尊像ノ自ら雪ヲ掃ヒ玉フナリ
トテ。涙ヲ流シテ貴ミケリ。其ヨリ雪カキ地藏ト号ス
イヘリ。○又清雲院ハ。昔ハ花園院ト号ス。本尊地藏菩薩

薩ハ。持經上人ノ安置シ玉ヘルナリ。毎年八月二十一日
ヨリ。晦日マデノ勸學院ノ講談ハ。一山ノ大役ニテ。毎歳十
人。二十五卷ノ本書ヲ誦誦シテ。鬪取ニシテ誦ニ講ズルナ
レバ。魯鈍ノ人ノ勤ムルコトアタハサル。晴ノ儀ナリ。能ク講ジ畢
ルコト三年スレバ。學頭ト成。後ニハ一山ノ貫首ニ進ムナリ。一
代ノ住持常ニ此尊像ニ祈誓シテ。恙ナク勸學院ノ學頭ヲ
勤メ畢シメ玉ヘト祈ルニ。其日ニ至テ此僧鬪ヲ取り當レリ。
大ニ愁ヘテ至心ニ祈念スルニ。背後ニ一リノ僧アリ。衆人ノ眼ニ
ニハ見ザレドモ。無碍ノ妙弁ヲ以テ。深義ヲ談説スルコト。妙吉
滿慈モカクヤト。諸衆驚歎セズト云コトナシ。已ノ刻ヨリ申ノ
刻ノ終リニ至ルマデ。宣暢スルコト懸河ノゴトシ。尔時上座ノ
曰ク。日既ニ曛ナントス。講ヲ止玉ヘ。明日ノ講讀無ニシモアラ

ズトアリケレハ案ニ然ナリトテ止ラレケル諸衆ハ此ノ院主ノ記憶弁才ヲ感歎シケルニ。実ニハ本尊地藏菩薩背後ヨリ講ジ玉ヘルナリト。後ニハ思ヒ知りケリ。尔ヨリコノカタ勸學院ノ講ヲ勤ル僧ハ必ズ此尊像ニ祈念ストイヘリ。○又養泉院ノ地藏尊ハ相傳ヘテ曰ク小野ノ篁ノ作ナリト。何ノコロニカアリケン。寺ノ傍ニ菩提心ヲ祈求スル僧アリ。然レドモ天性慈悲少クシテ慢心多シ。或夜夢トモナク幻トモナク。化人來リテ我が往処ニ誘ハントテ。一ツノ曠野ニツレユイテ曰ク。是六道ノ街ナリ。汝常ニ我ヲ供養ストイヘドモ。惡心未ダ除カザレバ。今三途ノ苦患ヲ見セテ。速カニ菩提心ヲ起サシメンガ為ニ。具シテ來レリトテ。刀山劔樹鑊湯爐炭灰河糞屎銅柱鐵床ノ報。一百三十六地獄ノ苦相ヲ見セ

シメ玉ヘバ。此僧身ノ毛豎チテ惡心ヲ斷ジ勇猛ノ菩提心ヲ起ス。時ニ化人即チ地藏菩薩ト成テ。善哉々々自今已後只今ノ心ヲ退スルコトナカレ。必ズ仏土ニ生ジテ證果スベシト。宣フト思ヘバ夢サメヌ。僧大ニ啼泣シテ信心怠ラズ。精進ニ勤修シテ。臨終正念ニ密嚴佛國ニ往生ストイヘリ。○又山ノ堂ノ地藏尊ハ。高祖大師ノ御作ナリ。昔シ貧僧アリ。毎夜此尊像ニ參籠シテ。福ヲ祈リシカバ。或時菩薩ノ御手ヨリ如意寶珠ヲ授ケ玉フト夢ミテ後。衣服財貨穀米珍寶庫藏ニ充溢セリ。サレバ振古富テ驕ラザルモノマレナレバ。此僧モ後ニハ心懈リ。放逸ニシテ奢後ヲ極メケルホドニ。菩薩夢ニ見サセ玉ヒ告玉ハク。汝ニ世福ヲ與ヘヌレバ。未來ノ苦果ヲ忘レテ。懈怠緩慢ニシテ種々ノ惡業ヲ造ル

ズトアリケレバ。案ニ然ナリトテ止ラレケル。諸衆ハ此ノ院主ノ記憶弁才ヲ感歎シケルニ。実ニハ本尊地藏菩薩背後ヨリ講ジ玉ヘルナリト。後ニハ思ヒ知りケリ。尔ヨリコノカタ勸學院ノ講ヲ勤ル僧ハ。必ズ此尊像ニ祈念ストイヘリ。○又養泉院ノ地藏尊ハ。相傳ヘテ曰ク小野ノ篁ノ作ナリト。何ノコロニカアリケン。寺ノ傍ニ菩提心ヲ祈求スル僧アリ。然レドモ天性慈悲少クシテ慢心多シ。或夜夢トモナク幻トモナク。化人來リテ我が往処ニ誘ハントテ。一ツノ曠野ニツレユイテ曰ク。是六道ノ街ナリ。汝常ニ我ヲ供養ストイヘドモ。惡心未ダ除カザレバ。今三途ノ苦患ヲ見セテ。速カニ菩提心ヲ起サシメンガ為ニ。具シテ來レリトテ。刀山劔樹鑊湯爐炭灰河糞屎銅柱鐵床ノ報。一百三十六地獄ノ苦相ヲ見セ

シメ玉ヘバ。此ノ僧身ノ毛豎チテ惡心ヲ斷ジ勇猛ノ菩提心ヲ起ス。時ニ化人即チ地藏菩薩ト成テ。善哉々々自今已後只今ノ心ヲ退スルコトナカレ。必ズ仏土ニ生ジテ證果スベシト。宣フト思ヘバ夢サメヌ。僧大ニ啼泣シテ信心怠ラズ。精進ニ勤修シテ。臨終正念ニ密嚴佛國ニ往生ストイヘリ。○又山ノ堂ノ地藏尊ハ。高祖大師ノ御作ナリ。昔シ貧僧アリ。毎夜此尊像ニ參籠シテ。福ヲ祈リシカバ。或時菩薩ノ御手ヨリ如意寶珠ヲ授ケ玉フト夢ミテ後。衣服財貨穀米珍寶庫藏ニ充溢セリ。サレバ振古富テ驕ラザルモノマレナレバ。此僧モ後ニハ心懈リ。放逸ニシテ奢後ヲ極メケルホドニ。菩薩夢ニ見サセ玉ヒ告玉ハク。汝ニ世福ヲ與ヘヌレバ。未來ノ苦果ヲ忘レテ。懈怠緩慢ニシテ種々ノ惡業ヲ造ル

如何ニ無上菩提ヲ求メザルヤトテ。宝珠ヲ取リ還シ玉フト
思フニ。其ヨリ後忽ニ貧乏ニナリ。大ニ愧悔ミテ勇猛ノ菩提
心ヲ起シ進修シテ。安祥正念ニ往生淨土ノ素懷ヲ遂ト
イヘリ。已上最勝院ヨリ以來ノ六尊ヲ。高野山ノ六地藏
ト号ス。具ニ八通念集ニ記セリ。○又何レノ寺ニカアリケン。金銀
ヲ蓄ヘタル僧アリ。豪客是ヲ知テ。五七人夷中ノ參詣人
ナリト偽リ。寺ニ來リケレバ。住持甚悦ビ。水風呂ヲ沸シテ
入シムルニ。彼ガ曰ク。先院家様浴シ玉ヘトテ。捉ヘテ押込蓋
シテ。上ニ大石ヲ重テ置テ下ヨリ熾リニ火ヲ燒キ。光棍等
藏ヲ開イテ財宝ヲ奪ヒ取ント。ヒシメキケルヲ。院主ハ衾
カフリテ臥セラレシカ。私ニ此ヲ見テ驚キ恐レテ。至心ニ本
尊ヲ念ジ隣寺ニ走り往テ告ルニ。諸人來リ集リケレバ。

光棍等畏レテ。空シク逃去リヌ。後ニ水風呂ヲ見レバ蓋シテ
石ヲ重テネタリ。怪ニテ開キ見レバ。中ニ本尊地藏菩薩ノ
木像アリ。是ニ於テ察スルニ。賊ハ院主ヲ捉ヘテ押込ト思ヒ
シニ。本尊身代リニ立玉ヘルコト。疑ヒナシト。其ヨリ湯入ノ地
藏ト号シ。諸人禮拜シ供養シ奉ルトイヘリ。寺ノ名モ聞シカ
ト今ハ忘レタリ。○又奥ノ院ノ汗流地蔵ハ。毎日巳午ノ刻
ニハ遍體ニ汗ヲ流シ玉フ。其故ヲ知リガタシ。○又泉州堺ノ
邑囿ノ外廓ニ石地藏アリ。誰人ノ造レリト云コトヲ知ス。
罪人死刑ニ逢ベキノ前日ニハ。必ズ遍體ニ汗シ玉フニ依テ。
獄中ノ人悲ミ歎イテ。至心ニ念仏スルニ。果シテ翌日刑セ
ラル、者アリトイヘリ。奥ノ院ノ石像モ。地獄ニ遊化シテ。其ノ
劇苦ヲ悲シミ憂惱シ玉フ故ニ。汗カキ玉フナルベシ。サレバ因位

如何ニ無上菩提ヲ求メザルヤトテ。宝珠ヲ取リ還シ玉フト
思フニ。其ヨリ後忽ニ貧乏ニナリ。大ニ愧悔ミテ勇猛ノ菩提
心ヲ起シ進修シテ。安祥正念ニ往生淨土ノ素懷ヲ遂ト
イヘリ。已上最勝院ヨリ以來ノ六尊ヲ。高野山ノ六地藏
ト号ス。具ニ八通念集ニ記セリ。○又何レノ寺ニカアリケン。金銀
ヲ蓄ヘタル僧アリ。豪客是ヲ知テ。五七人夷中ノ參詣人
ナリト偽リ。寺ニ來リケレバ。住持甚悦ビ。水風呂ヲ沸シテ
入シムルニ。彼ガ曰ク。先院家様浴シ玉ヘトテ。捉ヘテ押込蓋
シテ。上ニ大石ヲ重テ置テ下ヨリ熾リニ火ヲ燒キ。光棍等
藏ヲ開イテ財宝ヲ奪ヒ取ント。ヒシメキケルヲ。院主ハ衾
カフリテ臥セラレシカ。私ニ此ヲ見テ驚キ恐レテ。至心ニ本
尊ヲ念ジ隣寺ニ走り往テ告ルニ。諸人來リ集リケレバ。

光棍等畏レテ。空シク逃去リヌ。後ニ水風呂ヲ見レバ蓋シテ
石ヲ重テネタリ。怪ニテ開キ見レバ。中ニ本尊地藏菩薩ノ
木像アリ。是ニ於テ察スルニ。賊ハ院主ヲ捉ヘテ押込ト思ヒ
シニ。本尊身代リニ立玉ヘルコト。疑ヒナシト。其ヨリ湯入ノ地
藏ト号シ。諸人禮拜シ供養シ奉ルトイヘリ。寺ノ名モ聞シカ
ト今ハ忘レタリ。○又奥ノ院ノ汗流地蔵ハ。毎日巳午ノ刻
ニハ遍體ニ汗ヲ流シ玉フ。其故ヲ知リガタシ。○又泉州堺ノ
邑囿ノ外廓ニ石地藏アリ。誰人ノ造レリト云コトヲ知ス。
罪人死刑ニ逢ベキノ前日ニハ。必ズ遍體ニ汗シ玉フニ依テ。
獄中ノ人悲ミ歎イテ。至心ニ念仏スルニ。果シテ翌日刑セ
ラル、者アリトイヘリ。奥ノ院ノ石像モ。地獄ニ遊化シテ。其ノ
劇苦ヲ悲シミ憂惱シ玉フ故ニ。汗カキ玉フナルベシ。サレバ因位

ニ聖女。光目女トシテ。亡母ノ地獄ノ苦ヲ救ヒテ。僧那ヲ起シ
玉フナレバ。地藏本願經ヲ。釋門ノ孝經ナリト判ゼリ。故ニ父
母師長ニ孝ヲ盡セル人ヲ。別テ愛愍加護シ玉フトイヘリ

佛孝ヲ説キ玉フ事

儒ニ孝ハ百行ノ本ト言ヒ。至德要道トイヘリ。五帝三王周
公孔子ハ唯孝ヲ教ルヲ本トセリ。釋氏ノ孝。彌廣大ナリ。佛成
道ノ最初ニ華嚴經ヲ説キ玉フ。其ノ始ノ梵網經ハ孝順父
母師僧三寶。孝名ヲ戒亦名制止ト説キ。觀經ハ孝養父
母奉事師長ト説ケリ。心地觀經ニ四恩ヲ説クニ。父母之恩
ヲ廣大ナリトイヘリ。凡ソ一代説教ノ中ニ孝ヲ説ク無量
ナリ。又佛成道ノ後ニ。悲母ノ恩ヲ報センガ爲ニ。一夏九旬
忉利天ニ居テ。摩耶夫人ノ爲ニ説法シ玉フ。此ヲ大報恩

ニ聖女。光目女トシテ。亡母ノ地獄ノ苦ヲ救ヒテ。僧那ヲ起シ
玉フナレバ。地藏本願經ヲ。釋門ノ孝經ナリト判ゼリ。故ニ父
母師長ニ孝ヲ盡セル人ヲ。別テ愛愍加護シ玉フトイヘリ